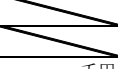


基本計画書

基本計画										
事項		記入欄							備考	
計画の区分		研究科の専攻の設置								
フリガナ 設置者		コクリツダ'イ'クホジ'ン エヒメ'イ'ク 国立大学法人 愛媛大学								
フリガナ 大学の名称		エヒメ'イ'クダ'イ'ク'イン 愛媛大学大学院 (Graduate School of Ehime University)								
大学本部の位置		愛媛県松山市道後樋又10番13号								
大学の目的		愛媛大学は、学術の一中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって文化の創造と発展に貢献することを目的とする。								
新設研究科等の目的		本課程の基本理念は、人文社会科学の深化と融合によって創出される「総合知」を基盤とし、地域課題に対して新たな「意味的価値」を共創し、社会に実装できる高度専門人材を養成することにある。 人口減少・高齢化、若年層流出、産業の担い手不足、DX/GX、社会インフラ更新、空き家問題、文化資源の継承など、全国に先んじて複合的課題が顕在化する四国・愛媛を「課題先進地」と捉え、単一分野では解決が困難な社会課題に学術的に挑むことを目的とする。人文社会科学の多様な知を横断して研究を深化させ、先端技術の社会受容を支える制度設計や倫理的課題（ELSI）への対応、歴史・文化の再評価による意味的価値の創出を通じて、理論と現場を往還しながら解決策を提示・実装できる人材を養成する。さらに、行政・産業界・地域との協働により研究成果の社会還元を強化し、地域に不足する人文社会科学系博士後期課程の空白を補い、知的拠点としての機能を高める。								
新設研究科等の概要	新設研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 人文社会科学 研究科法文学専攻 （博士前期課程） 人文社会科学 研究科産業システム 創成専攻（博士 前期課程） 法文学部 社会共創学部 14条特例の実施
	人文社会科学研究科 （Graduate School of Humanities and Social Sciences）	年	人	年次 人	人			年 月 第 年次		
	人文社会科学専攻 （博士後期課程） （Division of Humanities and Social Sciences）	3	5	-	15	博士（学術） （Doctor of Philosophy）	文学関係 法学関係 経済学関係	令和9年4 月 第1年次	愛媛県松山市文 京町3番	
計			5	-	15					
同一設置者内における 変更状況 （定員の移行、名称の 変更等）		研究科等連係課程実施基本組織 アドバンストソーシャルマネジメント学環（5）（令和8年4月事前相談予定） 理工学研究科 理工学専攻（博士前期課程）〔定員増〕（5）（令和9年4月） 令和9年4月名称変更予定 人文社会科学研究科 法文学専攻（修士課程）→法文学専攻（博士前期課程） 産業システム創成専攻（修士課程）→産業システム創成専攻（博士前期課程）								
教育課程	新設研究科等の名称	開設する授業科目の総数						修了要件単位数		
		講義		演習		実験・実習				
		人文社会科学研究科 人文社会科学専攻 （博士後期課程）	2 科目		1 科目		0 科目		3 科目	

研究科等の名称		専任教員					助手	専任教員以外の教員 (助手を除く)	
		教授	准教授	講師	助教	計			
		人	人	人	人	人	人	人	
新設分	人文社会科学研究科 人文社会科学専攻（博士後期課程）	16 (16)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	0 (0)	令和8年4月 事前相談予定 (注) <>の中の数は 研究科等連係課程 実施基本組織のみに 従事する専任教員。 【】の中の数は 研究科等連係課程 実施基本組織と連係協力 研究科等を兼ねる教員 の数。
	研究科等連係課程実施基本組織 アドバンストソーシャルマネジメント学環	<0> 【16】 (16)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<0> 【16】 (16)	<0> 【0】 (0)	<0> 【2】 (2)	
	連係協力研究科（Ⅰ） 理工学研究科 理工学専攻（博士後期課程）								
	連係協力研究科（Ⅱ） 連合農学研究科 生物資源生産学専攻（博士課程） 生物資源利用学専攻（博士課程） 生物環境保全学専攻（博士課程）								
分	連係協力研究科（Ⅲ） 医学系研究科 医学専攻（博士課程） 看護学専攻（博士後期課程）								
	計	16 (16)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	－ (－)	
既設分	人文社会科学研究科 法文学専攻（博士前期課程）	28 (28)	23 (23)	0 (0)	0 (0)	51 (51)	0 (0)	60 (60)	
	人文社会科学研究科 産業システム創成専攻（博士前期課程）	11 (11)	14 (14)	2 (2)	1 (1)	28 (28)	0 (0)	57 (57)	
	教育学研究科 心理発達臨床専攻（修士課程）	5 (5)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	1 (1)	
	教育学研究科 教育実践高度化専攻（専門職学位課程）	27 (27)	11 (11)	3 (3)	0 (0)	41 (41)	0 (0)	33 (33)	
	医学系研究科 医学専攻（博士課程）	52 【1】 (52)	60 【0】 (60)	18 【0】 (18)	21 【0】 (21)	151 【0】 (151)	0 【0】 (0)	199 【0】 (199)	
	医学系研究科 看護学専攻（博士前期課程）	11 (11)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	9 (9)	
	医学系研究科 看護学専攻（博士後期課程）	11 【2】 (11)	1 【0】 (1)	2 【0】 (2)	0 【0】 (0)	14 【0】 (14)	0 【0】 (0)	1 【0】 (0)	
	理工学研究科 理工学専攻（博士前期課程）	87 (87)	63 (63)	11 (11)	18 (18)	179 (179)	0 (0)	6 (6)	
	理工学研究科 理工学専攻（博士後期課程）	87 【11】 (87)	55 【0】 (55)	3 【0】 (3)	3 【0】 (3)	148 【0】 (148)	0 【0】 (0)	37 【0】 (0)	
	農学研究科 食料生産学専攻（修士課程）	13 (13)	17 (17)	1 (1)	4 (4)	35 (35)	0 (0)	2 (2)	
	農学研究科 生命機能学専攻（修士課程）	6 (6)	7 (7)	0 (0)	5 (5)	18 (18)	0 (0)	0 (0)	
	農学研究科 生物環境学専攻（修士課程）	16 (16)	17 (17)	1 (1)	1 (1)	35 (35)	0 (0)	1 (0)	
	連合農学研究科 生物資源生産学専攻（博士課程）	29 【1】 (29)	29 【0】 (29)	2 【0】 (2)	2 【0】 (2)	62 【0】 (62)	0 【0】 (0)	3 【0】 (0)	
	連合農学研究科 生物資源利用学専攻（博士課程）	37 【1】 (37)	15 【0】 (15)	3 【0】 (3)	6 【0】 (6)	61 【0】 (61)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	
	連合農学研究科 生物環境保全学専攻（博士課程）	28 【0】 (28)	10 【0】 (10)	4 【0】 (4)	0 【0】 (0)	42 【0】 (42)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	
	研究科等連係課程実施基本組織 医農融合公衆衛生学環（修士課程）	24 (24)	5 (5)	2 (2)	1 (1)	32 (32)	0 (0)	0 (0)	
	研究科等連係課程実施基本組織 地域レジリエンス学環（修士課程）	17 (17)	13 (13)	1 (1)	0 (0)	31 (31)	0 (0)	1 (0)	
	計	398 【16】 (398)	280 【0】 (280)	48 【0】 (48)	57 【0】 (57)	783 【16】 (783)	0 【0】 (0)	－ 【－】 (－)	
合 計		398 (398)	280 (280)	48 (48)	57 (57)	783 (783)	0 (0)	－ (－)	

職 種			専 属		その他		計		大学全体		
事 務 職 員			364 (364)		348 (348)		712 (712)				
技 術 職 員			523 (523)		148 (148)		671 (671)				
図 書 館 職 員			18 (18)		0 (0)		18 (18)				
そ の 他 の 職 員			1 (1)		620 (620)		621 (621)				
指 導 補 助 者			0 (0)		0 (0)		0 (0)				
計			906 (906)		1,116 (1,116)		2,022 (2,022)				
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計		大学全体
	校 舎 敷 地		401,011 m ²		0 m ²		0 m ²		401,011 m ²		
	そ の 他		4,257,149 m ²		0 m ²		0 m ²		4,257,149 m ²		
	合 計		4,658,160 m ²		0 m ²		0 m ²		4,658,160 m ²		
校 舎			専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計		大学全体
			221,937 m ² (221,937 m ²)		0 m ² (0 m ²)		0 m ² (0 m ²)		221,937 m ² (221,937 m ²)		
講義室等・新設研究科等 の専任教員研究室			講義室		実験・実習室		演習室		新設研究科等の 専任教員研究室		大学全体
			135 室		413 室		156 室		21 室		
図 書 ・ 設 備	新設研究科等の名称		図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		電子ジャーナル 〔うち外国書〕		機械・器具	標本	学部等単位での 特定不能なた め、大学全体の 数
			冊	電子図書 〔うち外国書〕	種	〔うち外国書〕	点	点			
	人文社会科学研究科		1,130,671 [320,799] (1,130,671 [320,799])	3,963 [1,308] (3,963 [1,308])	25,863 [10,040] (25,863 [10,040])	6,405 [4,665] (6,405 [4,665])	12,386 (12,386)	1 (1)			
	計		1,130,671 [320,799] (1,130,671 [320,799])	3,963 [1,308] (3,963 [1,308])	25,863 [10,040] (25,863 [10,040])	6,405 [4,665] (6,405 [4,665])	12,386 (12,386)	1 (1)			
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費 の見 積り	区 分		開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	国費（運営費交 付金）による	
		教員1人当り研究費等			- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円		
		共同研究費等			- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円		
		図書購入費			- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円		
		設備購入費			- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円		
	学生1人当り 納付金				第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次		
				- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			-								

大 学 等 の 名 称	愛媛大学								
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	収 容 定 員 充 足 率	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
法文学部						1.07 《1.03》			
人文社会学科 昼間主コース	4	275	3年次 10	1,120	学士 (法学・政策学、 学術、人文学)	1.05 《1.02》	平成28	愛媛県松山市文京 町3番	
人文社会学科 夜間主コース	4	90	3年次 20	400	学士 (法学・政策学、 学術、人文学)	1.14 《1.07》	平成28	同上	
教育学部						1.07 《1.05》			
学校教育教員養成課 程	4	160	-	640	学士 (教育学)	1.07 《1.05》	平成11	愛媛県松山市文京 町3番	
社会共創学部						1.08 《1.04》			
産業マネジメント学 科	4	70	-	280	学士 (社会共創学)	1.09 《1.06》	平成28	愛媛県松山市文京 町3番	
産業イノベーション 学科	4	25	-	100	学士 (社会共創学)	1.05 《1.01》	平成28	同上	
環境デザイン学科	4	35	-	140	学士 (社会共創学)	1.05 《1.01》	平成28	同上	
地域資源マネジメント 学科	4	50	-	200	学士 (社会共創学)	1.10 《1.06》	平成28	同上	
理学部						1.13 《1.06》			
理学科	4	225	-	900	学士 (理学)	1.12 《1.06》	平成31	愛媛県松山市文京 町2番5号	
医学部						1.00 《0.98》			
医学科	6	110	2年次 5	685	学士 (医学)	1.02 《1.00》	昭和48	愛媛県東温市志津 川454	令和8年度入学 定員増(15人)
看護学科	4	60	3年次 10	260	学士 (看護学)	0.97 《0.95》	平成6	同上	
工学部						1.08 《1.03》			
工学科	4	530	3年次 10	2,080	学士 (工学)	1.08 《1.02》	平成31	愛媛県松山市文京 町3番	令和6年度より 入学定員増(30 人)
農学部						1.10 《1.07》			
食料生産学科	4	70	3年次 5	290	学士 (農学)	1.12 《1.08》	平成28	愛媛県松山市樽味 3丁目5番7号	
生命機能学科	4	45	3年次 2	184	学士 (農学)	1.07 《1.05》	平成28	同上	
生物環境学科	4	55	3年次 3	226	学士 (農学)	1.09 《1.07》	平成28	同上	

既設大学等の状況	人文社会科学研究科									
	(修士課程)									
	法文学専攻	2	12	-	24	修士 (法学、人文学)	0.78 《0.75》	令和2	愛媛県松山市文京町3番	地域レジリエンス学環の内数とする入学定員数
			【1】		【2】					
	産業システム創成専攻	2	8	-	16	修士 (経済学、学術)	0.78 《0.64》	令和2	同上	地域レジリエンス学環の内数とする入学定員数
			【1】		【2】					
	教育学研究科									
	(修士課程)									
	心理発達臨床専攻	2	10	-	20	修士 (臨床心理学)	1.15 《1.10》	令和2	愛媛県松山市文京町3番	
	(専門職学位課程)									
	教育実践高度化専攻	2	40	-	80	教職修士 (専門職)	1.17 《1.17》	令和2	同上	
	医学系研究科									
	(博士課程)									
	医学専攻	4	30	-	120	博士 (医学)	1.25 《1.04》	平成18	愛媛県東温市志津川454	
	(博士前期課程)									
	看護学専攻	2	12	-	24	修士 (看護学)	1.11 《0.90》	平成10	同上	医農融合公衆衛生学環の内数とする入学定員数
			【2】		【4】					
	(博士後期課程)									
	看護学専攻	3	2	-	6	博士 (看護学)	1.62 《1.25》	令和2	同上	
	理工学研究科									
	(博士前期課程)									
	理工学専攻	2	270	-	540	修士 (理学、工学、数理情報学)	1.12 《1.11》	令和5	愛媛県松山市文京町3番	令和6年度より入学定員増(20人)
			【2】		【4】					地域レジリエンス学環の内数とする入学定員数
	(博士後期課程)									
	理工学専攻	3	23	-	69	博士 (理学、工学、数理情報学)	1.07 《1.07》	令和5	同上	

農学研究科									
(修士課程)									
食料生産学専攻	2	26	－	52	修士 (農学)	1.02 《0.97》	平成28	愛媛県松山市樽味 3丁目5番7号	医農融合公衆衛生学環の内数とする入学定員数 地域レジリエンス学環の内数とする入学定員数
		【1】		【2】					
		【1】		【2】					
生命機能学専攻	2	23	－	46	修士 (農学)	1.32 《1.32》	平成28	同上	
生物環境学専攻	2	23	－	46	修士 (農学)	1.03 《1.02》	平成28	同上	
		【2】		【4】					
		【1】		【2】					
連合農学研究科									
(博士課程)									
生物資源生産学専攻	3	9	－	27	博士 (農学、学術)	1.28 《1.24》	昭和60	愛媛県松山市樽味 3丁目5番7号	医農融合公衆衛生学環の内数とする入学定員数 地域レジリエンス学環の内数とする入学定員数
生物資源利用学専攻	3	4	－	12	博士 (農学、学術)	1.33 《1.25》	昭和60	同上	
生物環境保全学専攻	3	4	－	12	博士 (農学、学術)	1.83 《1.58》	昭和60	同上	
研究科等連係課程実施 基本組織									
(修士課程)									
医農融合公衆衛生学環	2	5	－	10	修士 (公衆衛生学)	1.15 《0.93》	令和4	愛媛県東温市志津 川454	
地域レジリエンス学環	2	6	－	12	修士 (学術)	1.44 《1.12》	令和5	愛媛県松山市文京 町3番	

附属施設の概要	名称：医学部附属病院 目的：医学教育、研究及び診療 所在地：愛媛県東温市志津川 4 5 4 設置年月：昭和51年5月 規模等：建物面積 72,336㎡	
	名称：教育学部附属幼稚園 目的：幼児教育、研究及び教員養成 所在地：愛媛県松山市持田町1丁目5番22号 設置年月：昭和24年5月 規模等：建物面積 1,115㎡	
	名称：教育学部附属小学校 目的：児童教育、研究及び教員養成 所在地：愛媛県松山市持田町1丁目5番22号 設置年月：昭和24年5月 規模等：建物面積 5,700㎡	
	名称：教育学部附属中学校 目的：生徒教育、研究及び教員養成 所在地：愛媛県松山市持田町1丁目5番22号 設置年月：昭和24年5月 規模等：建物面積 7,121㎡	
	名称：教育学部附属特別支援学校 目的：特別支援教育、研究及び教員養成 所在地：愛媛県松山市持田町1丁目5番22号 設置年月：昭和47年4月 規模等：建物面積 3,202㎡	
	名称：愛媛大学附属高等学校 目的：高等普通教育及び専門教育、研究、教育実習 所在地：愛媛県松山市樽味3丁目2番40号 設置年月：平成20年4月 規模等：建物面積 13,785㎡	
	名称：農学部附属農場 目的：農学の理論を探究しつつ、応用技術を総合化する研究及び学生生徒の実験実習 所在地：愛媛県松山市八反地甲498番地 設置年月：昭和29年4月 規模等：土地面積 187,722㎡	
	名称：農学部附属演習林 目的：森林・林業に関する研究及び学生生徒の実験実習 所在地：愛媛県松山市大井野町乙145番2 設置年月：昭和32年9月 規模等：土地面積 3,838,905㎡	

- (注)
- 1 共同教育課程の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設研究科等の目的」、「新設研究科等の概要」、「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
 - 2 「既設分」については、共同教育課程に係る数を除いたものとする。
 - 3 私立の大学院の研究科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「講義室等・新設研究科等の専任教員研究室」、及び「図書・設備」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
 - 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「講義室等・新設研究科等の専任教員研究室」、「図書・設備」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
 - 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
 - 6 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要																
(人文社会科学研究科人文社会科学専攻 博士後期課程)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教 員 以 外 の 教 員	
専攻 共通 科目	人文社会科学展望 研究者倫理・アカデミックスキル	1前 1前	/	1 1			○ ○			5 4	1 1					オムニバース・メテア オムニバース・メテア
	小計（2科目）	—	—	2			—		8	1						
研究 指導 科目	博士特別研究	1後～3通	/	10			○		16	5						メテア
	小計（1科目）	—	—	10			—		16	5						
合計（3科目）		—	—	12			—		16	5						
学位又は称号		博士（学術）		学位又は学科の分野				文学関係・法学関係・経済学関係								
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等							
・3年以上在学し、12単位以上を修得すること。 ・専攻共通科目（必修）「人文社会科学展望」及び「研究者倫理・アカデミックスキル」を修得すること。 ・必要な研究指導を受けた上、学位論文を提出してその審査及び最終試験に合格すること。									1 学年の学期区分				2 学期			
									1 学期の授業期間				1 5 週			
									1 時限の授業の標準時間				9 0 分			

（注）

- 学部等，研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 「主要授業科目」の欄は，授業科目が主要授業科目に該当する場合，欄に「○」を記入すること。なお，高等専門学校の学科を設置する場合は，「主要授業科目」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 「単位数」の欄は，各授業科目について，「必修」，「選択」，「自由」のうち，該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は，各授業科目について，該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし，専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち，臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を，連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員等」と読み替えること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し，若しくは変更する場合は，次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には，当該専門職大学の全課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え，前期課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には，当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え，当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には，当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え，前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 高等専門学校の学科を設置する場合は，高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については，備考欄に「☆」を記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要																
(人文社会科学研究科法文学専攻博士前期課程)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 (助 手 を 除 く) の 教 員	
大学 院 共 通 教 育 科 目	教授法入門—専門分野の学識を教授するために	1前			1			○								3
	リーダーシップ論	1前			1			○								2
	プロジェクトマネジメント概論	1前			1			○								1
	インクルーシブ社会実現に向けて	1後			1			○		1						3
	Interactive Seminars on Educational Studies	1前			1				○							7
	SDGs概論	1前			1			○		1						7
	大学院生のためのスキルアップ教育実習	1通			1				○							2
	学校と地域の連携による学びの支援	1前			2			○								1
	看護研究方法論	1前			2			○								5
	研究倫理特論	1通			1			○								1
	農学最先端研究	1後			2			○								8
	環境・食品衛生学概論	1前			1			○								10
	総合農学概論	1後			1			○								1
	小計（13科目）	—	—		16			—		1	0	0	0	0	46	—
研 究 科 基 礎 科 目	人文社会科学総合（法学）	1後			1			○		2	6					9
	人文社会科学総合（人文学）	1後			1			○		3						
	人文社会科学総合（地域産業社会）	1前			1			○								
	研究フィールド実践	1通			1				○	28						
	小計（4科目）	—	—	0	4	0		—		28	6	0	0	0	9	—
専 攻 科 目 基 礎	法文学研究基礎	1前		1				○		4	1					—
	小計（1科目）	—	—	1	0	0		—		4	1	0	0	0	0	
専 門 科 目 （ 講 義 系）	法 学 コ ー ス	公法特殊講義Ⅰ			2			○		1						1
		公法特殊講義Ⅱ			2			○								
		公法特殊講義Ⅳ			2			○			1					1
		民事法特殊講義Ⅰ			2			○			1					
		民事法特殊講義Ⅱ			2			○								
		民事法特殊講義Ⅲ			2			○			1					
		民事法特殊講義Ⅳ			2			○		1						
		民事法特殊講義Ⅴ			2			○			1					
		刑事法特殊講義Ⅰ			2			○			1					
		応用法特殊講義Ⅰ			2			○		1						
		応用法特殊講義Ⅱ			2			○		1						
		国際関係法特殊講義Ⅰ			2			○		1						
		政治学特殊講義Ⅰ			2			○			1					
		政治学特殊講義Ⅱ			2			○		1						
		政治学特殊講義Ⅲ			2			○		1						
		政治学特殊講義Ⅳ			2			○		1						
		政治学特殊講義Ⅴ			2			○		1						
		政治学特殊講義Ⅵ			2			○		1						
		政治学特殊講義Ⅶ			2			○			1					
		政治学特殊講義Ⅷ			2			○			1					
		政治学特殊講義Ⅸ			2			○			1					
		小計（21科目）	—	—	0	42	0	—		10	9	0	0	0	2	—

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員	
専門科目（講義系）	人文学コース	哲学思想史研究	1前		2		○				1	1				
		人間存在論研究	1前		2		○			1						
		倫理思想史研究	1前		2		○				1					
		美学美術史研究	1前		2		○				1					
		認知心理学研究	1前		2		○			1						
		社会文化論研究	1前		2		○			1						
		社会人間論研究	1前		2		○				1					
		地域システム論研究	1前		2		○			1						
		自然環境論研究	1前		2		○				1					
		東アジア考古学研究	1前		2		○			1						
		アジア考古学研究	1前		2		○				1					
		日本歴史構造論研究	1前		2		○					1				
		日本歴史文化論研究	1前		2		○			1						
		日本歴史交流論研究	1前		2		○				1					
		アジア歴史文化論研究	1前		2		○			1						
		アジア社会史研究	1前		2		○			1						
		ヨーロッパ歴史文化論研究	1前		2		○			1						
		認知言語学研究	1前		2		○				1					
		現代日本語論研究	1前		2		○			1						
		日本古典文学研究	1前		2		○								1	
		日本中世文学研究	1前		2		○			1						
		日本芸能史研究	1前		2		○			1						
		日本近現代文学研究	1前		2		○			1						
		中国思想史研究	1前		2		○								1	
		中国古典文学研究	1前		2		○			1						
		朝鮮言語文化論研究	1前		2		○			1						
		イギリス近現代文学研究	1前		2		○				1					
		英米言語文化論研究	1前		2		○				1					
		英米コミュニケーション論研究	1前		2		○								1	
		アメリカ現代文学論研究	1前		2		○								1	
		英語動態論研究	1前		2		○			1						
		英語習得論研究	1前		2		○			1						
		ドイツ言語文化研究	1前		2		○				1					
		ドイツ語学研究	1前		2		○				1					
		フランス近現代文学研究	1前		2		○				1					
		フランス言語文化研究	1前		2		○			1						
		小計（36科目）	—	—	0	72	0	—	—	18	14	0	0	0	4	—
専門科目（演習系）	法学コース	公法研究演習Ⅱ	1後		2			○		1						
		公法研究演習Ⅳ	1後		2			○			1					
		民事法研究演習Ⅰ	1後		2			○			1					
		民事法研究演習Ⅲ	1後		2			○				1				
		民事法研究演習Ⅳ	1後		2			○		1						
		民事法研究演習Ⅴ	1後		2			○			1					
		刑事法研究演習Ⅰ	1後		2			○			1					
		応用法研究演習Ⅰ	1後		2			○		1						
		応用法研究演習Ⅱ	1後		2			○		1						
		国際関係法研究演習Ⅰ	1後		2			○		1						
		政治学研究演習Ⅰ	1後		2			○			1					
		政治学研究演習Ⅱ	1後		2			○		1						
		政治学研究演習Ⅲ	1後		2			○		1						
		政治学研究演習Ⅳ	1後		2			○		1						
		政治学研究演習Ⅴ	1後		2			○		1						
		政治学研究演習Ⅵ	1後		2			○		1						
		政治学研究演習Ⅶ	1後		2			○			1					
		政治学研究演習Ⅷ	1後		2			○				1				
		政治学研究演習Ⅸ	1後		2			○				1				
		法務プロジェクト演習Ⅰ	1前		2			○		5	5					
		法務プロジェクト演習Ⅱ	1後		2			○		5	5					
		政策プロジェクト演習Ⅰ	1前		2			○		5	4					
		政策プロジェクト演習Ⅱ	1後		2			○		5	4					
		小計（23科目）	—	—	0	46	0	—	—	10	9	0	0	0	0	—

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹 教員（助手を除く） 以外の教員		
専門科目（演習系）	人文学コース	哲学思想史研究演習	1後			2				○			1					
		人間存在論研究演習	1後			2				○		1						
		倫理思想史研究演習	1後			2				○			1					
		美学美術史研究演習	1後			2				○			1					
		認知心理学研究演習	1後			2				○		1						
		社会文化論研究演習	1後			2				○		1						
		社会人間論研究演習	1後			2				○			1					
		地域システム論研究演習	1後			2				○		1						
		自然環境論研究演習	1後			2				○			1					
		東アジア考古学研究演習	1後			2				○		1						
		アジア考古学研究演習	1後			2				○			1					
		日本歴史構造論研究演習	1後			2				○			1					
		日本歴史文化論研究演習	1後			2				○		1						
		日本歴史交流論研究演習	1後			2				○			1					
		アジア歴史文化論研究演習	1後			2				○		1						
		アジア社会史研究演習	1後			2				○		1						
		ヨーロッパ歴史文化論研究演習	1後			2				○		1						
		認知言語学研究演習	1後			2				○			1					
		現代日本語論研究演習	1後			2				○		1						
		日本古典文学研究演習	1後			2				○							1	
		日本中世文学研究演習	1後			2				○		1						
		日本芸能史研究演習	1後			2				○		1						
		日本近現代文学研究演習	1後			2				○		1						
		中国思想史研究演習	1後			2				○							1	
		中国古典文学研究演習	1後			2				○		1						
		朝鮮言語文化論研究演習	1後			2				○		1						
		イギリス近現代文学研究演習	1後			2				○				1				
		英米言語文化論研究演習	1後			2				○				1				
		英米コミュニケーション論研究演習	1後			2				○							1	
		アメリカ現代文学論研究演習	1後			2				○							1	
		英語動態論研究演習	1後			2				○		1						
		英語習得論研究演習	1後			2				○		1						
		ドイツ言語文化研究演習	1後			2				○				1				
		ドイツ語学研究演習	1後			2				○				1				
		フランス近現代文学研究演習	1後			2				○				1				
		フランス言語文化研究演習	1後			2				○		1						
		小計（36科目）	—	—	0	72	0	—			18	14	0	0	0	4	—	
研究指導	法学コース	法律学研究指導 1	2前			2				○		5						
		法律学研究指導 2	2後			2			○		5							
		政治学研究指導 1	2前			2			○		5							
		政治学研究指導 2	2後			2			○		5							
			小計（4科目）	—	—	0	8	0	—			10	0	0	0	0	0	—
	人文学コース	人間文化研究指導 1	2前			2				○		9						
		人間文化研究指導 2	2後			2			○		9							
言語文化研究指導 1		2前			2			○		9								
言語文化研究指導 2		2後			2			○		9								
		小計（4科目）	—	—	0	8	0	—			18	0	0	0	0	0	—	
アキヤ 形成 科目	インターンシップ	1通			2					○	1	1					共同（事前・事後指導を含む）	
	小計（1科目）	—		—	0	2	0	—			1	1	0	0	0	0	—	
		合計（143科目）	—	—	1	270	0	—			28	23	0	0	0	60	—	

学位又は称号	修士（法学）、修士（人文学）	学位又は学科の分野	法学関係、文学関係
卒業・修了要件及び履修方法			授業期間等
修了要件：修士課程に2年以上在学して、所定の授業科目のなかから30単位以上を修得し、かつ学位論文を提出して、その審査及び最終試験（口頭試験を含む）に合格することとする。また、学位論文の提出に関しては、研究科委員会が適当と認める場合は、特定の課題についての研究成果であるリサーチペーパーをもって代えることができる。			1 学年の学期区分
			2 学期
			1 学期の授業期間
			1 5 週
			1 時限の授業の標準時間
			9 0 分
履修方法： 【法学コース】 大学院共通教育科目から選択必修として1単位以上、研究科基礎科目から選択必修として3単位以上、専攻基礎科目から必修として1単位を修得すること。 法学コースの専門科目から選択必修として12単位以上を修得すること。 本専攻の専門科目（講義系・演習系）及びキャリア形成科目から5単位以上を修得すること。（他専攻の専門科目及び大学院共通教育科目を5単位まで充当できるものとする） 指導教員の担当する専門科目（演習系）の研究演習またはプロジェクト演習4単位と研究指導4単位を必修として修得すること。 【人文学コース】 大学院共通教育科目から選択必修として1単位以上、研究科基礎科目から選択必修として3単位以上、専攻基礎科目から必修として1単位を修得すること。 人文学コースの専門科目から選択必修として12単位以上を修得すること。 本専攻の専門科目（講義系・演習系）及びキャリア形成科目から5単位以上を修得すること。（他専攻の専門科目及び大学院共通教育科目を5単位まで充当できるものとする） 指導教員の担当する専門科目（演習系）の研究演習4単位と研究指導4単位を必修として修得すること。			

（注）

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

- 基本計画書 - 13 -

専門科目（理論科目）	環境・資源マネジメントコース	理論基礎科目	自然社会環境論1	1前		1		○				1						
			環境マネジメント1	1前		1		○				1						
			アーバンデザイン論1	1後		1		○				1						
			環境経済学1	1前		1		○				1						
			現代中国事情1	1前		1		○				1						
			健康マネジメント1	1前		1		○				1						
			比較地域論1	1前		1		○				1						
			地理情報システム論1	1後		1		○				1						
			農山漁村社会論1	1後		1		○				1						
			地域組織論1	1前		1		○				1						
			アジア社会発展論1	1前		1		○				1						
			地域マネジメント1	1前		1		○				1						
			観光文化学1	1前		1		○				1						
			文化財学1	1前		1		○				1						
			公共ガバナンス	1後		2		○									1	
		理論応用科目	自然社会環境論2	1前	1		○				1							
			環境マネジメント2	1後	1		○				1							
			アーバンデザイン論2	1後	1		○				1							
			環境経済学2	1前	1		○				1							
			現代中国事情2	1後	1		○				1							
			健康マネジメント2	1前	1		○				1							
			比較地域論2	1前	1		○				1							
			地理情報システム論2	1後	1		○				1							
			農山漁村社会論2	1後	1		○				1							
			地域組織論2	1前	1		○				1							
			アジア社会発展論2	1後	1		○				1							
			地域マネジメント2	1前	1		○				1							
			観光文化学2	1前	1		○				1							
			文化財学2	1前	1		○				1							
小計（29科目）			—	0	30	0	—			3	8	1	1	0	2	—		
専門科目（実践科目）	経済・経営コース	プロジェクト研究	経済理論プロジェクト研究	1後		1		○				1	2					
			市場・流通プロジェクト研究	1後		1		○				1	2					
			財務・金融プロジェクト研究	1後		1		○				1	2					
			経営・管理プロジェクト研究	1後		1		○				3	1					
			情報・数理プロジェクト研究	1後		1		○				3						
			小計（5科目）			—	0	5	0	—			8	5	0	0	0	0
	環境・資源マネジメントコース	プロジェクト研究	環境政策プロジェクト研究	1後		1		○					2					
			ひと・まちづくりプロジェクト研究	1後		1		○				3	1					
			地域資源プロジェクト研究	1後		1		○				2	3	1	1	0	2	
			小計（3科目）			—	0	3	0	—			2	7	1	1	0	2
	演習共通	産業システム創成演習	2後		1				○			11	14	2	1			
		小計（1科目）			—	1	0	0	—			11	14	2	1	0	0	—
キャリア形成科目	実践力育成特論	実践力育成特論	2後		1		○				2	2					オムニバス・共同（一部）	
		インターンシップ実践	2前		1				○		1	2				共同		
		小計（2科目）			—	0	2	0	—			3	3	0	0	0	0	—
研究指導	産業システム創成研究指導	2通		4			○			11	4							
	プロジェクト実践研究	2通		4			○		11	4								
	小計（2科目）			—	0	8	0	—			11	4	0	0	0	0	—	
合計（90科目）			—	4	96	0	—			11	14	2	1	0	57	—		

学位又は称号	修士(経済学)、修士(学術)		学位又は学科の分野	経済学関係
卒業・修了要件及び履修方法				授業期間等
修了要件：修士課程に2年以上在学して、所定の授業科目のなかから30単位以上を修得し、かつ学位論文を提出して、その審査及び最終試験（口頭試験を含む）に合格することとする。また、学位論文の提出に関しては、研究科委員会が適当と認める場合は、特定の課題についての研究成果であるリサーチペーパーをもって代えることができる。			1 学年の学期区分	2 学期
			1 学期の授業期間	1 5 週
			1 時限の授業の標準時間	9 0 分
履修方法： 【経済・経営コース】 必修科目「リーダーシップ論」、「定量分析基礎」、「マネジメント基礎」、「産業システム創成演習」の4単位を修得すること。 研究科基礎科目から3単位以上、研究指導から4単位を修得すること。ただし、研究指導は原則として「産業システム創成研究指導」を履修し、「プロジェクト実践研究」の履修は、社会人特別選抜で入学した学生又は推薦入学特別選抜で入学した社会人学生のみ選択することができる。 専門科目（理論科目）、専門科目（実践科目）及びキャリア形成科目から19単位以上を修得すること。ただし、次のとおりとする。 ・理論基礎科目から4単位以上、理論応用科目から4単位以上、プロジェクト研究科目から1単位以上を修得すること。 ・他コース・他専攻・他研究科の授業科目および大学院共通教育科目の選択科目の修得単位は、併せて6単位まで修了要件単位に含めることができる。 ・プロジェクト研究科目は2単位まで修了要件単位に含めることができる。 【環境・資源マネジメントコース】 必修科目「リーダーシップ論」、「定量分析基礎」、「マネジメント基礎」、「産業システム創成演習」の4単位を修得すること。 研究科基礎科目から3単位以上、研究指導から4単位を修得すること。ただし、研究指導は原則として「産業システム創成研究指導」を履修し、「プロジェクト実践研究」の履修は、社会人特別選抜で入学した学生又は推薦入学特別選抜で入学した社会人学生のみ選択することができる。 専門科目（理論科目）、専門科目（実践科目）及びキャリア形成科目から19単位以上を修得すること。ただし、次のとおりとする。 ・理論基礎科目から4単位以上、理論応用科目から4単位以上、プロジェクト研究科目から1単位以上を修得すること。 ・他コース・他専攻・他研究科の授業科目および大学院共通教育科目の選択科目の修得単位は、併せて6単位まで修了要件単位に含めることができる。 ・プロジェクト研究科目は2単位まで修了要件単位に含めることができる。				

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校学科の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 高等専門学校学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(法文学部人文社会学科 (昼間主コース))																		
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教員以外 の教員			
基 盤 科 目	新入生セミナー	1①②		2			○									10		
	こころと健康	1①		1			○									7		
	スポーツ	1③		1			○									13		
	English Foundation	1①②		1			○			1						12		
	English Communication Strategies	1③④		2				○			1					12		
	社会力入門	1④		1			○									3		
	情報リテラシー入門Ⅰ	1①		1			○									9		
	情報リテラシー入門Ⅱ	1②		1			○									9		
	知的財産入門	1③		1			○			2						8		
	小計(9 科目)	—	—	11	0	0	—	—	—	4	0	1	0	0		83		
考 来 支 援 思 科 目	Beyond SDGs	2④		1			○			1						6		
	未来思考リテラシー	2③		1			○									3		
	小計(2 科目)	—	—	2	0	0	—	—	—	1	0	0	0	0		9		
共 通 教 育 科 目	愛 大 ス タ ン ダ ー ド 科 目	自然	自然法則の探究	1③④		1		○								2		
			宇宙・地球のすがた	1①②		1		○										4
			物質の構造と変化	1①②③④		1		○										8
		技術	技術の力	1①②③④		1		○										9
			科学技術と人間	1①②③④		1		○					1					14
			データリテラシー入門	1①②③④		1		○			1							6
		生命	生命と物質	1①②③④		1		○										4
			生命の営み	1①②③④		1		○										6
			生命を守る	1①②		1		○										1
		人間	多様性と共生	1③④		1		○										6
			ことばの力	1①②③④		1		○			3	2	1					0
			文化・芸術を読み解く	1①②③④		1		○										1
		制度	ビジネスリサーチ	1①②		1		○										3
			政治・経済の考え方	1①②③④		1		○			3	1						6
			なぜ法を知るべきか	1①②③④		1		○			1	3	3					0
		社会	歴史からの問い	1①②③④		1		○			1	1	4					0
			地理から見た世界	1①②		1		○				1						3
			環境と社会	1①②③④		1		○			1	1						13
	小計(18 科目)		—	—	0	18	0	—	—	—	10	9	9	0	0		86	
	愛 大 ブ ラ イ ム 科 目	愛大プライム科目	1①②③④・2①②③④・3①②			1		○			1						34	
愛大プライム科目		1①②③④・2①②③④			2		○									11		
小計(2 科目)		—	—	0	3	0	—	—	—	1	0	0	0	0		45		
課 題 発 見 基 礎 セ ミ ナ ー	課題発見基礎セミナー	1①②③④・2①②③④			1			○		2						14		
	課題発見基礎セミナー	1①②③④・2①②③④			2			○								2		
	小計(2 科目)	—	—	0	3	0	—	—	—	2	0	0	0	0		16		
大 学 間 連 携 科 目	大学間連携科目	1①②③④・2①②③④			1		○			1						33		
	大学間連携科目	1①②③④・2①②③④			2		○									16		
	小計(2 科目)	—	—	0	3	0	—	—	—	1	0	0	0	0		49		
に 教 科 目 関 与 す る 許 限 内 の 教 員	スポーツと教育	2③④			1				○							7		
	教職日本国憲法	2③④			2			○		1		1				1		
	小計(2 科目)	—	—	0	3	0	—	—	—	1	0	1	0	0		8		

発展科目	持続可能な食と農の関	SDGs×Food-Value-Chain in Ehime for Glocal Food Security	1①②③④				1	○				0				4
		田舎×持続可能性でブランド化する愛媛と世界の経済学	1①②③④				1	○				0				4
発展科目	ト・U・I・J・サ・成・バ・に	小計(2科目)	—	—	0	0	2	—				0	0	0	0	8
		SDGs—グローバル未来創成入門	1①②				2	○								2
発展科目	ト・U・I・J・サ・成・バ・に	ベーシック国内サービスラーニング	1①②				4		○							4
		ベーシック海外サービスラーニング	1③④				4		○							3
発展科目	ト・U・I・J・サ・成・バ・に	アドバンスド国内サービスラーニング	2①②				4		○							4
		アドバンスド海外サービスラーニング	2③④				4		○							3
発展科目	ト・U・I・J・サ・成・バ・に	小計(5科目)	—	—	0	0	18	—				0	0	0	0	16
		環境ESD指導者養成講座Ⅰ	1③④				4	○								2
発展科目	ト・U・I・J・サ・成・バ・に	環境ESD指導者養成講座Ⅱ	2①②				4	○								2
		小計(2科目)	—	—	0	0	8	—				0	0	0	0	4
発展科目	ト・U・I・J・サ・成・バ・に	愛媛大学リーダーズ・スクール	1①②				2	○								2
		ファシリテーションとリーダーシップ	1③④				2	○								3
発展科目	ト・U・I・J・サ・成・バ・に	グローバル・リーダーシップⅠ	1③④				1		○							2
		グローバル・リーダーシップⅡ	1③④				1		○							2
発展科目	ト・U・I・J・サ・成・バ・に	グローバル・リーダーシップⅢ	1③④				1		○							1
		グローバル・リーダーシップⅣ	1③④				1		○							1
発展科目	ト・U・I・J・サ・成・バ・に	リーダーシップ・フィールド演習Ⅰ	1①②③④				2		○							1
		リーダーシップ・フィールド演習Ⅱ	1①②③④				2		○							1
発展科目	ト・U・I・J・サ・成・バ・に	リーダーシップ・フィールド演習Ⅲ	1①②③④				2		○							1
		小計(9科目)	—	—	0	0	14	—				0	0	0	0	14
発展科目	ト・U・I・J・サ・成・バ・に	英語S1	1②				2	○								1
		英語S2	1④				2	○								1
発展科目	ト・U・I・J・サ・成・バ・に	英語S3	2①②③④				2	○								8
		小計(3科目)	—	—	0	0	6	—				0	0	0	0	10
発展科目	ト・U・I・J・サ・成・バ・に	アカデミックジャパニーズ1	1①				1		○							1
		アカデミックジャパニーズ2	1②				1		○							1
発展科目	ト・U・I・J・サ・成・バ・に	アカデミックジャパニーズ3	1③				1		○							1
		小計(3科目)	—	—	0	0	3	—				0	0	0	0	3
発展科目	ト・U・I・J・サ・成・バ・に	日本事情A1	1①②				2	○								1
		日本事情A2	1③④				2	○								1
発展科目	ト・U・I・J・サ・成・バ・に	日本事情B1	1①②				2	○								1
		日本事情B2	1③④				2	○								1
発展科目	ト・U・I・J・サ・成・バ・に	小計(4科目)	—	—	0	0	8	—				0	0	0	0	4
		共通教育科目小計(64科目)	—	—	13	30	69	—				18	12	7	0	355
専門入門科目群	専門入門科目群	法学部基礎セミナー	1前	○	2			○				3	7	2		共同(一部)
		人文社会科学入門	1後	○	2			○				3	7	2		共同(一部)
専門入門科目群	専門入門科目群	基礎ドイツ語1	1①	○		1		○					2			3
		基礎ドイツ語2	1②	○		1		○					2			3
専門入門科目群	専門入門科目群	基礎ドイツ語3	1③	○		1		○					2			3
		基礎ドイツ語4	1④	○		1		○					2			3
専門入門科目群	専門入門科目群	基礎フランス語1	1①	○		1		○			1	1				1
		基礎フランス語2	1②	○		1		○			1	1				1
専門入門科目群	専門入門科目群	基礎フランス語3	1③	○		1		○			1	1				1
		基礎フランス語4	1④	○		1		○			1	1				1
専門入門科目群	専門入門科目群	基礎中国語1	1①	○		1		○			1					3
		基礎中国語2	1②	○		1		○			1					3
専門入門科目群	専門入門科目群	基礎中国語3	1③	○		1		○			1					3
		基礎中国語4	1④	○		1		○			1					3
専門入門科目群	専門入門科目群	基礎朝鮮語1	1①	○		1		○			1	1				4
		基礎朝鮮語2	1②	○		1		○			1	1				4
専門入門科目群	専門入門科目群	基礎朝鮮語3	1③	○		1		○			1	1				4
		基礎朝鮮語4	1④	○		1		○			1	1				4
専門入門科目群	専門入門科目群	小計(18科目)	—	—	4	16	0	—				6	9	2	0	11
専門共通英語	専門共通英語	Brush Up Your English Grammar 1	2前	○		2		○							1	
		Writing and Presentation Skills 1	2後	○		2		○							1	
専門共通英語	専門共通英語	Speaking and Presentation Skills 1	2前	○		2		○							1	
		Academic Reading Skills 1	2前	○		2		○							1	
専門共通英語	専門共通英語	English Pronunciation Practice 1	2後	○		2		○							1	
		TOEIC中級講座1	2後	○		2		○							1	
専門共通英語	専門共通英語	TOEIC上級講座	2後	○		2		○							1	
		映画で学ぶ英語	2前	○		2		○							1	
専門共通英語	専門共通英語	小計(8科目)	—	—	0	16	0	—				0	0	0	1	0

法学・政策学履修コース指定専門科目	専門科目群	法学	法律学概論	1前	○		2	○		1	2						オムニバス
			憲法組織論Ⅰ	1・2・3・4後	○		2	○		1							
			憲法組織論Ⅱ	2・3・4前	○		2	○		1							
			憲法人権論Ⅰ	1・2・3・4前	○		2	○		1							
			憲法人権論Ⅱ	1・2・3・4後	○		2	○		1							
			行政法総論	2・3・4前	○		2	○								1	
			行政救済法	2・3・4後	○		2	○								1	
			地方自治法	2・3・4後	○		2	○									
			環境法	2・3・4前	○		2	○			1						
			刑法総論Ⅰ	1・2・3・4後	○		2	○			1						
			刑法総論Ⅱ	2・3・4前	○		2	○			1						
			刑法各論Ⅰ	2・3・4前	○		2	○				1					
			刑法各論Ⅱ	2・3・4後	○		2	○					1				
			刑事訴訟法Ⅰ	2・3・4前	○		2	○			1						
			刑事訴訟法Ⅱ	3・4後	○		2	○			1						
			民法総論	1前	○		2	○				1					
			民法(物権)	2・3・4前	○		2	○			1						
			民法(担保物権)	2・3・4後	○		2	○			1						隔年
			民法(債権総論)	2・3・4後	○		2	○			1						
			民法(契約)	1・2・3・4後	○		2	○			1						
			民法(不法行為)	2・3・4前	○		2	○			1						
			家族法	2・3・4後	○		2	○			1						隔年
			民事訴訟法Ⅰ	2・3・4前	○		2	○		1							隔年
			民事訴訟法Ⅱ	2・3・4後	○		2	○		1							
			倒産処理法	2・3・4後	○		2	○		1							
			商法総則・商行為法Ⅰ	2・3・4前	○		2	○				1					
			商法総則・商行為法Ⅱ	2・3・4後	○		2	○			1						
			会社法Ⅰ	2・3・4前	○		2	○				1					
			会社法Ⅱ	2・3・4後	○		2	○				1					
			競争法政策	2・3・4後	○		2	○		1							
			知的財産法	2・3・4前	○		2	○		1							隔年
			消費者法政策	3・4前	○		2	○		1							隔年
			労働法	1・2・3・4前	○		2	○					1				
			労働法政策	2・3・4前	○		2	○					1				
			社会保障法	2・3・4前	○		2	○		1							
			福祉法政策	3・4後	○		2	○		1							
			法理学	1・2・3・4前	○		2	○					1				
			法思想史	1・2・3・4後	○		2	○					1				
			国際法	1・2・3・4前	○		2	○		1							隔年
			国際安全保障法	2・3・4後	○		2	○		1							隔年
			行政学	1・2・3・4前	○		2	○		1							
			地方自治論	1・2・3・4後	○		2	○		1							
			政治過程論	1・2・3・4前	○		2	○			1						
			政治制度論	1・2・3・4後	○		2	○			1						
			現代イデオロギー論	1・2・3・4後	○		2	○								1	
			現代政治理論	1・2・3・4前	○		2	○								1	
			政治システム論	1・2・3・4後	○		2	○		1							隔年
			公共政策論	2・3・4後	○		2	○		1							隔年
			歴史政治学	1・2・3・4前	○		2	○		1							隔年
			国家論	2・3・4後	○		2	○		1							
			国際関係論	1・2・3・4前	○		2	○			1						隔年
			比較政治学	2・3・4後	○		2	○		1							隔年
			国際協力論	1・2・3・4前	○		2	○		1							隔年
			地域研究概論Ⅰ	1・2・3・4後	○		2	○								1	隔年
			地域研究概論Ⅱ	1・2・3・4前	○		2	○			1						隔年
			地域研究概論Ⅲ	1・2・3・4後	○		2	○			1						隔年

専門教育科目	グローバル・スタディーズ履修コース指定専門科目	専門基盤科目群	コース指定専門展開科目	国際安全保障法	2・3・4後	○		2		○		1					隔年
				公共政策論	2・3・4後	○		2		○		1					隔年
				国家論	2・3・4後	○		2		○		1					隔年
				英米地域研究	2・3・4後	○		2		○			1				隔年
				アジア地域研究	2・3・4後	○		2		○		1					隔年
				東南アジア地域研究	2・3・4前	○		2		○			1				隔年
				アフリカ地域研究	2・3・4前	○		2		○			1				隔年
				比較政治学	2・3・4後	○		2		○		1					隔年
				西洋経済史	1・2・3・4後	○		2		○		1					隔年
				対比経済史	1・2・3・4前	○		2		○		1					隔年
				中国言語文化特講	2・3・4③④	○		1		○		1					隔年
				中国文学特講Ⅰ	2・3・4③④	○		1		○						1	
				中国文学特講Ⅱ	2・3・4③④	○		1		○		1					隔年
				朝鮮言語文化特講	2・3・4③④	○		1		○		1					
				英語学特講Ⅰ	2・3・4③④	○		1		○		1					
				英語学特講Ⅱ	2・3・4	○		1		○						1	
				英米文学特講Ⅰ	2・3・4①②	○		1		○			1				
				英米文学特講Ⅱ	2・3・4③④	○		1		○						1	
				英米文化特講Ⅱ	2・3・4①②	○		1		○			1				
				応用英語学特講Ⅰ	2・3・4③④	○		1		○				1			
				応用英語学特講Ⅱ	2・3・4①②	○		1		○		1					
				ドイツ言語文化特講Ⅰ	2・3・4③④	○		1		○			1				
				ドイツ言語文化特講Ⅱ	2・3・4①②	○		1		○			1				
				フランス言語文化特講Ⅰ	2・3・4①②	○		1		○			1				
				フランス言語文化特講Ⅱ	2・3・4③④	○		1		○		1					
				法学・政策学特講Ⅱ	2・3・4	○		1		○						1	
				小計 (26科目)	—	—	0	36	0	—		10	8	1	0	0	4
			演習科目群	中国言語文化基礎演習	2・3・4③④	○		1		○		1					
				国際法基礎演習	2・3・4③④	○		1		○		1					
				公共政策論基礎演習	2・3・4③④	○		1		○		1					
				歴史政治学基礎演習	2・3・4③④	○		1		○		1					
				国際関係論基礎演習	2・3・4③④	○		1		○			1				
				アジア地域研究基礎演習	2・3・4③④	○		1		○		1					
				東南アジア地域研究基礎演習	2・3・4③④	○		1		○			1				
				アフリカ地域研究基礎演習	2・3・4③④	○		1		○			1				
				国際協力論基礎演習	2・3・4③④	○		1		○		1					
				中国文学基礎演習Ⅰ	2・3・4①②	○		1		○						1	
				中国文学基礎演習Ⅱ	2・3・4①②	○		1		○		1					
				朝鮮言語文化基礎演習	2・3・4①②	○		1		○		1					
				英語学基礎演習Ⅰ	2・3・4①②	○		1		○		1					
				英語学基礎演習Ⅱ	2・3・4	○		1		○						1	
				英米文学基礎演習Ⅰ	2・3・4①②	○		1		○			1				
				英米文学基礎演習Ⅱ	2・3・4	○		1		○						1	
				英米文化基礎演習Ⅱ	2・3・4③④	○		1		○			1				
				応用英語学基礎演習Ⅰ	2・3・4①②	○		1		○				1			
				応用英語学基礎演習Ⅱ	2・3・4③④	○		1		○		1					
				ドイツ言語文化基礎演習Ⅰ	2・3・4①②	○		1		○			1				
				ドイツ言語文化基礎演習Ⅱ	2・3・4③④	○		1		○			1				
				フランス言語文化基礎演習Ⅰ	2・3・4③④	○		1		○			1				
				フランス言語文化基礎演習Ⅱ	2・3・4①②	○		1		○		1					
			コース指定専門演習	中国言語文化専門演習	3・4①②③④	○		1		○		1					
				国際法専門演習	3・4①②③④	○		1		○		1					
				公共政策論専門演習	3・4①②③④	○		1		○		1					
				歴史政治学専門演習	3・4①②③④	○		1		○		1					
				国際関係論専門演習	3・4①②③④	○		1		○			1				
				アジア地域研究専門演習	3・4①②③④	○		1		○		1					
				東南アジア地域研究専門演習	3・4①②③④	○		1		○			1				
				アフリカ地域研究専門演習	3・4①②③④	○		1		○			1				
				国際協力論専門演習	3・4①②③④	○		1		○		1					
				英語学専門演習Ⅰ	2・3・4①②③④	○		1		○		1					
				英語学専門演習Ⅱ	2・3・4	○		1		○						1	
				英米文学専門演習Ⅰ	2・3・4①②③④	○		1		○			1				
				英米文学専門演習Ⅱ	2・3・4	○		1		○						1	
				英米文化専門演習Ⅱ	2・3・4①②③④	○		1		○			1				
				応用英語学専門演習Ⅰ	2・3・4①②③④	○		1		○				1			
				応用英語学専門演習Ⅱ	2・3・4①②③④	○		1		○		1					
				ドイツ言語文化専門演習Ⅰ	2・3・4①②③④	○		1		○			1				
				ドイツ言語文化専門演習Ⅱ	2・3・4①②③④	○		1		○			1				
				フランス言語文化専門演習Ⅰ	2・3・4①②③④	○		1		○			1				
				フランス言語文化専門演習Ⅱ	2・3・4①②③④	○		1		○		1					
				小計 (43科目)	—	—	0	43	0	—		12	8	1	0	0	5
				卒業論文	4後		8			○		9	8	1			
				小計 (1科目)	—	—	8	0	0	—		9	8	1	0	0	0

人文学履修コース指定専門科目	専門基盤科目群	哲学	1・2・3・4前	○		2		○		1	2						隔年
		社会学	1・2・3・4前	○		2		○		1	1						隔年
		人文地理学	1・2・3・4後	○		2		○		1							隔年
		自然地理学	1・2・3・4前	○		2		○			1						隔年
		地誌学	1・2・3・4前	○		2		○							1		隔年
		日本史	1・2・3・4前	○		2		○		1	2						共同・隔年
		世界史	1・2・3・4前	○		2		○		3		1					共同・隔年
		日本語学	1・2・3・4前	○		2		○		1							隔年
		日本文学史	1・2・3・4後	○		2		○		2					1		隔年
		中国文学	1・2・3・4前	○		2		○		1							隔年
		書道・書道概説（書写を中心とする。）	1・2・3・4後	○		2		○							1		
		英語学	1・2・3・4前	○		2		○		1							
		英米文学	1・2・3・4後	○		2		○			1				1		共同
		異文化理解	1・2・3・4後	○		2		○		1		1			1		共同
		英語コミュニケーション	1・2・3・4後	○		2		○			1			1			
		哲学概論Ⅰ	1・2・3・4後	○		2		○			1						
		哲学概論Ⅱ	1・2・3・4前	○		2		○		1							
		倫理思想史概論	1・2・3・4前	○		2		○			1						
		芸術学概論Ⅰ	1・2・3・4前	○		2		○			1						
		芸術学概論Ⅱ	1・2・3・4後	○		2		○					1				
		心理学概論Ⅰ	1・2・3・4前	○		2		○		1							
		心理学概論Ⅱ	1・2・3・4前	○		2		○					1				
		社会学概論Ⅱ	1・2・3・4前	○		2		○			1						
		社会学概論Ⅲ	1・2・3・4後	○		2		○		1							
		地理学概論Ⅰ	1・2・3・4前	○		2		○		1							
		地理学概論Ⅱ	1・2・3・4後	○		2		○			1						
		考古学概論Ⅰ	1・2・3・4前	○		2		○			1						
		考古学概論Ⅱ	1・2・3・4後	○		2		○			1						
		文化人類学概論	1・2・3・4前	○		2		○					1				
		日本歴史概論Ⅰ	1・2・3・4後	○		2		○			1						
		日本歴史概論Ⅱ	1・2・3・4前	○		2		○		1							
		日本歴史概論Ⅲ	1・2・3・4前	○		2		○			1						
		アジア史概論Ⅰ	1・2・3・4後	○		2		○		1							
		アジア史概論Ⅱ	1・2・3・4前	○		2		○		1							
		西洋史概論Ⅰ	1・2・3・4前	○		2		○		1							
		西洋史概論Ⅱ	1・2・3・4後	○		2		○					1				
		言語学概論Ⅰ	1・2・3・4前	○		2		○			1						隔年
		日本語学概論Ⅰ	1・2・3・4	○		2		○								1	
		日本語学概論Ⅱ	1・2・3・4後	○		2		○		1							
		日本古典文学概論	1・2・3・4前	○		2		○								1	
		日本比較文学概論	1・2・3・4後	○		2		○		2							
		中国文学概論Ⅰ	1・2・3・4前	○		2		○								1	
		中国文学概論Ⅱ	1・2・3・4前	○		2		○		1							
		朝鮮言語文化概論	1・2・3・4前	○		2		○		1							隔年
		英語学概論Ⅰ	1・2・3・4前	○		2		○		1							
		英語学概論Ⅱ	1・2・3・4	○		2		○								1	
		英米文学概論Ⅰ	1・2・3・4後	○		2		○			1						
		英米文学概論Ⅱ	1・2・3・4前	○		2		○								1	
		英米文化概論Ⅱ	1・2・3・4後	○		2		○			1						
		応用英語学概論Ⅰ	1・2・3・4前	○		2		○					1				
		応用英語学概論Ⅱ	1・2・3・4後	○		2		○		1							
		ドイツ言語文化概論Ⅰ	1・2・3・4前	○		2		○			1						
		ドイツ言語文化概論Ⅱ	1・2・3・4後	○		2		○			1						
		フランス言語文化概論Ⅰ	1・2・3・4後	○		2		○			1						
		フランス言語文化概論Ⅱ	1・2・3・4前	○		2		○		1							
小計（55科目）	—	—	0	110	0	—		16	15	5	1	0	8				

- 基本計画書 - 24 -

学位又は称号	学士（法学・政策学）、 学士（学術）、学士（人文学）	学位又は学科の分野	法学関係、経済学関係、文学関係	
卒業・修了要件及び履修方法			授業期間等	
【法学・政策学履修コース】 共通教育科目 25単位以上 ・「基盤科目」 必修11単位 ・「未来思考支援科目」必修2単位 ・「教養科目」「愛大スタンダード科目」3単位以上を含む12単位以上			1 学年の学期区分	4 期
			1 学期の授業期間	8 週
			1 時限の授業の標準時間	9 0 分
専門教育科目 90単位以上 ・「専門入門科目群」 8単位（「法文学部基礎セミナー」2単位、「人文社会科学入門」2単位、「基礎外国語」4単位） ・「実践科目群」8単位（「社会科学リテラシー」2単位は必修） ・「専門科目群」40単位（「法律学科目」12単位、「政治学科目・経済学科目」12単位、「法学・政治学・経済学・総合科目のいずれか」16単位） ・「演習科目群」10単位 ・「他コース・自コース・実践科目余剰」24単位				
自由選択 12単位以上 ・共通教育科目（発展科目を除く）、専門教育科目、他大学・他学部の科目、「教育の基礎的理解に関する科目等」及び「各教科の指導法」、博物館に関する科目				
合計127単位以上				
【グローバル・スタディーズ履修コース】 共通教育科目 25単位以上 ・「基盤科目」 必修11単位 ・「未来思考支援科目」必修2単位 ・「教養科目」「愛大スタンダード科目」3単位以上を含む12単位以上				
専門教育科目 90単位以上 ・「専門入門科目群」 8単位（「法文学部基礎セミナー」2単位、「人文社会科学入門」2単位、「基礎外国語」4単位） ・「実践科目群」20単位（「専門共通英語」4単位、「グローバル社会に生きる」2単位、「グローバル化と言語・文化」2単位、「グローバル化と政治・社会」2単位は必修） ・「基盤科目群」10単位 ・「展開科目群」10単位 ・「演習科目群」10単位 ・「卒業論文」8単位 ・「他コース・自コース・実践科目余剰」24単位				
自由選択 12単位以上 ・共通教育科目（発展科目を除く）、専門教育科目、他大学・他学部の科目、「教育の基礎的理解に関する科目等」及び「各教科の指導法」、博物館に関する科目				
合計127単位以上				
【人文学履修コース】 共通教育科目 25単位以上 ・「基盤科目」 必修11単位 ・「未来思考支援科目」必修2単位 ・「教養科目」「愛大スタンダード科目」3単位以上を含む12単位以上				
専門教育科目 90単位以上 ・「専門入門科目群」 8単位（「法文学部基礎セミナー」2単位、「人文社会科学入門」2単位、「基礎外国語」4単位） ・「実践科目群」6単位 ・「基盤科目群」10単位 ・「展開科目群」6単位 ・「演習科目群」10単位 ・「基盤・展開・演習科目群のいずれか」14単位 ・「卒業論文」8単位 ・「他コース・自コース・実践科目余剰」28単位				
自由選択 12単位以上 ・共通教育科目（発展科目を除く）、専門教育科目、他大学・他学部の科目、「教育の基礎的理解に関する科目等」及び「各教科の指導法」、博物館に関する科目				
合計127単位以上				
（履修科目の登録の上限） 学生が1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限は、24単位とする。 ただし、第4年次及び修業年限を超えて在学する者で、やむを得ない理由があるものは30単位とすることができる。				

(注)

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出をおうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「主要授業科目」の欄は，授業科目が主要授業科目に該当する場合，欄に「○」を記入すること。なお，高等専門学校の学科を設置する場合は，「主要授業科目」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 5 「単位数」の欄は，各授業科目について，「必修」，「選択」，「自由」のうち，該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 6 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
- 7 「授業形態」の欄は，各授業科目について，該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし，専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち，臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を，連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 8 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員等」と読み替えること。
- 9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し，若しくは変更する場合は，次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には，当該専門職大学のカリキュラムに係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え，前期課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には，当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え，当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には，当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え，前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 11 高等専門学校の学科を設置する場合は，高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については，備考欄に「☆」を記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要																				
(法文学部人文社会科学科（夜間主コース）)																				
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考			
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 （ 助 手 以 外 の 教 員				
共通 教育 科目	基 盤 科 目	新入生セミナー	1①②		2			○									10			
		こころと健康	1①		1			○									7			
		スポーツ	1①		1			○											13	
		English Foundation	1①②		1			○			1								12	
		English Communication Strategies	1③		2				○		1		1						12	
		社会力入門	1④		1			○											3	
		情報リテラシー入門Ⅰ	1①		1			○											9	
		情報リテラシー入門Ⅱ	1②		1			○											9	
		知的財産入門	1③		1			○			2								8	
	小計(9 科目)	—	—	11	0	0	—	—	—	4	0	1	0	0	0	83				
	科 目 未 支 援 思 考	Beyond SDGs	2④		1			○			1								6	
		未来思考リテラシー	2③		1			○											3	
		小計(2 科目)	—	—	2	0	0	—	—	1	0	0	0	0	0	9				
	愛 大 ス タ ン ダ ー ド 科 目	自 然	自然法則の探究	1①②③④			1		○										1	
			宇宙・地球のすがた	1①②③④			1		○										1	
			物質の構造と変化	1①②③④			1		○										5	
		技 術	技術の力	1③			1		○											9
			科学技術と人間	1①②④			1		○					1						14
			データリテラシー入門	1①②③④			1		○			1								6
		生 命	生命と物質	1①②③④			1		○											1
			生命の営み	1②			1		○											6
生命を守る			1①②			1		○										1		
人 間		多様性と共生	1③④			1		○										6		
		ことばの力	1①②③④			1		○			3	2	1					0		
		文化・芸術を読み解く	1①②③④			1		○										1		
制 度		ビジネスリサーチ	1①②			1		○										3		
		政治・経済の考え方	1①②③④			1		○			3		1					4		
		なぜ法を知るべきか	1①②③④			1		○			1	3	3					0		
社 会		歴史からの問い	1①②③④			1		○			1	1	4					0		
		地理から見た世界	1①②③④			1		○				1						2		
		環境と社会	1①③			1		○			1	1						13		
小計(18 科目)	—	—	0	18	0	—	—	—	10	9	9	0	0	0	73					
愛 大 ブ ラ イ ム 科 目	愛大プライム科目	1①②③④・ 2①②③④・ 3①②			1		○			1							34			
	愛大プライム科目	1①②③④・ 2①②③④			2		○										11			
	小計(2 科目)	—	—	0	3	0	—	—	—	1	0	0	0	0	0	45				
課 題 発 見 基 礎 セ ミ ナ ー	課題発見基礎セミナー	1①②③④・ 2①②③④			1			○		2							14			
	課題発見基礎セミナー	1①②③④・ 2①②③④			2			○									2			
	小計(2 科目)	—	—	0	3	0	—	—	—	2	0	0	0	0	0	16				
大 学 間 連 携 科 目	大学間連携科目	1①②③④・ 2①②③④			1		○			1							33			
	大学間連携科目	1①②③④・ 2①②③④			2		○										16			
	小計(2 科目)	—	—	0	3	0	—	—	—	1	0	0	0	0	0	49				

共通教育科目	初修外国語	初級ドイツ語Ⅰ	1①			1		○			1				3
		初級ドイツ語Ⅱ	1②			1		○			1				3
		初級ドイツ語Ⅲ	1③			1		○			1				2
		初級ドイツ語Ⅳ	1④			1		○			1				2
		初級フランス語Ⅰ	1①			1		○							3
		初級フランス語Ⅱ	1②			1		○							3
		初級フランス語Ⅲ	1③			1		○							3
		初級フランス語Ⅳ	1④			1		○							3
		初級中国語Ⅰ	1①			1		○		1					3
		初級中国語Ⅱ	1②			1		○		1					3
		初級中国語Ⅲ	1③			1		○		1					2
		初級中国語Ⅳ	1④			1		○		1					2
		初級朝鮮語Ⅰ	1①			1		○		1					6
		初級朝鮮語Ⅱ	1②			1		○		1					6
		初級朝鮮語Ⅲ	1③			1		○							4
		初級朝鮮語Ⅳ	1④			1		○							4
		小計(16科目)	—	—	0	16	0	—		6	4	0	0	0	52
	に教科開目する許	スポーツと教育	2③④			1			○						7
		教職日本国憲法	2③④			2		○		1		1			1
		小計(2科目)	—	—	0	3	0	—		1	0	1	0	0	8
	に教科開目する許	SDGs×Food-Value-Chain in Ehime for Glocal Food Security	1①②③④				1	○							4
		田舎×持続可能性でブランド化する愛媛と世界の経済学	1①②③④				1	○							4
		小計(2科目)	—	—	0	0	2	—		0	0	0	0	0	8
	ト・U・I・J・I・サ・成・パ・ン	SDGsーグローバル未来創成入門	1①②				2	○							1
		ベーシック国内サービスラーニング	1①②				4		○						4
		ベーシック海外サービスラーニング	1③④				4		○						3
		アドバンスド国内サービスラーニング	2①②				4		○						4
		アドバンスド海外サービスラーニング	2③④				4		○						3
		小計(5科目)	—	—	0	0	18	—		0	0	0	0	0	15
	養D環境成指導者S	環境ESD指導者養成講座Ⅰ	1③④				4	○							2
		環境ESD指導者養成講座Ⅱ	2①②				4	○							2
		小計(2科目)	—	—	0	0	8	—		0	0	0	0	0	4
	愛媛大学リーダーズ・スクールのリーダーズ・プログラム	愛媛大学リーダーズ・スクール	1①②				2	○							2
		ファシリテーションとリーダーシップ	1③④				2	○							3
		グローバル・リーダーシップⅠ	1③④				1		○						2
		グローバル・リーダーシップⅡ	1③④				1		○						2
		グローバル・リーダーシップⅢ	1③④				1		○						1
		グローバル・リーダーシップⅣ	1③④				1		○						1
		リーダーシップ・フィールド演習Ⅰ	1①②③④				2		○						1
		リーダーシップ・フィールド演習Ⅱ	1①②③④				2		○						1
		リーダーシップ・フィールド演習Ⅲ	1①②③④				2		○						1
		小計(9科目)	—	—	0	0	14	—		0	0	0	0	0	14
	スキブキルアツ	英語S1	1②				2	○							1
		英語S2	1④				2	○							1
		英語S3	2①②③④				2	○							8
		小計(3科目)	—	—	0	0	6	—		0	0	0	0	0	10
	留学生対象科目	アカデミックジャパニーズ1	1①				1		○						1
		アカデミックジャパニーズ2	1②				1		○						1
		アカデミックジャパニーズ3	1③				1		○						1
		小計(3科目)	—	—	0	0	3	—		0	0	0	0	0	3
		日本事情A1	1①②				2	○							1
		日本事情A2	1③④				2	○							1
		日本事情B1	1①②				2	○							1
		日本事情B2	1③④				2	○							1
		小計(4科目)	—	—	0	0	8	—		0	0	0	0	0	4
	共通教育科目小計(81科目)			—	—	13	46	59	—	20	13	7	0	0	390

専門教育科目	専門入門科目群	法文学部基礎セミナー	1前	○	2			○			1		3					
		人文社会科学入門	1後	○	2			○			1		3					
		小計（2科目）	—	—	4	0	0	—			1	0	3	0	0	0		
専門教育科目	専門共通英語	Brush Up Your English Grammar 1	2前	○		2		○						1				
		Writing and Presentation Skills 1	2後	○		2		○						1				
		Speaking and Presentation Skills 1	2前	○		2		○						1				
専門教育科目	専門共通英語	Academic Reading Skills 1	2前	○		2		○						1				
		English Pronunciation Practice 1	2後	○		2		○						1				
		TOEIC中級講座1	2後	○		2		○						1				
専門教育科目	専門共通英語	TOEIC上級講座	2後	○		2		○						1				
		映画で学ぶ英語	2前	○		2		○						1				
		小計（8科目）	—	—	0	16	0	—			0	0	0	1	0	0		
専門教育科目	フィールド実践	社会フィールド実践	2・3・4	○		2			○		1							
		地域フィールド実践	2・3・4	○		2			○		1	2						
		文化財フィールド実践	2・3・4	○		2			○			1						
専門教育科目	フィールド実践	海外文化交流実践	1・2・3・4	○		2			○		1							
		アジア語学実践	1・2・3・4	○		2			○		1							
		欧米語学実践	1・2・3・4	○		2			○			1						
専門教育科目	フィールド実践	インターンシップ(事前事後指導を含む)	3・4	○		2			○		1	2						
		海外実地研修	2・3・4	○		2			○		1							
		海外フィールド実践	1・2・3・4	○		2			○		3							
専門教育科目	実践科目群	社会科学リテラシー	2前	○	2※	2		○			1	3						
		社会と人間	2・3・4後	○		2		○			3	1						
		統計学	1・2・3・4後	○		2		○										
専門教育科目	実践科目群	法情報論	2・3・4前	○		2		○				1						
		法・政策実務論Ⅰ	2前	○		2		○				1	1					
		法・政策実務論Ⅱ	2	○		2		○				1	1					
専門教育科目	実践科目群	公共政策特別研究	3後	○		2		○			1	2	1					
	実践科目群	資格検定	1・2・3・4	○		2			○		1							
		言語文化論	2・3・4前	○		2		○			5	1						
専門教育科目	実践科目群	人間文化論	2・3・4後	○		2		○			1		1					
	実践科目群	地域文化論	2・3・4後	○		2		○			1	1	1					
	実践科目群	伝統文化論	2・3・4前	○		2		○			4	2	1					
専門教育科目	実践科目群	文化財論	2・3・4前	○		2		○			1							
	実践科目群	グローバル化と言語・文化	2・3・4後	○		2		○			1	3						
	実践科目群	グローバル化と政治・社会	2・3・4後	○		2		○			1	1						
専門教育科目	実践科目群	国際問題ワークショップ	1後	○		2			○		1							
	実践科目群	基礎留学英語	1・2・3・4後	○		2		○			1							
	実践科目群	English Conversation1	2・3・4前	○		2		○				1						
専門教育科目	外国語コミュニケーション	ドイツ語コミュニケーション1	2・3・4前	○		2		○									1	
	外国語コミュニケーション	ドイツ語コミュニケーション2	2・3・4後	○		2		○									1	
	外国語コミュニケーション	フランス語コミュニケーション1	2・3・4前	○		2		○									1	
専門教育科目	外国語コミュニケーション	フランス語コミュニケーション2	2・3・4後	○		2		○									1	
	外国語コミュニケーション	中国語コミュニケーション初級-1	2・3・4前	○		2		○									1	
	外国語コミュニケーション	中国語コミュニケーション初級-2	2・3・4後	○		2		○									1	
専門教育科目	外国語コミュニケーション	中国語コミュニケーション中上級-1	2・3・4前	○		2		○									1	
	外国語コミュニケーション	中国語コミュニケーション中上級-2	2・3・4後	○		2		○									1	
	外国語コミュニケーション	朝鮮語コミュニケーション1	2・3・4前	○		2		○									1	
専門教育科目	外国語コミュニケーション	朝鮮語コミュニケーション2	2・3・4後	○		2		○									1	
	外国語コミュニケーション	実用外国語スキルズ	4	○		2		○				1						
	外国語コミュニケーション	小計（38科目）	—	—	0	76	0	—			20	15	5	0	0	8		

法学・政策学履修コース指定専門科目	専門教育科目	専門科目群	政治学科目	法律学概論	1前	○		2	○		1	1	1				オムニバス
				憲法組織論Ⅰ	1・2・3・4前	○		2	○		1						隔年
				憲法組織論Ⅱ	2・3・4前	○		2	○		1						隔年
				憲法人権論Ⅰ	1・2・3・4前	○		2	○		1						隔年
				憲法人権論Ⅱ	1・2・3・4後	○		2	○		1						隔年
				行政法総論	2・3・4後	○		2	○						1		隔年
				行政救済法	2・3・4後	○		2	○						1		隔年
				地方自治法	2・3・4前	○		2	○			1					隔年
				環境法	2・3・4前	○		2	○			1					隔年
				刑法総論Ⅰ	1・2・3・4後	○		2	○			1					隔年
				刑法総論Ⅱ	2・3・4前	○		2	○			1					隔年
				刑法各論Ⅰ	2・3・4後	○		2	○				1				隔年
				刑法各論Ⅱ	2・3・4後	○		2	○				1				隔年
				刑事訴訟法Ⅰ	2・3・4前	○		2	○			1					隔年
				刑事訴訟法Ⅱ	3・4後	○		2	○			1					隔年
				民法概論	1・2・3・4後	○		2	○				1				隔年
				民法(物権)	2・3・4後	○		2	○			1					隔年
				民法(担保物権)	2・3・4後	○		2	○			1					隔年
				民法(債権総論)	2・3・4後	○		2	○			1					隔年
				民法(契約)	1・2・3・4前	○		2	○			1					隔年
				民法(不法行為)	2・3・4前	○		2	○			1					隔年
				家族法	2・3・4前	○		2	○			1					隔年
				民事手続法	2・3・4前	○		2	○						1		隔年
				民事訴訟法Ⅱ	2・3・4後	○		2	○						1		隔年
				倒産処理法	2・3・4後	○		2	○		1						隔年
				商法総則・商行為法Ⅰ	2・3・4後	○		2	○			1					隔年
				商法総則・商行為法Ⅱ	2・3・4後	○		2	○			1					隔年
				会社法Ⅰ	2・3・4前	○		2	○			1					隔年
				会社法Ⅱ	2・3・4後	○		2	○			1					隔年
				競争法政策	2・3・4前	○		2	○		1						隔年
				知的財産法	2・3・4前	○		2	○		1						隔年
				消費者法政策	3・4前	○		2	○		1						隔年
				労働法	1・2・3・4後	○		2	○				1				隔年・隔年
				労働法政策	2・3・4前	○		2	○				1				隔年
				社会保障法	2・3・4後	○		2	○		1						隔年
				福祉法政策	3・4後	○		2	○		1						隔年
				法理学	1・2・3・4後	○		2	○				1				隔年
				法思想史	1・2・3・4後	○		2	○				1				隔年
				国際法	1・2・3・4後	○		2	○		1						隔年
				国際安全保障法	2・3・4後	○		2	○		1						隔年
				行政学	1・2・3・4後	○		2	○		1						隔年
				地方自治論	1・2・3・4後	○		2	○		1						隔年
				政治過程論	1・2・3・4後	○		2	○			1					隔年
				政治制度論	1・2・3・4後	○		2	○			1					隔年
				現代イデオロギー論	1・2・3・4前	○		2	○						1		隔年
				現代政治理論	1・2・3・4前	○		2	○						1		隔年
				政治システム論	1・2・3・4後	○		2	○		1						隔年
				公共政策論	2・3・4後	○		2	○		1						隔年
				歴史政治学	1・2・3・4後	○		2	○		1						隔年
				国家論	2・3・4後	○		2	○		1						隔年
				国際関係論	1・2・3・4前	○		2	○			1					隔年
				比較政治学	2・3・4後	○		2	○		1						隔年
				国際協力論	1・2・3・4前	○		2	○		1						隔年
				地域研究概論Ⅰ	1・2・3・4前	○		2	○						1		隔年
				地域研究概論Ⅱ	1・2・3・4後	○		2	○			1					隔年
				地域研究概論Ⅲ	1・2・3・4前	○		2	○			1					隔年

経済学	経済学概論	1後	○		2		○		2	3				1	オムニバス
	マクロ経済学Ⅰ	1・2・3・4前	○		2		○							1	メディア・隔年
	マクロ経済学Ⅱ	2・3・4前	○		2		○							1	
	財政学Ⅰ	1・2・3・4後	○		2		○			1					隔年
	財政学Ⅱ	1・2・3・4後	○		2		○			1					
	西洋経済史	1・2・3・4前	○		2		○		1						隔年
	対比経済史	1・2・3・4前	○		2		○		1						
	経済政策	1・2・3・4前	○		2		○			1					隔年
	政策科学	1・2・3・4前	○		2		○			1					
	経営管理論	1・2・3・4前	○		2		○		1						隔年
	経営政策学	1・2・3・4後	○		2		○		1						
	金融論Ⅰ	2・3・4後	○		2		○			1					隔年
	金融論Ⅱ	2・3・4後	○		2		○			1					
	地域産業論	2・3・4前	○		2		○							1	
	ミクロ経済学Ⅰ	1・2・3・4③	○		2		○							1	
	ミクロ経済学Ⅱ	2・3・4④	○		2		○							1	
	情報産業論	2・3・4③	○		2		○							1	
	簿記原理	1後	○		4		○							1	
	原価計算論	2・3・4後	○		4		○							1	
	マーケティング概論	1・2・3・4④	○		2		○							1	
	流通論	2・3・4②	○		2		○							1	
	組織デザイン論	1・2・3・4④	○		2		○							1	
	生産管理論	2・3・4②	○		2		○							1	
	地域・中小企業家論	2・3・4後	○		2		○							1	共同
	小計（80科目）	—	—	0	164	0	—		35	24	8	0	0	16	
総合科目	英米地域研究	2・3・4後	○		2		○			1					隔年
	アジア地域研究	2・3・4後	○		2		○		1						隔年
	東南アジア地域研究	2・3・4前	○		2		○			1					隔年
	アフリカ地域研究	2・3・4前	○		2		○			1					隔年
	総合政策講義	1・2・3・4前	○		2		○			1					
	法学・政策学特講Ⅰ	1・2・3・4後	○		2		○							2	
	法学・政策学特講Ⅱ	2・3・4	○		2		○							1	メディア
	小計（7科目）	—	—	0	14	0	—		1	4	0	0	0	3	
演習科目群	演習	公共政策専門演習	3・4前後	○	2			○	5	10					
	小計（1科目）	—	—	2	0	0	—		5	10	0	0	0	0	

専門教育科目	人文学履修コース指定専門科目	専門基盤科目群	哲学	1・2・3・4前	○		2		○		1	2				隔年
			社会学	1・2・3・4前	○		2		○		1	1				隔年
			人文地理学	1・2・3・4前	○		2		○		1					隔年
			自然地理学	1・2・3・4後	○		2		○			1				隔年
			地誌学	1・2・3・4後	○		2		○						1	隔年
			日本史	1・2・3・4後	○		2		○		1	2				隔年
			世界史	1・2・3・4後	○		2		○		3		1			共同・隔年
			日本語学	1・2・3・4後	○		2		○		1					共同・隔年
			日本文学史	1・2・3・4後	○		2		○		2				1	共同・隔年
			中国文学	1・2・3・4前	○		2		○		1					隔年
			書道・書道概説（書写を中心とする。）	1・2・3・4後	○		2		○						1	
			哲学概論Ⅰ	1・2・3・4後	○		2		○			1				隔年
			哲学概論Ⅱ	1・2・3・4前	○		2		○		1					隔年
			倫理思想史概論	1・2・3・4前	○		2		○			1				隔年
			芸術学概論Ⅰ	1・2・3・4後	○		2		○			1				隔年
			芸術学概論Ⅱ	1・2・3・4後	○		2		○				1			隔年
			心理学概論Ⅰ	1・2・3・4後	○		2		○		1					隔年
			心理学概論Ⅱ	1・2・3・4後	○		2		○				1			隔年
			社会学概論Ⅱ	1・2・3・4後	○		2		○			1				隔年
			社会学概論Ⅲ	1・2・3・4後	○		2		○		1					隔年
			地理学概論Ⅰ	1・2・3・4前	○		2		○		1					隔年
			地理学概論Ⅱ	1・2・3・4前	○		2		○			1				隔年
			考古学概論Ⅰ	1・2・3・4前	○		2		○			1				隔年
			考古学概論Ⅱ	1・2・3・4後	○		2		○			1				隔年
			文化人類学概論	1・2・3・4後	○		2		○				1			隔年
			日本歴史概論Ⅰ	1・2・3・4前	○		2		○			1				隔年
			日本歴史概論Ⅱ	1・2・3・4後	○		2		○		1					隔年
			日本歴史概論Ⅲ	1・2・3・4後	○		2		○			1				隔年
			アジア史概論Ⅰ	1・2・3・4後	○		2		○		1					隔年
			アジア史概論Ⅱ	1・2・3・4後	○		2		○		1					隔年
			西洋史概論Ⅰ	1・2・3・4後	○		2		○		1					隔年
			西洋史概論Ⅱ	1・2・3・4前	○		2		○				1			隔年
			言語学概論Ⅰ	1・2・3・4後	○		2		○			1				隔年
			日本語学概論Ⅰ	1・2後	○		2		○					1		隔年
			日本語学概論Ⅱ	1・2・3・4前	○		2		○		1					隔年
			日本古典文学概論	1・2・3・4後	○		2		○					1		隔年
			日本比較文学概論	1・2・3・4前	○		2		○		2					隔年
			中国文学概論Ⅰ	1・2・3・4後	○		2		○					1		隔年
			中国文学概論Ⅱ	1・2・3・4後	○		2		○		1					隔年
			朝鮮言語文化概論	1・2・3・4後	○		2		○		1					隔年
			英語学概論Ⅰ	1・2・3・4後	○		2		○		1					隔年
			英語学概論Ⅱ	1・2後	○		2		○					1		隔年
			英米文学概論Ⅰ	1・2・3・4後	○		2		○			1				隔年
			英米文学概論Ⅱ	1・2・3・4後	○		2		○					1		隔年
			英米文化概論Ⅱ	1・2・3・4前	○		2		○			1				隔年
			応用英語学概論Ⅰ	1・2・3・4前	○		2		○				1			隔年
			応用英語学概論Ⅱ	1・2・3・4前	○		2		○		1					隔年
			ドイツ言語文化概論Ⅰ	1・2・3・4後	○		2		○			1				隔年
			ドイツ言語文化概論Ⅱ	1・2・3・4前	○		2		○			1				隔年
			フランス言語文化概論Ⅰ	1・2・3・4後	○		2		○			1				隔年
			フランス言語文化概論Ⅱ	1・2・3・4前	○		2		○		1					隔年
小計（51科目）				—	—	0	102	0	—	—	16	15	5	0	0	7

専門 展開 科目群	哲学特講Ⅰ	2・3・4①②	○		1	○			1					隔年
	哲学特講Ⅱ	2・3・4③④	○		1	○		1						隔年
	倫理思想史特講	2・3・4③④	○		1	○			1					隔年
	芸術学特講Ⅰ	2・3・4①②	○		1	○			1					隔年
	芸術学特講Ⅱ	2・3・4①②	○		1	○				1				隔年
	心理学特講Ⅰ	2・3・4①②	○		1	○		1						隔年
	心理学特講Ⅱ	2・3・4①②	○		1	○				1				隔年
	社会学特講Ⅱ	2・3・4①②	○		1	○			1					隔年
	社会学特講Ⅲ	2・3・4①②	○		1	○		1						隔年
	地理学特講Ⅰ	2・3・4③④	○		1	○		1						隔年
	地理学特講Ⅱ	2・3・4③④	○		1	○						1		隔年
	考古学特講Ⅰ	2・3・4③④	○		1	○						1		隔年
	考古学特講Ⅱ	2・3・4①②	○		1	○			1					隔年
	文化人類学特講	2・3・4①②	○		1	○				1				隔年
	日本史特講Ⅰ	2・3・4③④	○		1	○			1					隔年
	日本史特講Ⅱ	2・3・4①②	○		1	○		1						隔年
	日本史特講Ⅲ	2・3・4①②	○		1	○			1					隔年
	アジア史特講Ⅰ	2・3・4①②	○		1	○		1						隔年
	アジア史特講Ⅱ	2・3・4③④	○		1	○		1						隔年
	西洋史特講Ⅰ	2・3・4③④	○		1	○		1						隔年
	西洋史特講Ⅱ	2・3・4①②	○		1	○				1			1	隔年
	言語学特講Ⅰ	2・3・4③④	○		1	○			1					隔年
	日本語学特講Ⅰ	2・3・4①②	○		1	○							1	隔年
	日本語学特講Ⅱ	2・3・4①②	○		1	○		1						隔年
	日本古典文学特講	2・3・4③④	○		1	○							1	隔年
	日本比較文学特講	2・3・4①②	○		1	○		1						隔年
	中国文学特講Ⅰ	2・3・4③④	○		1	○							1	隔年
	中国文学特講Ⅱ	2・3・4③④	○		1	○		1						隔年
	朝鮮言語文化特講	2・3・4③④	○		1	○		1						隔年
	英語学特講Ⅰ	2・3・4③④	○		1	○		1						隔年
	英語学特講Ⅱ	2・3・4①②	○		1	○							1	隔年
	英米文学特講Ⅰ	2・3・4①②	○		1	○			1					隔年
	英米文学特講Ⅱ	2・3・4③④	○		1	○							1	隔年
	英米文化特講Ⅱ	2・3・4①②	○		1	○			1					隔年
	応用英語学特講Ⅰ	2・3・4③④	○		1	○				1				隔年
	応用英語学特講Ⅱ	2・3・4①②	○		1	○		1						隔年
	ドイツ言語文化特講Ⅰ	2・3・4③④	○		1	○			1					隔年
	ドイツ言語文化特講Ⅱ	2・3・4①②	○		1	○			1					隔年
	フランス言語文化特講Ⅰ	2・3・4①②	○		1	○			1					隔年
	フランス言語文化特講Ⅱ	2・3・4③④	○		1	○		1						隔年
小計（40科目）		—	—	0	40	0	—	15	13	5	0	0	8	

専門教育科目	人文学履修コース指定専門科目	演習科目群	基礎演習	哲学基礎演習Ⅰ	2・3・4③④	○		1		○		1					隔年
				哲学基礎演習Ⅱ	2・3・4①②	○		1		○	1						隔年
				倫理思想史基礎演習	2・3・4①②	○		1		○		1					隔年
				芸術学基礎演習Ⅰ	2・3・4①②	○		1		○		1					隔年
				芸術学基礎演習Ⅱ	2・3・4①②	○		1		○			1				隔年
				心理学基礎演習Ⅰ	2・3・4①②	○		1		○	1						隔年
				心理学基礎演習Ⅱ	2・3・4①②	○		1		○			1				隔年
				社会学基礎演習Ⅱ	2・3・4①②	○		1		○		1					隔年
				社会学基礎演習Ⅲ	2・3・4①②	○		1		○	1						隔年
				地理学基礎演習Ⅰ	2・3・4①②	○		1		○	1						隔年
				地理学基礎演習Ⅱ	2・3・4①②	○		1		○		1					隔年
				考古学基礎演習Ⅰ	2・3・4①②	○		1		○		1					隔年
				考古学基礎演習Ⅱ	2・3・4①②	○		1		○		1					隔年
				文化人類学基礎演習	2・3・4①②	○		1		○			1				隔年
				日本史基礎演習Ⅰ	2・3・4①②	○		1		○		1					隔年
				日本史基礎演習Ⅱ	2・3・4①②	○		1		○	1						隔年
				日本史基礎演習Ⅲ	2・3・4①②	○		1		○		1					隔年
				アジア史基礎演習Ⅰ	2・3・4①②	○		1		○	1						隔年
				アジア史基礎演習Ⅱ	2・3・4①②	○		1		○	1						隔年
				西洋史基礎演習Ⅰ	2・3・4①②	○		1		○	1						隔年
				西洋史基礎演習Ⅱ	2・3・4③④	○		1		○			1				隔年
				言語学基礎演習Ⅰ	2・3・4①②	○		1		○		1					隔年
				日本語学基礎演習Ⅰ	2・3・4	○		1		○					1		隔年
				日本語学基礎演習Ⅱ	2・3・4③④	○		1		○	1						隔年
				日本文学基礎演習Ⅰ	2・3・4	○		1		○					1		隔年
				日本文学基礎演習Ⅱ	2・3・4①②	○		1		○	1						隔年
				日本文学基礎演習Ⅲ	2・3・4①②	○		1		○	1						隔年
				日本文学基礎演習Ⅳ	2・3・4①②	○		1		○	1						隔年
				中国文学基礎演習Ⅰ	2・3・4①②	○		1		○					1		隔年
				中国文学基礎演習Ⅱ	2・3・4①②	○		1		○	1						隔年
				朝鮮言語文化基礎演習	2・3・4①②	○		1		○	1						隔年
				英語学基礎演習Ⅰ	2・3・4①②	○		1		○	1						隔年
				英語学基礎演習Ⅱ	2・3・4	○		1		○					1		隔年
				英米文学基礎演習Ⅰ	2・3・4①②	○		1		○		1					隔年
				英米文学基礎演習Ⅱ	2・3・4	○		1		○					1		隔年
				英米文化基礎演習Ⅱ	2・3・4①②	○		1		○		1					隔年
				応用英語学基礎演習Ⅰ	2・3・4①②	○		1		○			1				隔年
				応用英語学基礎演習Ⅱ	2・3・4①②	○		1		○	1						隔年
				ドイツ言語文化基礎演習Ⅰ	2・3・4③④	○		1		○		1					隔年
				ドイツ言語文化基礎演習Ⅱ	2・3・4①②	○		1		○		1					隔年
				フランス言語文化基礎演習Ⅰ	2・3・4①②	○		1		○		1					隔年
				フランス言語文化基礎演習Ⅱ	2・3・4①②	○		1		○		1					隔年
				小計（42科目）	—	—	0	42	0	—	17	15	5	0	0	5	

演習科目群	専門演習	哲学専門演習Ⅰ	2・3・4①②	○		1		○		1						隔年
		哲学専門演習Ⅱ	2・3・4③④	○		1		○		1						隔年
		倫理思想史専門演習	2・3・4③④	○		1		○		1						隔年
		哲学思想史専門演習	2・3・4 ①②③④	○		1		○		1						
		芸術学専門演習Ⅰ	2・3・4③④	○		1		○			1					隔年
		芸術学専門演習Ⅱ	2・3・4③④	○		1		○				1				隔年
		心理学専門演習Ⅰ	2・3・4③④	○		1		○		1						隔年
		心理学専門演習Ⅱ	2・3・4③④	○		1		○				1				隔年
		心理学実験演習	2①②③④	○		1		○		1						
		社会学専門演習Ⅱ	2・3・4③④	○		1		○			1					隔年
		社会学専門演習Ⅲ	2・3・4③④	○		1		○		1						隔年
		地理学専門演習Ⅰ	2・3・4③④	○		1		○		1						隔年
		地理学専門演習Ⅱ	2・3・4③④	○		1		○			1					隔年
		考古学専門演習Ⅰ	2・3・4③④	○		1		○			1					隔年
		考古学専門演習Ⅱ	2・3・4①②	○		1		○			1					
		考古学専門演習Ⅲ	2・3・4 ①②③④	○		1		○		1	1					共同
		文化人類学専門演習	2・3・4③④	○		1		○				1				
		地域文化実験演習	2・3・4	○		1		○		2	2				1	共同
		日本史専門演習Ⅰ	2・3・4③④	○		1		○			1					隔年
		日本史専門演習Ⅱ	2・3・4③④	○		1		○		1						隔年
		日本史専門演習Ⅲ	2・3・4③④	○		1		○			1					隔年
		アジア史専門演習Ⅰ	2・3・4③④	○		1		○		1						隔年
		アジア史専門演習Ⅱ	2・3・4③④	○		1		○		1						隔年
		西洋史専門演習Ⅰ	2・3・4①②	○		1		○		1						隔年
		西洋史専門演習Ⅱ	2・3・4③④	○		1		○				1				隔年
		歴史文化専門演習	2・3・4	○		1		○		1	1					共同
		言語学専門演習Ⅰ	2・3・4①②	○		1		○			1					隔年
		日本語学専門演習Ⅰ	2・3・4	○		1		○							1	
		日本語学専門演習Ⅱ	2・3・4③④	○		1		○		1						隔年
		日本文学専門演習Ⅰ	2・3・4	○		1		○							1	
		日本文学専門演習Ⅱ	2・3・4③④	○		1		○		1						隔年
		日本文学専門演習Ⅲ	2・3・4③④	○		1		○		1						隔年
		日本文学専門演習Ⅳ	2・3・4③④	○		1		○		1						隔年
		中国文学専門演習Ⅰ	2・3・4③④	○		1		○							1	隔年
		中国文学専門演習Ⅱ	2・3・4③④	○		1		○		1						隔年
		朝鮮言語文化専門演習	2・3・4①②	○		1		○		1						隔年
		英語学専門演習Ⅰ	2・3・4 ①②③④	○		1		○		1						
		英語学専門演習Ⅱ	2・3・4	○		1		○							1	
		英米文学専門演習Ⅰ	2・3・4 ①②③④	○		1		○			1					
		英米文学専門演習Ⅱ	2・3・4	○		1		○							1	
		英米文化専門演習Ⅱ	2・3・4 ①②③④	○		1		○			1					
		応用英語学専門演習Ⅰ	2・3・4 ①②③④	○		1		○				1				
		応用英語学専門演習Ⅱ	2・3・4 ①②③④	○		1		○		1						
		ドイツ言語文化専門演習Ⅰ	2・3・4 ①②③④	○		1		○			1					
		ドイツ言語文化専門演習Ⅱ	2・3・4 ①②③④	○		1		○			1					
		フランス言語文化専門演習Ⅰ	2・3・4 ①②③④	○		1		○			1					
		フランス言語文化専門演習Ⅱ	2・3・4 ①②③④	○		1		○		1						
小計（47科目）			—	—	0	47	0	—		18	15	5	0	0	6	
	卒業論文	4後		8				○		14	10	4				
小計（1科目）			—	—	8	0	0	—		14	10	4	0	0	0	
専門教育科目小計（317科目）			—	—	14	501	0	—		32	32	9	1	0	50	
合計（398科目）			—	—	27	547	59	—		33	32	9	1	0	440	

学位又は称号	学士（法学・政策学）、 学士（学術）、学士（人文学）	学位又は学科の分野	法学関係、経済学関係、文学関係
卒業・修了要件及び履修方法		授業期間等	
【法学・政策学履修コース】 共通教育科目 25単位以上 ・「基盤科目」必修11単位 ・「未来思考支援科目」必修2単位 ・「教養科目」「愛大スタンダード科目」3単位以上を含む12単位以上 専門教育科目 82単位以上 ・「専門入門科目群」4単位（「法文学部基礎セミナー」2単位、「人文社会科学入門」2単位） ・「実践科目群」6単位（「社会科学リテラシー」2単位は必修） ・「専門科目群」40単位（「法律学科目」12単位、「政治学科目・経済学科目」12単位、「法律学・政治学・経済学・総合科目のいずれか」16単位） ・「演習科目群」8単位 ・「他コース・自コース・実践科目余剰」24単位 自由選択 18単位以上 ・共通教育科目（発展科目を除く）、専門教育科目、他大学・他学部の科目、「教育の基礎的理解に関する科目等」及び「各教科の指導法」、博物館に関する科目 合計125単位以上 【人文学履修コース】 共通教育科目 25単位以上 ・「基盤科目」必修11単位 ・「未来思考支援科目」必修2単位 ・「教養科目」「愛大スタンダード科目」3単位以上を含む12単位以上 専門教育科目 82単位以上 ・「専門入門科目群」4単位（「法文学部基礎セミナー」2単位、「人文社会科学入門」2単位） ・「実践科目群」6単位 ・「基盤科目群」10単位 ・「展開科目群」6単位 ・「演習科目群」10単位 ・「基盤・展開・演習科目群のいずれか」14単位 ・「卒業論文」8単位 ・「他コース・自コース・実践科目余剰」24単位 自由選択 18単位以上 ・共通教育科目（発展科目を除く）、専門教育科目、他大学・他学部の科目、「教育の基礎的理解に関する科目等」及び「各教科の指導法」、博物館に関する科目 合計125単位以上 （履修科目の登録の上限） 学生が1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限は、24単位とする。 ただし、第4年次及び修業年限を超えて在学する者で、やむを得ない理由があるものは30単位とすることができる。		1 学年の学期区分	4 期
		1 学期の授業期間	8 週
		1 時限の授業の標準時間	9 0 分

(注)

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「主要授業科目」の欄は，授業科目が主要授業科目に該当する場合，欄に「○」を記入すること。なお，高等専門学校の学科を設置する場合は，「主要授業科目」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 5 「単位数」の欄は，各授業科目について，「必修」，「選択」，「自由」のうち，該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 6 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
- 7 「授業形態」の欄は，各授業科目について，該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし，専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち，臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を，連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 8 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員等」と読み替えること。
- 9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し，若しくは変更する場合は，次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には，当該専門職大学の全課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え，前期課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には，当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え，当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には，当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え，前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 11 高等専門学校の学科を設置する場合は，高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については，備考欄に「☆」を記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(社会共創学部産業マネジメント学科)																	
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く）教員	
基盤科目		新入生セミナー	1①②		2			○								10	メディア
		こころと健康	1①		1			○								7	
		スポーツ	1①		1			○								13	
		English Foundation	1③④		1			○								13	
		English Communication Strategies	1①		2				○							14	
		社会力入門	1④		1			○								3	
		情報リテラシー入門Ⅰ	1①		1			○								9	
		情報リテラシー入門Ⅱ	1②		1			○								9	
		知的財産入門	1③		1			○			1					9	
		小計（ 9 科目）	—	—	11	0	0	—		1	0	0	0	0	0	87	
未来支援 科目	Beyond SDGs	2③		1			○			1	1				4	メディア	
	未来思考リテラシー	2④		1			○								3	メディア	
	小計（ 2 科目）	—	—	2	0	0	—		1	1	0	0	0	0	7		
共通教育科目	愛大スタンダード科目	自然	自然法則の探究	1③④			1		○						2		
			宇宙・地球のすがた	1①②			1		○							4	
			物質の構造と変化	1①②③④			1		○		1	3	1			3	
		技術	技術の力	1①②③④			1		○							9	
			科学技術と人間	1①②③④			1		○							15	
			データリテラシー入門	1①②③④			1		○							6	
		生命	生命と物質	1①②③④			1		○							4	
			生命の営み	1①②③④			1		○							6	
			生命を守る	1①②			1		○							1	
		人間	多様性と共生	1③④			1		○							6	
			ことばの力	1①②③④			1		○							6	
			文化・芸術を読み解く	1①②③④			1		○							1	
		制度	ビジネスリサーチ	1①②			1		○				1			1	
			政治・経済の考え方	1①②③④			1		○		1	3				6	
			なぜ法を知るべきか	1①②③④			1		○							7	
		社会	歴史からの問い	1①②③④			1		○							6	
			地理から見た世界	1①②			1		○			1				3	
			環境と社会	1①②③④			1		○			1	1			13	
	小計（ 18 科目）	—	—	0	18	0	—		3	9	2	1	0	0	99		
	教養科目	愛大ブライム科目	愛大ブライム科目	1①②③④・2①②③④・3①②			1		○			2			1	32	
愛大ブライム科目			1①②③④・2①②③④			2		○			1				10		
小計（ 2 科目）		—	—	0	3	0	—		2	1	0	1	0	0	42		
課題発見基礎セミナー		課題発見基礎セミナー	1①②③④・2①②③④			1			○							16	
	課題発見基礎セミナー	1①②③④・2①②③④			2			○							2		
	小計（ 2 科目）	—	—	0	3	0	—		0	0	0	0	0	0	18		
大学間連携科目	大学間連携科目	1①②③④・2①②③④			1		○				1				33	メディア	
	大学間連携科目	1①②③④・2①②③④			2		○								16	メディア	
	小計（ 2 科目）	—	—	0	3	0	—		0	1	0	0	0	0	49		
初修外国語	初級ドイツ語Ⅰ	1①			1			○							4		
	初級ドイツ語Ⅱ	1②			1			○							4		
	初級ドイツ語Ⅲ	1③			1			○							3		
	初級ドイツ語Ⅳ	1④			1			○							3		
	初級フランス語Ⅰ	1①			1			○							3		
	初級フランス語Ⅱ	1②			1			○							3		
	初級フランス語Ⅲ	1③			1			○							3		
	初級フランス語Ⅳ	1④			1			○							3		
	初級中国語Ⅰ	1①			1			○							4		
	初級中国語Ⅱ	1②			1			○							4		
	初級中国語Ⅲ	1③			1			○							3		
	初級中国語Ⅳ	1④			1			○							3		

共通教育科目	教養科目	初修外国語	初級朝鮮語Ⅰ	1①			1		○							7		
			初級朝鮮語Ⅱ	1②			1		○				7					
			初級朝鮮語Ⅲ	1③			1		○				4					
			初級朝鮮語Ⅳ	1④			1		○				4					
			小計(16科目)	—	—	0	16	0	—			0	0	0	0	0	62	
	発展科目	持続可能性に関する科目	SDGs×Food-Value-Chain in Ehime for Glocal Food Security	1①②③④				1	○				2				2	メディア
			田舎×持続可能性でブランド化する愛媛と世界の経済学	1①②③④				1	○				2				2	メディア
			小計(2科目)	—	—	0	0	2	—			0	2	0	0	0	4	
			ト・U・I・J・I・サ・成・バ・ンに関する科目	SDGs—グローバル未来創成入門	1①②				2	○				1				1
		ベーシック国内サービスラーニング		1①②				4		○			2				2	
		ベーシック海外サービスラーニング		1③④				4		○			2				1	
		アドバンスド国内サービスラーニング		2①②				4		○			2				2	
		アドバンスド海外サービスラーニング		2③④				4		○			2				1	
		小計(5科目)		—	—	0	0	18	—			0	2	0	0	0	7	
		環境ESD目録S	環境ESD指導者養成講座Ⅰ	1③④				4	○								2	
			環境ESD指導者養成講座Ⅱ	2①②				4	○								2	
		小計(2科目)	—	—	0	0	8	—			0	0	0	0	0	4		
		愛媛大学グローバルリダーズ・スクールの科目	愛媛大学リーダーズ・スクール	1①②				2	○								2	
			ファシリテーションとリーダーシップ	1③④				2	○								2	
			グローバル・リーダーシップⅠ	1③④				1		○							2	
グローバル・リーダーシップⅡ	1③④					1		○							2			
グローバル・リーダーシップⅢ	1③④					1		○							1			
グローバル・リーダーシップⅣ	1③④					1		○							1			
リーダーシップ・フィールド演習Ⅰ	1①②③④					2		○							1			
リーダーシップ・フィールド演習Ⅱ	1①②③④					2		○							1			
リーダーシップ・フィールド演習Ⅲ	1①②③④					2		○							1			
小計(9科目)	—		—	0	0	14	—			0	0	0	0	0	13			
アスファルト科目	英語S1	1②				2	○								1			
	英語S2	1④				2		○							1			
	英語S3	2①②③④				2		○							8			
	小計(3科目)	—	—	0	0	6	—			0	0	0	0	0	10			
留学生対象科目	日本語科目	アカデミックジャパニーズ1	1①				1		○						1			
		アカデミックジャパニーズ2	1②				1		○						1			
		アカデミックジャパニーズ3	1③				1		○						1			
		小計(3科目)	—	—	0	0	3	—			0	0	0	0	0	3		
	日本語に関する科目	日本事情A1	1①②				2	○							1			
		日本事情A2	1③④				2		○						1			
		日本事情B1	1①②				2		○						1			
		日本事情B2	1③④				2		○						1			
小計(4科目)	—	—	0	0	8	—			0	0	0	0	0	4				
専門教育科目	基礎科目力育成	社会共創入門	1①	○	1			○			3	2					オムニバス・共同(一部)	
		経営入門	1②	○	2			○			2					共同		
		基礎データ処理	1③	○	2			○			5			2		共同		
		持続可能性科学	1④	○	2			○			1							
		小計(4科目)	—		7	0	0	—			5	8	0	2	0	0		
	実践力育成科目群	フィールド・プロジェクト演習科目	フィールドワーク入門	1①	○	2			○			4	3					オムニバス
			フィールド実習	2②	○	2					2	8			5		共同	
			プロジェクト基礎演習	2③～④	○	2			○			7	4			2		共同
			プロジェクト実践演習	3①～②	○	2			○			7	4					共同
			プロジェクト応用演習	3③～④	○	2			○			7	4					共同
			海外フィールド実習Ⅰ	1①②③④			4				○		3					共同
			海外フィールド実習Ⅱ	2①②③④			4				○		3					共同
		キャリア育成科目	リーダーシップ入門	1①	○	2			○			1	4				1	オムニバス・共同(一部)
			社会共創演習Ⅰ	2④	○	1				○		7	4					共同
			社会共創演習Ⅱ	4④	○	1				○		7	4					共同
			キャリア入門	2①②③④	○	2					○	2	2					オムニバス・共同(一部)
			インターンシップ	3①②③④	○		2				○	1	2			1		共同
			キャリア特論Ⅰ	2③			1			○							1	
		キャリア特論Ⅱ	2④			1			○		1					2	オムニバス・共同(一部)	
		実践力育成発展科目	初年次プロジェクト演習	1①～②	○	2				○		2	2					共同
情報処理論	1①				2			○			1							
簿記原理	1③～④				4			○								1		
ビジネス会計特講	2①～②				2			○								2		
情報経済論	2①～②				2			○		1								
産業マネジメント特講	2③～④				2			○								1		
小計(20科目)	—	—	18	24	0	—			7	3	0	2	0	8				

専門 教 育 科 目	課題 解 決 思 考 力 育 成 科 目 群		統計学入門	2②	○	2			○				1							
			地域経済学	2①	○	2			○				1							
			社会心理学	1③	○		2		○											
			地域社会論	1③	○		2		○								1			
			質的データの収集と分析	2①			2		○			2	2						オムニバス・共同 (一部)	
			データサイエンス	2①～②	○		2		○			2		1					オムニバス・共同 (一部)	
			食と農の持続可能性と地域のイニシアティブ	2③④			1		○				2				2		メディア	
			食と農のマルチスปีシーズ持続可能性理論	2③④			1		○				2				2		メディア	
			小計(8 科目)	—	—	4	10	0	—			5	3	1	2	0	3			
	専門 教 育 科 目	学 科 基 礎		経済学概論	1①	○	2			○			1							
				微積分Ⅰ	1①	○	1				1									
				線形代数Ⅰ	1③	○	1							1						
				小計(3 科目)	—	—	4	0	0	—			2	0	1	0	0	0		
		学 科 専 門 科 目	経 済 系		ミクロ経済学Ⅰ	1③	○		2		○			1						
					ビジネスエコノミクス	1③	○		2		○						1			
					プログラミング	1④	○		2			○				1				
					マーケティング概論	1④	○		2		○					1				
					応用データ処理	2①	○		2		○			1						
					マーケティング・リサーチ	2①	○		2		○						1			
					地域産業論	2①～②	○		2		○			1						
					情報産業論	2③	○		2		○			1						
					数理経済学	2③	○		2		○			1						
					サービス・マーケティング論	2③	○		2		○				1					
					ミクロ経済学Ⅱ	2④	○		2		○			1						
					ビジネスプランニング	3③～④	○		2				1							
					地域政策論	3③～④	○		2								1			
					消費者行動論	3④	○		2		○						1			
			経 営 系		組織デザイン論	1④	○		2		○			1						
					人的資源管理論	2①	○		2		○				1					
					流通論	2②	○		2		○				1					
					生産管理論	2②	○		2		○			1						
					会計学原理	2①②③④			2		○								1	
					戦略的経営	2③	○		2		○			1						
					経営情報システム論Ⅰ	2③	○		2		○			1						
					地域・中小企業家論	2③～④	○		2		○			1					1	共同
					原価計算論	2③～④	○		4		○			1						
					ビジネスファイナンス	2④	○		2		○			1						
					組織行動論	2④	○		2		○				1					
					意思決定会計	3①～②	○		2		○			1						
					業績評価会計	3②			2		○								1	
					地域商業論	3③～④	○		2		○					1				
			経営工学	3④	○		2		○			1								
			経営情報システム論Ⅱ	3④	○		2		○			1								
			他 学 科 科 目		海洋生産科学概論	1③			2		○			2	3		1		1	オムニバス・共同 (一部)
					紙産業概論	1④			2		○			1	3	1				オムニバス・共同 (一部)
					ものづくり概論	1③～④			2		○			2		1				オムニバス・共同 (一部)
					社会資本の整備と運用	2②			2		○			3						オムニバス・共同 (一部)
農林漁業団体論					2①～②			2		○						1				
住民参加と合意形成					3①			2		○			1							
新規就農と地域					3①～②			2		○						1				
地域防災実践学					3②			2		○				1						
他 学 部 科 目				民法総論	2①～②			2		○								1		
				マクロ経済学Ⅰ	2③～④			2		○									1	
				マクロ経済学Ⅱ	2①～②			2		○									1	
				金融論Ⅰ	2①～②			2		○									1	
				財政学Ⅰ	2①～②			2		○									1	
	財政学Ⅱ			2③～④			2		○									1		
	労働法			2①～②			2		○									1		
	会社法Ⅰ			3①～②			2		○									1		
	会社法Ⅱ			3③～④			2		○									1		
	知的財産法	3①～②				2		○									1			
	競争法政策	3③～④				2		○									1			
	小計(49 科目)	—		—	0	100	0	—			7	5	2	3	0	7				
定 学 科 位 目 認		自由課題研究	3①～④			4			○		5	3								
		卒業研究	4①～④			4			○		5	3								
		小計(2 科目)	—	—	0	8	0	—			5	3	0	0	0	0				
合計 (165科目)				—	—	46	185	59	—			7	9	2	3	0	417			

学位又は称号	学士（社会共創学）	学位又は学科の分野	学際領域
卒業・修了要件及び履修方法		授業期間等	
共通教育科目 25単位以上		1 学年の学期区分	4 期
・「基盤科目」 必修11単位 ・「未来思考支援科目」 必修 2 単位 ・「教養科目」 「愛大スタンダード科目」 3 単位以上を含む12単位以上		1 学期の授業期間	8 週
		1 時限の授業の標準時間	90分
専門教育科目 99単位以上			
・『基礎力育成科目群』 必修7単位 ・『実践力育成科目群』 フィールド・プロジェクト演習科目 必修10単位 キャリア育成科目 必修6単位 実践力育成発展科目 「初年次プロジェクト演習」 必修2単位、その他の科目から4単位以上 ・『課題解決思考力育成科目群』 「統計学入門」、「地域経済学」 必修4単位 「社会心理学」、「地域社会論」、「質的データの収集と分析」、「データサイエンス」 から選択必修 2 単位以上 ・『専門力育成科目群』 「学科基礎科目」 必修 4 単位 「学科専門科目」 選択 4 6 単位以上。ただし、「経済系」「経営系」科目から 4 4 単位以上選択必修 ・『学位認定科目群』 「自由課題」、「卒業研究」のいずれか 1 科目 4 単位選択必修（両方は履修できない。） ・『自己デザイン科目』 以下の科目より選択 1 0 単位以上。なお、専門教育科目について、卒業要件単位数以上に修得した単位を含めることができる。 ・所属する学科、履修コースの授業科目表に記載されていない他学部・他学科の専門教育科目 ・単位互換協定を結んでいる他大学の授業科目			
合計 1 2 4 単位以上			
(履修科目の登録の上限)			
1学期あたりの上限単位数は24単位とする。			
ただし、病気、怪我等やむを得ない事情がある者等については、教務委員会の議を経て、上限単位数を超えて履修科目の登録を認めることができる。			

教 育 課 程 等 の 概 要																
(社会共創学部産業イノベーション学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹(助手を除く)教員	
基盤科目	新入生セミナー	1①②		2			○								10	メディア
	こころと健康	1①		1			○								7	
基盤科目	スポーツ	1①		1			○								13	メディア
	English Foundation	1③④		1			○								13	
基盤科目	English Communication Strategies	1①		2				○							14	メディア
	社会力入門	1④		1			○								3	
基盤科目	情報リテラシー入門Ⅰ	1①		1			○								9	メディア
	情報リテラシー入門Ⅱ	1②		1			○								9	
基盤科目	知的財産入門	1③		1			○			1					9	メディア
	小計(9科目)	—	—	11	0	0	—	—	—	1	0	0	0	0	87	
科目 支援 目	Beyond SDGs	2③		1			○			1	2				4	メディア
	未来思考リテラシー	2④		1			○								3	メディア
科目 支援 目	小計(2科目)	—	—	2	0	0	—	—	—	1	2	0	0	0	7	
共通教育科目	自然	1③④			1		○								2	
	宇宙・地球のすがた	1①②			1		○								4	
共通教育科目	物質の構造と変化	1①②③④			1		○			1	3	1			3	
	技術の力	1①②③④			1		○								9	
共通教育科目	科学技術と人間	1①②③④			1		○								15	
	データリテラシー入門	1①②③④			1		○								6	
共通教育科目	生命と物質	1①②③④			1		○								4	
	生命の営み	1①②③④			1		○								6	
共通教育科目	生命を守る	1①②			1		○								1	
	多様性と共生	1③④			1		○								6	
共通教育科目	ことばの力	1①②③④			1		○								6	
	文化・芸術を読み解く	1①②③④			1		○								1	
共通教育科目	ビジネスリサーチ	1①②			1		○				1		1		1	
	政治・経済の考え方	1①②③④			1		○			1	3				6	
共通教育科目	なぜ法を知るべきか	1①②③④			1		○								7	
	歴史からの問い	1①②③④			1		○			1	1				6	
共通教育科目	地理から見た世界	1①②			1		○								2	
	環境と社会	1①②③④			1		○				1	1			13	
共通教育科目	小計(18科目)	—	—	0	18	0	—	—	—	3	9	2	1	0	98	
教養科目	愛大プライム科目	1①②③④・2①②③④・3①②③④			1		○			2			1		32	
	愛大プライム科目	1①②③④・2①②③④			2		○				1				10	
教養科目	小計(2科目)	—	—	0	3	0	—	—	—	2	1	0	1	0	42	
教養科目	課題発見基礎セミナー	1①②③④・2①②③④			1			○							16	
	課題発見基礎セミナー	1①②③④・2①②③④			2			○							2	
教養科目	小計(2科目)	—	—	0	3	0	—	—	—	0	0	0	0	0	18	
教養科目	大学間連携科目	1①②③④・2①②③④			1		○				1				33	メディア
	大学間連携科目	1①②③④・2①②③④			2		○								16	メディア
教養科目	小計(2科目)	—	—	0	3	0	—	—	—	0	1	0	0	0	49	
初修外国語	初級ドイツ語Ⅰ	1①			1			○							4	
	初級ドイツ語Ⅱ	1②			1			○							4	
初修外国語	初級ドイツ語Ⅲ	1③			1			○							3	
	初級ドイツ語Ⅳ	1④			1			○							3	
初修外国語	初級フランス語Ⅰ	1①			1			○							3	
	初級フランス語Ⅱ	1②			1			○							3	
初修外国語	初級フランス語Ⅲ	1③			1			○							3	
	初級フランス語Ⅳ	1④			1			○							3	
初修外国語	初級中国語Ⅰ	1①			1			○							4	
	初級中国語Ⅱ	1②			1			○							4	
初修外国語	初級中国語Ⅲ	1③			1			○							3	
	初級中国語Ⅳ	1④			1			○							3	

共通教育科目	教養科目	初修外国語	初級朝鮮語Ⅰ	1①			1		○								7	
			初級朝鮮語Ⅱ	1②			1		○								7	
			初級朝鮮語Ⅲ	1③			1		○								4	
			初級朝鮮語Ⅳ	1④			1		○								4	
			小計(16科目)	—	—	0	16	0	—			0	0	0	0	0	62	
	発展科目	持続可能な食と農関する科目	SDGs×Food-Value-Chain in Ehime for Glocal Food Security	1①②③④			1	○					2				2	
			田舎×持続可能性でブランド化する愛媛と世界の経済学	1①②③④			1	○					2				2	
			小計(2科目)	—	—	0	0	2	—			0	2	0	0	0	4	
			ト・ス・U・関する1科目	SDGs—グローバル未来創成入門	1①②			2	○				1				1	
			ベーシック国内サービ斯拉ーニング	1①②			4		○				2				2	
			ベーシック海外サービ斯拉ーニング	1③④			4		○				2				1	
			アドバンスド国内サービ斯拉ーニング	2①②			4		○				2				2	
			アドバンスド海外サービ斯拉ーニング	2③④			4		○				2				1	
		小計(5科目)	—	—	0	0	18	—			0	2	0	0	0	7		
		環境指標科目	環境ESD指導者養成講座Ⅰ	1③④			4	○									2	
			環境ESD指導者養成講座Ⅱ	2①②			4	○									2	
			小計(2科目)	—	—	0	0	8	—			0	0	0	0	0	4	
			愛媛大学リーダーズ・スクール	愛媛大学リーダーズ・スクール	1①②			2	○									2
		ファシリテーションとリーダーシップ		1③④			2	○									2	
		グローバル・リーダーシップⅠ		1③④			1		○								2	
グローバル・リーダーシップⅡ	1③④				1		○								2			
グローバル・リーダーシップⅢ	1③④				1		○								1			
グローバル・リーダーシップⅣ	1③④				1		○								1			
リーダーシップ・フィールド演習Ⅰ	1①②③④				2		○								1			
リーダーシップ・フィールド演習Ⅱ	1①②③④				2		○								1			
リーダーシップ・フィールド演習Ⅲ	1①②③④				2		○								1			
小計(9科目)	—	—		0	0	14	—			0	0	0	0	0	13			
英語科目	英語S1	1②			2	○									1			
	英語S2	1④			2	○									1			
	英語S3	2①②③④			2	○									8			
	小計(3科目)	—	—	0	0	6	—			0	0	0	0	0	10			
留学生対象科目	日本語科目	アカデミックジャパニーズ1	1①			1		○							1			
		アカデミックジャパニーズ2	1②			1		○							1			
		アカデミックジャパニーズ3	1③			1		○							1			
	小計(3科目)	—	—	0	0	3	—			0	0	0	0	0	3			
	日本事情に関する科目	日本事情A1	1①②			2	○									1		
		日本事情A2	1③④			2		○								1		
日本事情B1		1①②			2		○								1			
	日本事情B2	1③④			2		○								1			
	小計(4科目)	—	—	0	0	8	—			0	0	0	0	0	4			
専門教育科目	基礎力育成	基礎力群	社会共創入門	1①	○	1		○			2	2					オムニバス・共同(一部)共同共同	
			経営入門	1②	○	2		○			2							
			基礎データ処理	1③	○	2		○			1		1					
			持続可能性科学	1④	○	2		○			1							
			小計(4科目)	—	—	7	0	0	—		4	4	0	1	0	0		
	実践力育成科目目群	フィールドワーク・プロジェクト・演習科目	フィールドワーク入門	1①	○	2		○			4	3		2		オムニバス共同共同共同共同共同		
			フィールド実習	2②	○	2				2	8		5					
			プロジェクト基礎演習	2③～④	○	2		○			3	6	1					
			プロジェクト実践演習	3①～②	○	2		○		4	6	2						
			プロジェクト応用演習	3③～④	○	2		○		4	6	2						
			海外フィールド実習Ⅰ	1①②③④			4			3								
			海外フィールド実習Ⅱ	2①②③④			4		○		3							
			リーダーシップ入門	1①	○	2		○			1	2					1	
			社会共創演習Ⅰ	2④	○	1			○		2	1	1					
			社会共創演習Ⅱ	4④	○	1				2	1							
		産業技術調査	1②	○	2			○		1	2							
		インターンシップⅠ	3①②③④			2			2	2								
		インターンシップⅡ	3③④④①②③④			2			2	2								
		キャリア特論Ⅰ	2③			1		○							1			
		キャリア特論Ⅱ	2④			1		○		1					2			
実践力育成発展科目	産業イノベーションセミナーⅠ	2①～② 3③～④ 4①～②	○	2			○		2		1				共同			
	産業イノベーションセミナーⅡ	2③～④ 4①～② 4③～④	○	2			○		1	3					共同			
	小計(17科目)	—	—	20	14	0	—		7	8	2	2	0	4				

課題解決思考力育成科目群	課程	統計学入門	2②	○	2			○			2	1							
		データサイエンス	2①～②	○	2			○			2		1						
		社会心理学	1③	○		2		○			1								
		地域社会学	1③	○		2		○									1		
		地域経済学	1③			2		○						1					
		質的データの収集と分析	2①			2		○			2	1							
		食と農の持続可能性と地域のイニシアティブ	2③④			1		○				2					2	メディア	
		食と農のマルチスビーシーズ持続可能性理論	2③④			1		○				2					2	メディア	
		小計(8 科目)	—	—	4	10	0	—			4	4	1	1	0	3			
		学科基礎科目	海洋生産科学概論	1③	○	2			○			1	3						オムニバス・共同(一部)
紙産業概論	1④		○	2			○				3						オムニバス・共同(一部)		
ものづくり概論	1③～④		○	2			○			2		1					オムニバス・共同(一部)		
物理学	1③		○		2		○			1									
生物学	1③～④		○		2		○			2	2						オムニバス・共同(一部)		
化学	1④		○		2		○			1	2						オムニバス・共同(一部)		
小計(6 科目)	—		—	6	6	0	—			5	4	1	0	0	0				
専門教育科目	海洋生産科学系	都市と農山漁村	1④	○	2			○			1			1				共同	
		水産社会学	2①～②	○	2			○			1								
		水族生物学	2③	○	2			○			1								
		水産生物学	2③	○	2			○									1		
		水産生物環境学	2③	○	2			○			1	1		1				オムニバス・共同(一部)	
		養殖環境保全学	3①	○	2			○				1		1				オムニバス・共同(一部)	
		水産経済論	3①～②	○	2			○				1						メディア	
		海洋生産科学Ⅰ	3①～②	○	2			○			1	2					1	オムニバス・共同(一部)	
		海洋生産科学セミナーⅠ	3①～②	○	2				○		1	2		1				共同	
		養殖学	3②	○	2			○			1	1						共同	
		次世代水産イノベーション論	3①②③④	○	2			○			1	3						オムニバス・共同(一部)	
		海洋フィールド学Ⅰ	3①②③④	○	2			○			1	3						オムニバス・共同(一部)	
		海洋生産科学Ⅱ	4①～②	○	2			○			1	2					1	オムニバス・共同(一部)	
		海洋生産科学セミナーⅡ	4①～②	○	2				○		2	2						共同	
	海洋フィールド学Ⅱ	4①②③④	○	2			○			1	2		1				オムニバス・共同(一部)		
	学科専門科目	紙産業系	水産科学論Ⅰ	3①②④①②			2		○				1						
			水産科学論Ⅱ	3①②④①②			2		○				1						
			水産科学論Ⅲ	3①②④①②			2		○				1						
			水産科学論Ⅳ	3①②④①②			2		○			1							
			小計(19 科目)	—	—	30	8	0	—			5	3	0	1	0	1		
			基礎材料分析論	2③	○	2					○		1						
			製紙材料論	2④	○	2			○				1						
			製紙技術論	3①	○	2			○				1						
科学英語Ⅰ			3①～②	○	2			○			1								
紙産業セミナーⅠ	3①②③④		○	1				○		1	2								
紙産業基礎演習	3①～②		○	4				○		1	1								
分析化学Ⅰ	3②		○	2			○			1									
紙加工技術論	3③～④		○	2			○				1								
有機化学	3③		○	2			○				1								
製紙化学Ⅰ	3③	○	2			○				1									
科学英語Ⅱ	3③～④	○	2			○				1									
製紙化学工学	3④	○	2			○			1										
材料科学	3④	○	2			○													
工場見学Ⅰ	3①②③④	○	2					○		1		1				共同			
紙産業セミナーⅡ	4①②③④	○	1				○		1							共同			
紙産業セミナーⅢ	4①②③④	○	2				○		1	2		1				共同			
紙産業セミナーⅣ	4①②③④	○	2				○		1	2		1				共同			
紙産業セミナーⅤ	4①②③④	○	2				○		1	2		1				共同			
分析化学Ⅱ	3④			2		○						1							
科学英語Ⅲ	4①～②			2		○			1										
工場見学Ⅱ	4①②③④			2				○	1	1		1				共同			
製紙化学Ⅱ	4②			2		○				1									
科学英語Ⅳ	4③～④			2		○			1										
小計(23 科目)	—	—	36	10	0	—			1	3	1	0	0	0					
ものづくり系	微積分Ⅰ	1①	○		1		○			1									
	微積分Ⅱ	1②	○		1		○			1									
	線形代数Ⅰ	1③	○		1		○					1					メディア		
	線形代数Ⅱ	1④	○		1		○					1					メディア		
	基礎電磁気学	2①	○		2		○					1							
	工業力学	2①	○		2		○												
	CAD 製図	2①～②	○		2				○	1									
	材料力学	2②	○		2		○			1									
	材料と加工	2③	○		2		○			1						1			
	ものづくり設計	2③～④			2		○									1			

専門教育科目	専門力育成科目群	学 科 専 門 科 目	ものづくり系	ものづくり実習	3①～②	○		2			○		2		1			共同		
				制御工学	3①	○		2		○			1				共同			
				ものづくり実験	3①～②	○		2				○	2		1					
				ものづくり演習	3①～②			2				○	1							
				熱流体力学	3③～④	○		2					1							
				ものづくりセミナーⅠ	4①②			2					1		1				共同	
				ものづくりセミナーⅡ	4③④			2					1							
				計測工学	3②			2			○				1					
				CAE 基礎および演習	3③			2				○		1						
				基礎材料分析論	3③			2			○				1	1				
				小計(20 科目)	—	—	0	36	0		—			2	1	1	0	0	1	
		他学 科 科 目	マーケティング・リサーチ	2①	○		2			○						1				
			流通論	2②	○		2			○						1				
			応用データ処理	3①	○		2			○						1				
			生産管理論	3②	○		2			○						1				
			経営工学	3④	○		2			○						1				
			情報処理論	1①			2			○						1				
			簿記原理	1③④			4			○									1	
			人的資源管理論	2①	○		2			○						1				
			会計学原理	2①②③④			2			○									1	
			生物多様性保全学	2②			2			○						1				
			情報産業論	2③			2			○					1					
			地域・中小企業家論	2③④			2			○					1				1	
			原価計算論	2③④			4			○					1					
			マーケティング概論	2④			2			○						1				
			組織デザイン論	2④			2			○					1					
			ビジネスファイナンス	2④			2			○					1					
			住民参加と合意形成	3①			2			○					1					
			農林漁業団体論	3①～②			2			○							1			
			新規就農と地域	4①～②			2			○							1			
			農業構造論	4①			2			○							1			
			小計(20 科目)	—	—	0	44	0		—			7	5	0	4	0	3		
		他学 部 科 目	環境化学	2③④			2			○									1	
			環境分子生物学	2③④			2			○									2	
			水圏動物生理学	3③④			2			○									1	
			小計(3 科目)	—	—	0	6	0		—			0	0	0	0	0	4		
	定学 科 位 目 認	自由課題研究	3①～④			4				○			6	6	2					
		卒業研究	4①～④			4				○			6	6	2					
		小計(2 科目)	—	—	0	8	0					6	6	2	0	0	0			
合計 (201科目)				—	—	120	185	59		—		14	13	2	8	0	412			

学位又は称号	学士（社会共創学）	学位又は学科の分野	学際領域
卒業・修了要件及び履修方法		授業期間等	
共通教育科目 25単位以上		1 学年の学期区分	4 期
・「基礎科目」 必修11単位 ・「未来思考支援科目」 必修 2 単位 ・「教養科目」 「愛大スタンダード科目」 3 単位以上を含む12単位以上		1 学期の授業期間	8 週
		1 時限の授業の標準時間	90 分
専門教育科目 99単位以上			
・『基礎力育成科目群』 必修7単位 ・『実践力育成科目群』 フィールド・プロジェクト演習科目 必修10単位 キャリア育成科目 必修6単位 実践力育成発展科目 必修 4 単位 ・『課題解決思考力育成科目群』 「統計学入門」、「データサイエンス」 必修 4 単位 「社会心理学」、「地域社会論」、「地域経済学」、「質的データの収集と分析」から選択必修 2 単位以上 ・『専門力育成科目群』 ①海洋生産科学履修コース 学科基礎科目・・・「海洋生産科学概論」、「紙産業概論」、「ものづくり概論」、「生物学」 必修 8 単位、その他科目から選択必修 2 単位以上 履修コース科目・・・「海洋生産科学系」から必修30単位を含め32単位以上選択必修、「他学科科目」8単位以上選択必修、「他学部科目」2単位以上選択必修 ②紙産業履修コース 学科基礎科目・・・「海洋生産科学概論」、「紙産業概論」、「ものづくり概論」、「化学」 必修 8 単位、その他科目から選択必修 2 単位以上 履修コース科目・・・「紙産業系」から必修36単位、「他学科科目」及び「他学部科目」から6単位以上選択必修 ③ものづくり履修コース 学科基礎科目・・・「海洋生産科学概論」、「紙産業概論」、「ものづくり概論」、「物理学」 必修 8 単位、その他の科目から選択必修 2 単位以上 履修コース科目・・・「ものづくり系」から必修30単位、選択必修4単位以上、「他学科科目」から8単位以上。ただし、「他学科科目」には「マーケティング・リサーチ」、「流通論」、「応用データ処理」、「生産管理論」、「経営工学」から選択した4単位以上を含める。 ・『学位認定科目群』 「自由課題」、「卒業研究」のいずれか 1 科目 4 単位選択必修（両方は履修できない。） ・『自己デザイン科目』 以下の科目より選択 1 0 単位以上。なお、専門教育科目について、卒業要件単位数以上に修得した単位を含めることができる。 ・所属する学科、履修コースの授業科目表に記載されていない他学部・他学科の専門教育科目 ・単位互換協定を結んでいる他大学の授業科目			
合計 124 単位以上			
(履修科目の登録の上限)			
1学期あたりの上限単位数は24単位とする。			
ただし、病気、怪我等やむを得ない事情がある者等については、教務委員会の議を経て、上限単位数を超えて履修科目の登録を認めることができる。			

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(社会共創学部環境デザイン学科)																		
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く教員）		
基盤科目		新入生セミナー	1①②		2			○									10	メディア
		こころと健康	1①		1			○									7	
		スポーツ	1①		1			○									13	
		English Foundation	1③④		1			○									13	
		English Communication Strategies	1①		2				○								14	
		社会力入門	1④		1			○									3	
		情報リテラシー入門Ⅰ	1①		1			○									9	
		情報リテラシー入門Ⅱ	1②		1			○									9	
		知的財産入門	1③		1			○			1						9	
		小計(9 科目)	—	—	11	0	0	—	—	1	0	0	0	0	0	87		
考未支援科目		Beyond SDGs	2③		1			○			1	2				4	メディア	
		未来思考リテラシー	2④		1			○								3	メディア	
		小計(2 科目)	—	—	2	0	0	—	—	1	2	0	0	0	0	7		
愛大スタンダード科目	自然	自然法則の探究	1③④			1		○									2	
		宇宙・地球のすがた	1①②			1		○									4	
		物質の構造と変化	1①②③④			1		○			1	3	1				3	
		技術	技術の力	1①②③④			1		○									9
			科学技術と人間	1①②③④			1		○									15
			データリテラシー入門	1①②③④			1		○									6
		生命	生命と物質	1①②③④			1		○									4
			生命の営み	1①②③④			1		○									6
			生命を守る	1①②			1		○									1
		人間	多様性と共生	1③④			1		○									6
			ことばの力	1①②③④			1		○									6
			文化・芸術を読み解く	1①②③④			1		○									1
		制度	ビジネスリサーチ	1①②			1		○				1					1
			政治・経済の考え方	1①②③④			1		○			1	3					6
			なぜ法を知るべきか	1①②③④			1		○									7
		社会	歴史からの問い	1①②③④			1		○									6
			地理から見た世界	1①②			1		○			1	1					2
			環境と社会	1①②③④			1		○				1	1				13
		小計(18 科目)	—	—	0	18	0	—	—	3	9	2	1	0	0	98		
愛大プライム科目		愛大プライム科目	1①②③④・2①②③④・3①②		1		○			2				1		32		
		愛大プライム科目	1①②③④・2①②③④		2		○				1					10		
		小計(2 科目)	—	—	0	3	0	—	—	2	1	0	1	0	42			
課題発見基礎		課題発見基礎セミナー	1①②③④・2①②③④		1			○								16		
		課題発見基礎セミナー	1①②③④・2①②③④		2			○								2		
		小計(2 科目)	—	—	0	3	0	—	—	0	0	0	0	0	18			
大学間連携科目		大学間連携科目	1①②③④・2①②③④		1		○				1					33	メディア	
		大学間連携科目	1①②③④・2①②③④		2		○									16	メディア	
		小計(2 科目)	—	—	0	3	0	—	—	0	1	0	0	0	0	49		
初修外国語		初級ドイツ語Ⅰ	1①		1			○								4		
		初級ドイツ語Ⅱ	1②		1			○								4		
		初級ドイツ語Ⅲ	1③		1			○								3		
		初級ドイツ語Ⅳ	1④		1			○								3		
		初級フランス語Ⅰ	1①		1			○								3		
		初級フランス語Ⅱ	1②		1			○								3		
		初級フランス語Ⅲ	1③		1			○								3		
		初級フランス語Ⅳ	1④		1			○								3		
		初級中国語Ⅰ	1①		1			○								4		
		初級中国語Ⅱ	1②		1			○								4		
		初級中国語Ⅲ	1③		1			○								3		
		初級中国語Ⅳ	1④		1			○								3		

共通教育科目	教養科目	初修外国語	初級朝鮮語Ⅰ	1①			1			○						7	
			初級朝鮮語Ⅱ	1②			1			○						7	
			初級朝鮮語Ⅲ	1③			1			○						4	
			初級朝鮮語Ⅳ	1④			1			○						4	
			小計(16科目)	—	—	0	16	0	—	—	—	—	—	—	—	62	
	発展科目	持続可能性に関する科目	SDGs×Food-Value-Chain in Ehime for Global Food Security	1①②③④				1	○				2			2	
			田舎×持続可能性でブランド化する愛媛と世界の経済学	1①②③④				1	○				2			2	
			小計(2科目)	—	—	0	0	2	—	—	—	—	0	2	0	0	4
			小計(5科目)	—	—	0	0	18	—	—	—	—	0	2	0	0	7
		ト・U・リ・J・I・サ・成・パ・ンに関する科目	SDGs—グローバル未来創成入門	1①②				2	○				1			1	
			ベーシック国内サービスラーニング	1①②				4		○			2			2	
			ベーシック海外サービスラーニング	1③④				4		○			2			1	
			アドバンスド国内サービスラーニング	2①②				4		○			2			2	
			アドバンスド海外サービスラーニング	2③④				4		○			2			1	
		環境ESD指導者養成講座	環境ESD指導者養成講座Ⅰ	1③④				4	○							2	
			環境ESD指導者養成講座Ⅱ	2①②				4	○							2	
			小計(2科目)	—	—	0	0	8	—	—	—	—	0	0	0	0	4
		愛媛大学グローバルリーダーズ・スクールの科目	愛媛大学リーダーズ・スクール	1①②				2	○							2	
			ファシリテーションとリーダーシップ	1③④				2	○							2	
			グローバル・リーダーシップⅠ	1③④				1		○						2	
			グローバル・リーダーシップⅡ	1③④				1		○						2	
			グローバル・リーダーシップⅢ	1③④				1		○						1	
			グローバル・リーダーシップⅣ	1③④				1		○						1	
			リーダーシップ・フィールド演習Ⅰ	1①②③④				2		○						1	
			リーダーシップ・フィールド演習Ⅱ	1①②③④				2		○						1	
			リーダーシップ・フィールド演習Ⅲ	1①②③④				2		○						1	
		英語S1	英語S1	1②				2	○							1	
			英語S2	1④				2	○							1	
			英語S3	2①②③④				2	○							8	
			小計(3科目)	—	—	0	0	6	—	—	—	—	0	0	0	0	10
		留学生対象科目	アカデミックジャパニーズ1	1①				1		○						1	
			アカデミックジャパニーズ2	1②				1		○						1	
			アカデミックジャパニーズ3	1③				1		○						1	
			小計(3科目)	—	—	0	0	3	—	—	—	—	0	0	0	0	3
		日本事情に関する科目	日本事情A1	1①②				2	○							1	
			日本事情A2	1③④				2	○							1	
			日本事情B1	1①②				2	○							1	
			日本事情B2	1③④				2	○							1	
			小計(4科目)	—	—	0	0	8	—	—	—	—	0	0	0	0	4
	専門教育科目	基礎力群育成	社会共創入門	1①	○	1			○				2	2			オムニバス・共同(一部)
			経営入門	1②	○	2			○				2				共同
			基礎データ処理	1③	○	2			○				1		1		共同
			持続可能性科学	1④	○	2			○				1				共同
			小計(4科目)	—	—	7	0	0	—	—	—	—	4	4	0	1	0
		実践力育成科目群	フィールドワーク入門	1①	○	2			○				4	3		2	オムニバス
			フィールド実習	2②	○	2					○		2	8		5	共同
			プロジェクト基礎演習	2③～④	○	2			○				2	3	1	1	1
			プロジェクト実践演習	3①～②	○	2			○				3	4	1	1	1
			プロジェクト応用演習	3③～④	○	2			○				3	4	1	1	1
			海外フィールド実習Ⅰ	1①②③④			4				○		3	3			共同
			海外フィールド実習Ⅱ	2①②③④			4				○			3			共同
			リーダーシップ入門	1①	○	2			○				1	2			1
			社会共創演習Ⅰ	2④	○	1				○			1	5	1	1	共同
			社会共創演習Ⅱ	4④	○	1				○			1	4	1		共同
			インターンシップ	3①②③④			2				○		1	2			共同
			パーソナル・ファイナンス論	2④			2		○				2	1			オムニバス・共同(一部)
			キャリア特論Ⅰ	2③			1		○							1	
			キャリア特論Ⅱ	2④			1		○				1			2	共同
		実践力育成発展科目	環境デザインフィールド実習	1①②	○	4					○		1	1			共同
			国際プレゼンテーション演習	2②	○	1				○				1			
			野外生態調査法	2③					○						1		
			地理空間科学演習	3①						○				1			
			小計(18科目)	—	—	19	14	0	—	—	—	—	8	15	1	6	0

課題解決思考力育成科目群	統計学入門	1②		2			○			1	1							
	社会心理学	1③	○	2			○											
	地域社会論	2③	○		2		○								1			
	地域経済学	1③			2		○					1						
	質的データの収集と分析	2①			2		○			1	2					ねこバス・共同 (一部)		
	データサイエンス	2①～②	○		2		○			2		1				ねこバス・共同 (一部)		
	食と農の持続可能性と地域のイニシア ティブ	2③④			1		○				2				2	メディア		
	食と農のマルチスピーズ持続可能性 理論	2③④			1		○				2				2	メディア		
	小計(8 科目)	—	—	4	10	0	—			3	4	0	1	0	3			
	専 門 教 育 科 目	学 科 基 礎 科 目	環境デザイン概論	1①～②	○	2			○			2	5	1	1			オムニバス
地域デザイン論			1③～④	○	2			○			1							
地球環境学			1④	○	2			○				1						
環境デザイン論			2①	○	2			○			1	1	1					
環境デザイン実践論			3①②	○	2			○			1					6	共同	
環境デザイン課題研究Ⅰ			3①②	○	2				○		3	2					共同	
環境デザイン課題研究Ⅱ			3③④	○	2					1								
環境デザインゼミナールⅠ			4①	○	2				○		2	5	1	1		1	共同	
環境デザインゼミナールⅡ			4②	○	2				○		1							
環境デザインゼミナールⅢ			4③	○	2				○		1							
環境デザインゼミナールⅣ			4④	○	2				○		1							
経済学概論			1①	○		2			○		1							
微積分Ⅰ			1①	○		1			○		1							
線形代数Ⅰ			1③	○		1			○				1					
物理学		1③			2			○		1								
生物学		1③～④	○		2			○		2	2		1			オムニバス		
化学		1④			2			○		1	2					オムニバス		
小計(17 科目)		—	—	22	10	0	—			8	10	2	2	0	7			
専 門 教 育 科 目		環 境 サ ス テ ナ ビ リ テ ィ 系	環境マネジメント論Ⅰ	2①			2		○				1					
			環境戦略と経済学	2②			2		○				1					
	環境プロジェクト評価の統計学		2②			2		○				1						
	生物多様性保全学		2②			2		○					1					
	持続可能性理論		2③～④			2		○				1						
	地理空間科学Ⅰ		2③			2		○				1						
	地理空間科学Ⅱ		2④			2		○				1						
	環境マネジメント論Ⅱ		3②			2		○				1						
	国土形成史		1③～④			2		○			2							
	公共ガバナンス論		2①			2		○			1							
	防災マネジメント学	2②			2		○				1							
	社会資本の整備と運用	2②			2		○			1								
	景観デザイン	2③			2		○					1						
	防災情報社会学	3③			2		○				1							
	住民参加と合意形成	3①			2		○			1								
	自然災害学	3①			2		○								1			
	地域防災実践学	3②			2		○				1							
	小計(17 科目)	—	—	0	34	0	—			2	4	1	1	0	1			
	学 科 専 門 科 目	他 学 科 科 目	微積分Ⅱ	1②			1		○			1						
			ミクロ経済学Ⅰ	1③	○		2		○			1						
			線形代数Ⅱ	1④			1		○			1						
			都市と農山漁村	1④	○		2		○			1						メディア 共同
			観光文化論	2①～②			2		○			1						
			都市活性化論	2①～②			2		○					1				
			森林マネジメント	2①～②			2		○									
			環境文化論	2④			2		○				1					
			農山漁村資源の活用と循環	3①～②			2		○								1	
			農山漁村と世界の未来	3③			2		○			2						共同
	消費者行動論	3④			2		○					1						
	他 学 部 科 目	森林・林業白書講読	2①			1		○								1		
		海洋環境学	2①～②			2		○								3		
		森林資源計測学	3①～②			2		○								1		
		建設材料学	3①			2		○								2		
		構造力学Ⅰ及び同演習	3①			3				○						2		
土質力学Ⅰ及び同演習		3①②			3				○						4			
水理学Ⅰ及び同演習		3②			3				○						3			
土木計画学及び同演習		3③④			3				○						2			
造林学		3④			2		○								1			
防災工学		3④			1		○								2			
小計(21 科目)	—	—	0	42	0	—			3	3	0	2	0	22				
定 学 科 位 目 認	自由課題研究	3①～④			4			○		2	4	1						
	卒業研究	4①～④			4			○		2	4	1						
	小計(2 科目)	—	—	0	8	0	—			2	4	1	0	0	0			
合計 (166科目)			—	—	65	161	59	—		15	21	3	6	0	415			

学位又は称号	学士（社会共創学）	学位又は学科の分野	学際領域
卒業・修了要件及び履修方法			授業期間等
共通教育科目 25単位以上 ・「基盤科目」 必修11単位 ・「未来思考支援科目」 必修2単位 ・「教養科目」「愛大スタンダード科目」3単位以上を含む12単位以上			1 学年の学期区分
			4 期
			1 学期の授業期間
			8 週
			1 時限の授業の標準時間
			90分
専門教育科目 99単位以上 ・『基礎力育成科目群』 必修7単位 ・『実践力育成科目群』 フィールド・プロジェクト演習科目 必修10単位 キャリア育成科目 「リーダーシップ入門」、「環境デザインフィールド実習Ⅰ」、「環境デザインフィールド実習Ⅱ」必修4単位、 その他の科目から選択必修2単位以上 実践力育成発展科目 「環境デザインフィールド実習Ⅰ」、「環境デザインフィールド実習Ⅱ」必修4単位、 その他の科目から選択必修1単位以上 ・『課題解決思考力育成科目群』 「統計学入門」、「社会心理学」必修4単位 「地域社会論」、「地域経済学」、「質的データの収集と分析」、「データサイエンス」から選択必修2単位以上 ・『専門力育成科目群』 学科基礎科目「環境デザイン論」、「地域デザイン論」、「地球環境学」、「環境デザイン論」、「環境デザイン実践論」、 「環境デザイン課題研究Ⅰ」、「環境デザイン課題研究Ⅱ」、「環境デザインゼミナールⅠ」、 「環境デザインゼミナールⅡ」、「環境デザインゼミナールⅢ」、「環境デザイン課題研究Ⅳ」必修22単位、 「経済学概論」、「微積分Ⅰ」、「線形代数Ⅰ」、「物理学」、「生物学」、「化学」から選択必修3単位以上 「環境サステナビリティ系」及び「地域デザイン・防災系」から選択必修18単位以上 「他学科科目」及び「他学部科目」から8単位以上 ・『学位認定科目群』 「自由課題」、「卒業研究」のいずれか1科目4単位選択必修（両方は履修不可。） ・『自己デザイン科目』 以下の科目より選択10単位以上。なお、専門教育科目について、卒業要件単位数以上に修得した単位を含めることができる。 ・所属する学科、履修コースの授業科目表に記載されていない他学部・他学科の専門教育科目 ・単位互換協定を結んでいる他大学の授業科目			
合計 124単位以上 （履修科目の登録の上限） 1学期あたりの上限単位数は24単位とする。 ただし、病気、怪我等やむを得ない事情がある者等については、教務委員会の議を経て、上限単位数を超えて履修科目の登録を認めることができる。			

教 育 課 程 等 の 概 要																
(社会共創学部地域資源マネジメント学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年度	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員	
共通教育科目	基盤科目	新生セミナー	1①②	2			○								10	メディア
		こころと健康	1①	1			○								7	
		スポーツ	1①	1			○								13	
		English Foundation	1③④	1			○								13	
		English Communication Strategies	1①	2				○							14	
		社会力入門	1④	1			○								3	
		情報リテラシー入門Ⅰ	1①	1			○								9	
		情報リテラシー入門Ⅱ	1②	1			○								9	
		知的財産入門	1③	1			○			1					9	
		小計（9科目）	—	—	11	0	0	—	—	1	0	0	0	0	87	
	未来支援科目	Beyond SDGs	2③	1			○			1	2				4	メディア
		未来思考リテラシー	2④	1			○								3	メディア
		小計（2科目）	—	—	2	0	0	—	—	1	2	0	0	0	7	
	愛大スタンダード科目	自然	1③④		1		○								2	
		宇宙・地球のすがた	1①②		1		○								4	
		物質の構造と変化	1①②③④		1		○			1	3	1			3	
		技術	1①②③④		1		○								9	
		科学技術と人間	1①②③④		1		○								15	
		データリテラシー入門	1①②③④		1		○								6	
		生命	1①②③④		1		○								4	
		生命の営み	1①②③④		1		○								6	
		生命を守る	1①②		1		○								1	
		人間	1③④		1		○								6	
		ことばの力	1①②③④		1		○								6	
		文化・芸術を読み解く	1①②③④		1		○								1	
		制度	1①②		1		○			1	1		1		1	
		政治・経済の考え方	1①②③④		1		○				3				6	
		なぜ法を知るべきか	1①②③④		1		○								7	
		社会	1①②③④		1		○			1	1				6	
		歴史からの問い	1①②		1		○				1				2	
		地理から見た世界	1①②③④		1		○				1	1			13	
		小計（18科目）	—	—	0	18	0	—	—	3	9	2	1	0	98	
	愛大ブライム科目	愛大ブライム科目	1①②③④・2①②③④・3①②		1		○			2			1		32	
		愛大ブライム科目	1①②③④・2①②③④		2		○				1				10	
		小計（2科目）	—	—	0	3	0	—	—	2	1	0	1	0	42	
	課題発見基礎セ	課題発見基礎セミナー	1①②③④・2①②③④		1			○							16	
		課題発見基礎セミナー	1①②③④・2①②③④		2			○							2	
		小計（2科目）	—	—	0	3	0	—	—	0	0	0	0	0	18	
	大学間連携科目	大学間連携科目	1①②③④・2①②③④		1		○				1				33	メディア
		大学間連携科目	1①②③④・2①②③④		2		○								16	メディア
		小計（2科目）	—	—	0	3	0	—	—	0	1	0	0	0	49	
	初修外国語	初級ドイツ語Ⅰ	1①		1			○							4	
		初級ドイツ語Ⅱ	1②		1			○							4	
		初級ドイツ語Ⅲ	1③		1			○							3	
		初級ドイツ語Ⅳ	1④		1			○							3	
		初級フランス語Ⅰ	1①		1			○							3	
		初級フランス語Ⅱ	1②		1			○							3	
		初級フランス語Ⅲ	1③		1			○							3	
		初級フランス語Ⅳ	1④		1			○							3	
		初級中国語Ⅰ	1①		1			○							4	
		初級中国語Ⅱ	1②		1			○							4	
		初級中国語Ⅲ	1③		1			○							3	
		初級中国語Ⅳ	1④		1			○							3	

共通教育科目	教養科目	初修外国語	初級朝鮮語Ⅰ	1①			1		○							7		
			初級朝鮮語Ⅱ	1②			1		○					7				
			初級朝鮮語Ⅲ	1③			1		○					4				
			初級朝鮮語Ⅳ	1④			1		○					4				
			小計(16 科目)	—	—	0	16	0	—		0	0	0	0	0	62		
	発展科目	持続可能な食と農関する科目	SDGs×Food-Value-Chain in Ehime for Glocal Food Security	1①②③④			1	○					2			2	メディア	
			田舎×持続可能性でブランド化する愛媛と世界の経済学	1①②③④			1	○					2			2	メディア	
			小計(2 科目)	—	—	0	0	2	—		0	2	0	0	0	4		
		ト・S・U・リ・J・I・サ・成・に・関する科目	SDGs—グローバル未来創成入門	1①②			2	○					1			1		
			ベーシック国内サービスラーニング	1①②			4		○				2			2		
			ベーシック海外サービスラーニング	1③④			4		○				2			1		
			アドバンスド国内サービスラーニング	2①②			4		○				2			2		
			アドバンスド海外サービスラーニング	2③④			4		○				2			1		
		小計(5 科目)	—	—	0	0	18	—		0	2	0	0	0	7			
		環境ESD指導者養成科目	環境ESD指導者養成講座Ⅰ	1③④			4	○								2		
			環境ESD指導者養成講座Ⅱ	2①②			4	○								2		
			小計(2 科目)	—	—	0	0	8	—		0	0	0	0	0	4		
		愛媛大学グローバルリーダーズ・スクールの科目	愛媛大学リーダーズ・スクール	1①②			2	○								2		
			ファシリテーションとリーダーシップ	1③④			2	○								2		
			グローバル・リーダーシップⅠ	1③④			1			○						2		
グローバル・リーダーシップⅡ	1③④				1			○						2				
グローバル・リーダーシップⅢ	1③④				1			○						1				
グローバル・リーダーシップⅣ	1③④				1			○						1				
リーダーシップ・フィールド演習Ⅰ	1①②③④				2			○						1				
リーダーシップ・フィールド演習Ⅱ	1①②③④				2			○						1				
リーダーシップ・フィールド演習Ⅲ	1①②③④				2			○						1				
小計(9 科目)	—	—	0	0	14	—		0	0	0	0	0	13					
スキルアツク科目	英語S1	1②			2	○								1				
	英語S2	1④			2	○								1				
	英語S3	2①②③④			2	○								8				
小計(3 科目)	—	—	0	0	6	—		0	0	0	0	0	10					
留学生対象科目	日本語科目	アカデミックジャパニーズ 1	1①			1		○						1				
		アカデミックジャパニーズ 2	1②			1		○						1				
		アカデミックジャパニーズ 3	1③			1		○						1				
	小計(3 科目)	—	—	0	0	3	—		0	0	0	0	0	3				
	日本事情に関する科目	日本事情 A 1	1①②			2	○								1			
		日本事情 A 2	1③④			2	○								1			
		日本事情 B 1	1①②			2	○								1			
		日本事情 B 2	1③④			2	○								1			
小計(4 科目)		—	—	0	0	8	—		0	0	0	0	0	4				
専門教育科目	基礎力育成科目群	基礎力育成	社会共創入門	1①	○	1			○			2	2				オムニバス・共同(一部)	
			経営入門	1②	○	2			○			2				共同		
			基礎データ処理	1③	○	2			○			1	1			共同		
			持続可能性科学	1④	○	2			○									
			小計(4 科目)	—	—	7	0	0	—		4	4	0	1	0	0		
	実践力育成科目群	フィールドワーク・プロジェクト演習科目	フィールドワーク入門	1①	○	2			○				4	3		2		オムニバス
			フィールド実習	2②		2					○		2	8		5		共同
			プロジェクト基礎演習	2③～④	○	2					○		2	5		3		2
			プロジェクト実践演習	3①～②	○	2					○		2	5		3		共同
			プロジェクト応用演習	3③～④	○	2					○		2	4		3		共同
			海外フィールド実習Ⅰ	1①②③④			4				○			3				共同
			海外フィールド実習Ⅱ	2①②③④			4				○			3				共同
			小計(8 科目)	—	—	14	0	0	—		14	14	0	3	0	7		
		キャリア育成科目	リーダーシップ入門	1①	○	2			○				1	3			1	オムニバス・共同(一部)
			社会共創演習Ⅰ	2④	○	1				○			2	5		3		3
			社会共創演習Ⅱ	4④	○	1				○			1					共同
			パーソナル・ファイナンス論	2④			2						2	1				共同
			インターンシップ	3①②③④			2						3					共同
			キャリア特論Ⅰ	2③			1			○							1	
キャリア特論Ⅱ	2④			1			○			1				2				
実践力育成発展科目	実践力育成発展	地域資源融合論	1①	○	2			○			1	7		3		3	共同	
		地域資源融合基礎演習A	1④	○	2				○		1	3				1	共同	
		地域資源融合基礎演習B	1④	○	2				○		1	1		2			共同	
		地域資源融合基礎演習C	1④	○	2				○		1	2		1			共同	
		小計(18 科目)	—	—	22	14	0	—		9	14	0	3	0	7			

学位又は称号	学士（社会共創学）	学位又は学科の分野	学際領域
卒業・修了要件及び履修方法			授業期間等
共通教育科目 25単位以上 ・「基盤科目」 必修11単位 ・「未来思考支援科目」 必修2単位 ・「教養科目」 「愛大スタンダード科目」 3単位以上を含む12単位以上			1 学年の学期区分
			4 期
			1 学期の授業期間
			8 週
			1 時限の授業の標準時間
			90分
専門教育科目 99単位以上 ・『基礎力育成科目群』 必修7単位 ・『実践力育成科目群』 フィールド・プロジェクト演習科目 「フィールドワーク入門」、「フィールド実習」、「プロジェクト基礎演習」、 「プロジェクト実践演習」、「プロジェクト応用実習」 10単位以上 キャリア育成科目 「リーダーシップ入門」、「社会共創演習Ⅰ」、「社会共創演習Ⅱ」 必修4単位、その他の科目から選択必修2単位以上 実践力育成発展科目 必修8単位 ・『課題解決思考力育成科目群』 「統計学入門」、「地域社会論」 必修4単位、 「地域経済学」、「質的データの収集と分析」、「データサイエンス」、「社会心理学」 から選択必修2単位以上 ・『専門力育成科目群』 「学科基礎科目」 必修6単位 「学科専門科目」「地域づくり・地域振興・観光振興系科目」のうち7科目14単位必修。その他の科目から選択必修28単位以上。 ・『学位認定科目群』 「自由課題」、「卒業研究」のいずれか1科目4単位選択必修（両方は履修不可。） ・『自己デザイン科目』 以下の科目より選択10単位以上。なお、専門教育科目について、卒業要件単位数以上に修得した単位を含めることができる。 ・所属する学科、履修コースの授業科目表に記載されていない他学部・他学科の専門教育科目 ・単位互換協定を結んでいる他大学の授業科目 合計 124単位以上 （履修科目の登録の上限） 1学期あたりの上限単位数は24単位とする。 ただし、病気、怪我等やむを得ない事情がある者等については、教務委員会の議を経て、上限単位数を超えて履修科目の登録を認めることができる。			

授 業 科 目 の 概 要				
（人文社会科学研究科人文社会科学専攻博士後期課程）				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専攻 共通 科目 （必修）	人文社会科学展望 [Perspectives on Humanities and Social Sciences]		（概要） 本科目は、人文社会科学研究科博士後期課程の共通必修科目として、特定の専門分野（ディシプリン）の枠を超え、現代社会が直面する複雑な課題を俯瞰するための「総合知」の基盤を形成する。科学技術の進展に伴う倫理的・法的・社会的課題（ELSI）や、機能的価値から意味的価値への変容を踏まえ、人文社会科学の社会貢献のあり方を探究する。特に、本研究科が養成を目指す“人文社会科学の深化と融合によって創出される「総合知」を基盤とし、地域課題に対して新たな「意味的価値」を共創し、社会に実装できる高度専門人材”に共通して求められる能力、すなわち自律的探究力・融合的構想力・共創的発信力の基盤を養う。自らの専門性を客観視し、他分野と対話・融合するための「トランスディシプリン」や「領域横断的マインドセット」を涵養するとともに、理論と実践を架橋するための具体的スキルについても習得を目指す。なお、各担当教員が想定する分野横断的な展開を示すだけでなく、受講生自身が研究テーマとしたい分野の融合についても授業外で相談を受け付ける。 （オムニバス方式／全8回） （17 RUPPRECHT CHRISTOPH DAVID DIETFRIED/3回） 第1回 人文社会科学と現代社会—総合知と「融合のマインドセット」—博士人材に求められる「総合知」の意義を理解する。自らの専門性に固執せず、他分野と対話するための「トランスディシプリン」と「越境するマインド」について議論する。 第6回 文理融合と新領域—異分野統合の方法論（Skills）—防災、デジタル社会等の現代的課題に対し、異なる学問分野の手法をいかに組み合わせるアプローチするか（方法論のトリアンギュレーション等）、具体的な研究設計の技法を学ぶ。 第8回 総括：自律的研究の構想と「共創のプレゼンテーション」自らの研究テーマを「地域の意義」と「国際的普遍性」の両面から再定義する。「自身の専門×隣接分野」による付加価値創造を具体的に提案・討議する。 （5 石坂 晋哉／2回） 第2回 地域課題の構造分析(1)—人口減少社会と地域デザイン— 【地域×社会科学】四国・愛媛の現状をデータに基づき分析し、持続可能な地域システムを議論する。 第8回 総括：自律的研究の構想と「共創のプレゼンテーション」自らの研究テーマを「地域の意義」と「国際的普遍性」の両面から再定義する。「自身の専門×隣接分野」による付加価値創造を具体的に提案・討議する。 （1 胡 光／2回） 第3回 地域課題の構造分析(2)—地域文化資源の再評価と継承— 【地域×人文科学】四国遍路等を事例に、文化資源（意味的価値）がいかに地域活性化に結びつくかを検討する。 第8回 総括：自律的研究の構想と「共創のプレゼンテーション」自らの研究テーマを「地域の意義」と「国際的普遍性」の両面から再定義する。「自身の専門×隣接分野」による付加価値創造を具体的に提案・討議する。 （4 鈴木 静／2回） 第4回 グローバルな視点と地域研究—SDGsとローカルな実践— 【国際的視点】環境、ジェンダー等の地域課題をSDGsの枠組みで捉え直し、地域固有の問題が世界共通の課題であることを理解する。 第8回 総括：自律的研究の構想と「共創のプレゼンテーション」自らの研究テーマを「地域の意義」と「国際的普遍性」の両面から再定義する。「自身の専門×隣接分野」による付加価値創造を具体的に提案・討議する。 （3 今泉(井上) 志奈子／2回） 第5回 学術の国際化と発信—地域から世界へ—日本の地域研究をいかに国際的な学術価値に変換するか。国際共同研究の事例を通じ、共創的発信力を養う。 第8回 総括：自律的研究の構想と「共創のプレゼンテーション」自らの研究テーマを「地域の意義」と「国際的普遍性」の両面から再定義する。「自身の専門×隣接分野」による付加価値創造を具体的に提案・討議する。 （7 岡本 隆／2回） 第7回 キャリアと社会実装—博士人材の多様な展開—アカデミア、行政、企業等の多様なフィールドで「トランスファラブル・スキル」をいかに発揮するかを考える。 第8回 総括：自律的研究の構想と「共創のプレゼンテーション」自らの研究テーマを「地域の意義」と「国際的普遍性」の両面から再定義する。「自身の専門×隣接分野」による付加価値創造を具体的に提案・討議する。	オムニバス方式

	研究者倫理・アカデミックスキル [Research Ethics and Academic Skills]	(概要) 人文社会科学分野特有の課題（調査データの扱い、個人情報保護、質的研究の倫理など）に加え、本研究科が重視する「地域や社会との共創」において生じうる利益相反や社会的責任についても深く考察する。これにより、ディプロマ・ポリシー（DP1）に掲げる「研究者にふさわしい自律的探究力」の基盤となる高い倫理性を涵養する。 (オムニバス方式／全8回) (全8回相当 / 1単位) ※e-ラーニング教材の受講と、対面（または双方向遠隔）による講義・ディスカッションを組み合わせて実施する。 (1) e-learning教材では、eAPRIN人文社会科学系研究者標準コース（7単元）の責任ある研究活動（RCS:Responsible Conduct of Research）及び人文学・社会科学と研究の公正性（IHS: Integrity for Humanities and Social sciences research）に関する標準的内容を指定モジュールの受講により体系的に修得する。テーマとしては、①研究活動における不正行為、②人文学・社会科学分野における盗用、③共同研究とオーサiership、④ピア・レビュー（査読）と利益相反、⑤公的研究費の取り扱い、⑥人文学・社会科学分野における研究の質と研究公正性との関係、⑦人文学・社会科学の学問特性と研究不正、を扱う。 (2) 授業では、これらの基礎事項を踏まえ、人文社会科学分野に特有の課題や、地域社会との共創・産官学連携に伴う倫理的・法的・社会的課題について、事例分析及び最終レポート作成を通じて具体的かつ実践的に学ぶ。 各回のテーマと内容： (7 岡本 隆／2回) 第1回 科学者の社会的責任と行動規範・なぜ研究倫理が必要か・愛媛大学における研究活動の行動規範・学術研究の自律性と社会的信頼 第7回 研究環境とハラスメント防止・アカデミック・ハラスメントの防止・メンターとメンティーの健全な関係・多様性の尊重と包摂的な研究環境の構築 (2 中根 隆行／2回) 第2回 研究不正（FFP）の防止・捏造、改ざん、盗用の定義と事例分析・不適切な引用（剽窃）の回避と正しい引用作法・自己盗用（二重投稿）の問題 第8回 ケーススタディと総合討論・グレーゾーン事例を用いたグループディスカッション・「地域社会との共創」における倫理的ジレンマの検討・まとめと誓約書の提出 (6 福井 秀樹／1回) 第3回 研究データの管理・保存・実験・調査データの記録と保存義務（ラボノート、調査票等）・データの加工・処理における許容範囲・デジタルデータのセキュリティ (8 折戸 洋子／2回) 第4回 研究成果の発表とオーサiership・論文著者の要件（オーサiership）と責任・不適切なオーサiership（ギフト、ゴースト等）・ハゲタカジャーナル（粗悪学術誌）への対応 第6回 利益相反（COI）と産官学連携・利益相反の定義とマネジメント・地域共創・産学連携活動における守秘義務と契約・研究資金の適正な管理と使用 (17 RUPPRECHT CHRISTOPH DAVID DIETRIED／1回) 第5回 人を対象とする研究の倫理・「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の理解・インフォームド・コンセントの手続き・人文社会科学系研究（フィールドワーク等）における配慮と倫理審査	オムニバス方式
--	--	---	----------------

研究指導科目	博士特別研究 [Doctoral Special Research]	本授業では、複雑な地域課題に対し、専門知を基盤としつつ、隣接諸分野の知見を取り入れた学際的なアプローチによって解決策を探究する。研究計画の作成、国内外の文献（先行研究）の収集・整理分析、データの収集・分析、分析結果の整理と考察、研究成果の取りまとめ方、国内外の学会での報告・学会誌等への投稿等の方法について指導を行う。これらに加えて、現地調査、フィールドワーク、PBL等の実践活動についても指導する。 21名の教員がそれぞれの専門性を活かし、学生が理論と実践を往還しながら、学術的新規性と社会的有用性を兼ね備えた独創的な研究を遂行できるよう、主指導教員および副指導教員による指導教員グループのもと、理論の深化・融合と実践を往還させながら研究成果を創出し、博士（学術）の学位取得を目指す。 【史学・文学・言語学】 (1 胡 光[EBESU Hikaru]) 史学を対象として、高度な古文書読解力を修得し、古文書を解釈して歴史的事実を確定させた上で、近世近代社会を総合的・歴史的に思考・判断・分析できる能力を身につける。地域に関する研究対象として例えば近世に本格化する四国遍路があるが、先行研究を丁寧に追いつながりフィールドや様々な資料を基に総合的に分析するなど、現場・資料と理論を架橋する研究指導を行う。 (2 中根 隆行[NAKANE Takayuki]) 日本近代文学を対象として、文化研究、比較文化研究を含めた文学研究の方法論について取り上げる。研究テーマにふさわしい一次資料や二次資料の探索・収集の手順、文献の読解、テキスト分析、論述方法など、研究計画や論文作成を見据えながら、日本近代文学に関する研究指導を行う。 (3 今泉 志奈子[IMAIZUMI Shinako]) 言語学の諸領域のなかで、特に、語彙意味論的アプローチを中心として、自然言語のしくみについて説明するための研究方法論についての指導を行う。言語事実の詳細な観察に基づき、ひとつの文法現象に対する複数のアプローチを比較検討しつつ、独創的な視点をもった論文作成のための研究指導を行う。 (9 田中 尚子[TANAKA Naoko]) 軍記物語や抄物・注釈書などの中世の文学を中心に、日本の古典文学領域の諸相の探究にあたる。日本古典文学研究として取り組むのはもちろん、史学的アプローチ、他国の文学1作品との関係を考える比較文学的アプローチなど複数の手法を取り入れることで、多角的に捉えることのできる横断型研究を進めていく。すなわち、テキスト自体の丹念な読みととも、テキストが成立した時代の思想・学問環境等の実態解明を目指した研究指導補助を行う。 (18 笹田 朋孝[SASADA Tomotaka]) 日本を含むアジアを対象として、遺跡・遺物に基づき古代社会の形成過程、交流、資源利用と技術（生産）を解明する研究指導補助を行う。先行研究の批判的検討に加え、現地調査と資料分析を組み合わせ、博士論文の構想～執筆、学会発表・論文投稿までを支援する。必要に応じて関連する遺跡・博物館収蔵資料の現地見学を取り入れる。 (10 高橋 千佳[TAKAHASHI Chika]) 第二言語習得領域における研究を行うための研究内容面・方法面についての指導を行う。第二言語習得のメカニズムや個人差要因にまつわる研究に関して、先行研究を適切にレビューし、自身の研究をデザインし、データ収集を行い、適切な方法で分析し、それを独創性の高い論文にまとめていけるよう、研究指導補助を行う。 (19 太田 裕信[OTA Hironobu]) 哲学・倫理学の論文を執筆するための研究方法論についての指導を行う。すなわち文献読解の方法、従来の先行研究との比較から自分の研究を位置付ける方法、自らの主張を説得的に明確に提示する方法に関する研究指導補助を行う。 【法学・政治学・地域研究】 (6 福井 秀樹[FUKUI Hideki]) データから信頼できる知見を引き出すために、特に因果関係をどう推定するかを学ぶ。因果関係を議論するには、どのような前提を置く必要があるのか、また、その前提のもとでどのような分析手法を選ぶべきかを整理する。とりわけ、実験ではなく既に集められた観察データをを用いる場合に生じやすい問題に焦点をあて、考慮すべき事項を重点的に扱う。あわせて、Rを用いたコンピューター実習を行い、手法の考え方と使い方を体験的に理解することを目指す研究指導を行う。 (4 鈴木 静[SUZUKI Shizuka]) 法学上の観点から、当該分野の歴史的展開を踏まえつつ、現代における判例の検討および学説の整理を行う。さらに、国際的動向を視野に入れ、国内政策の展開についても取り上げ、総合的に検討する研究指導を行う。 (5 石坂 晋哉[ISHIZAKA Shinya]) アジア地域研究に関して、歴史・思想・政治・経済・社会・文化などの各側面とその相互関係を総合的に理解するとともに、急速な経済発展やグローバル化、人口移動、宗教・民族問題、開発と環境、格差や社会的包摂といった現代アジアが直面する諸課題を踏まえて、各自の研究テーマを追究し、論文作成するための研究指導を行う。 (11 井口 秀作[IGUCHI Shusaku]) 規範と社会の相互関係を分析・検討する理論的な枠組を構築するために、「憲法変動」とよばれる現象を理論的に検討していく。分析対象としては、「憲法変遷」と指摘される日本の事象だけではなく、「憲法革命」とよばれる ニューディール期のアメリカの政治現実や「憲法慣習」とよばれるフランスの憲法運用も取り上げるための研究指導補助を行う。 (13 梶原 克彦[KAJIWARA Katsuhiko]) 史料に基づいて実証的に明らかにする手法と同時に、明らかになった事実を分析概念を用いて比較・一般化に向けた政治史の研究手法の指導を行う。とくに外国語文献の講読と手書き史料の判読訓練を行い、文献・資料読解能力のさらなる向上を図る。また史料調査方法について、そして調査を通じて得られた史料を論文にまとめるための研究指導補助を行う。 (14 三上 了[MIKAMI Satoru]) 暴力的紛争や感染症の封じ込め、あるいは自由貿易や脱炭素化の実現など、国際的な協力が必要な分野において、国際機関、国家、その他さまざまなレベルの行為主体がとるアクションの実態、起源、影響などを明らかにする上で、適切なリサーチ・クエスチョン、仮説、検証方法、データ測定方法に関する計画を立てられるような研究指導補助を行う。 (12 太田 響子[OTA Kyoko]) 行政学および地方自治論の理論と方法を踏まえ、地方自治体を含む行政組織の構造や政策形成過程に着目した実証研究を中心とした研究課題の設定を行う。制度分析や政策過程分析、主に質的手法による研究設計を指導するとともに、必要に応じて自治体等での現地調査やフィールドワークも行い、博士論文の作成に向けた研究指導補助を行う。
--------	------------------------------------	---

			【経営学・情報倫理】 (7 岡本 隆 [OKAMOTO Takashi]) 経済・経営の観点から、情報通信技術が経済、企業経営、地域社会、日常生活、国際化に与えた影響を取り上げる。理論研究を深めながら、地域課題と関係する対象を、データ分析や現地調査あるいはフィールドワークを取り入れることで、理論と現場の往還を行い、国内外の比較も取り入れながら、総合的に検討する研究指導を行う。 (8 折戸 洋子 [ORITO Yoko]) ビジネス情報倫理の観点から、個人情報管理、プラットフォームビジネスといった現代的な情報管理上の諸課題の研究動向とその論点について取り上げる。具体的には、技術の進展に伴う、「ポリシーの真空状態」や「概念の混乱」といった情報倫理学における基本懸念、および様々な組織での情報管理システムやポリシーメイキングについての研究指導を行う。 (16 崔 英靖 [SAI Hidenobu]) 経営戦略・組織の観点からの理論研究と実際の企業事例の分析を通じて、仮説の導出・検証や理論の説明・実践的提言を行うための能力の修得を目的とした研究指導補助を行う。 (15 曽我 亘由 [SOGA Nobuyuki]) ミクロ経済学の専門分野を対象とし、理論とデータに基づく実証、さらにはインタビュー調査などの現地における調査も取り入れながら、地域の課題解決に資する研究を行い、学位論文を完成させる研究指導補助を行う。行動経済学の知見も活用し、地域課題に取り組む。 【ランドスケープ科学】 (17 ルブレヒト クリストフ [RUPPRECHT Christoph]) 人間の幸福は、環境や他の生き物に全面的に依存している。このことをふまえ、共生共栄の未来のビジョンとその実現方法を幅広く模索することを目的とする。マルチスビーシーズ、持続可能性の理論、ランドスケープと都市の緑地・空地・農地、環境正義や脱成長等のテーマについて、フィールドワークや社会科学の基本的な方法に加えゲーム・アート・フィクションなどの超学際的手法を用いて、研究指導を行う。 (20 入江 賀子 [IRIE Noriko]) 脱炭素プロジェクト、特に再生可能エネルギー、生物資源利用などをリアルに実装する際に必要なステークホルダーとの討議による課題解決のあり方を取り上げる。また、実践的なデータ分析力を身につけることを目指し、計量経済学などのデータサイエンスの手法の研究指導補助を行う。 (21 山本 直史 [YAMAMOTO Naofumi]) 政策・環境・社会・心理などの複雑な要因が絡み合う身体活動を中心とした健康行動について、個人レベルから集団レベルまでの変容を対象に、健康・スポーツ科学、行動科学および疫学の視点から研究指導補助を行う。	
--	--	--	--	--

(注)

- 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

授 業 科 目 の 概 要				
（人文社会科学研究科法文学専攻博士前期課程）				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業 科目	講義等の内容	備考
大 学 院 共 通 教 育 科 目	教授法入門―専門分野の学 識を教授するために		本授業は、大学院生が自分の専門知識を効果的に他者に伝えるための知識、技術、態度を学ぶことを目的としている。主に高等教育機関での教員としての役割を前提にし、TA業務や研究室での後輩指導、企業での教育・指導にも応用可能な内容を含む。授業では、教育や指導に携わる意義や倫理について深く考察し、ディスカッションを通じて協働の重要性や幅広い視野を養うことができる。専門性を深めるとともに、社会での活躍に向けた基盤を築く機会となる。	
	リーダーシップ論		本授業では、リーダーシップの基本的な知識を習得し、リーダーとフォロワーの相互関係について整理する。現代社会の変化に対応し、持続可能な社会を形成するためには、組織を導くリーダーとフォロワーの健全な関係が重要である。授業では、リーダーシップ研究の多様なアプローチを学び、講義と演習を通じてその機能や効果を考察する。また、地域や環境、制度面を含む社会システム全体を視野に入れ、協働による問題解決の実践についても検討する。 （オムニバス方式/全8回） （103 村田 晋也・99 山中 亮/1回）（共同） 第1回 ガイダンス・リーダーシップの捉え方 （103 村田 晋也/3回） 第2回 リーダーシップ研究及び理論とその変遷 第3回 リーダーとフォロワーとその相互関係 第4回 持続可能なコミュニティを形成するためのリーダーとしての素養 （99 山中 亮/4回） 第5回 社会システムでのリーダーシップの実践 第6回 ケーススタディ・グループワーク 第7回 自分自身の変容の認識 第8回 振り返りとまとめ	オムニバス方式・共同（一部）
	プロジェクトマネジメント概論		本授業は、あらゆる業界において不可欠となっているプロジェクトマネジメントの基礎知識および考え方を、体系的に習得することを目的とする。不確実性が高く、将来の予測が困難なプロジェクトが増加する現代において、分野や職種を超えて共有可能なプロジェクトマネジメントの知識は、重要な役割を果たしている。本授業では、PMBOK®ガイドを基盤として、プロジェクトの立ち上げから終結に至るまでの一連のマネジメントプロセスに加え、チーム形成や変革を生むリーダーシップについて学ぶ。	
	インクルーシブ社会実現に向けて		多くの社会課題の解決や持続可能な発展には、多様な人々が互いに尊重し協働する場の構築が必要であり、多様な個人が集まり、各々の知識や思考力を発揮することで、社会や組織は新たな価値を創出できる。インクルーシブ社会の実現には、個性を活かし合える環境が重要であり、本授業ではそのための知識、能力、態度を学ぶ。また、多様性を学ぶことで自己理解が深まり、自分の強みや弱みを認識し、他者との関わり方にも気づきを得ることができる。	
	Interactive Seminars on Educational Studies		本授業は、教育分野を専門とする教員によるオムニバス形式の演習である。各教員の最先端研究について英語で講義を受け、全員で議論を行う。英語での高度な討議を円滑化するため、最新ツールの活用を積極的に推奨し、言語や文化の壁を超えて質の高い学術的対話の実践を目指す。この実践を通じ、受講生自身の専門領域を相対化する俯瞰的な視点と、テクノロジーを駆使して国際的な研究交流を行うためのコミュニケーション能力・論理的思考力を養成する。	
	SDGs概論		VUCA時代における地域のレジリエンス向上に貢献できる人材に求められる素養として、SDGsの基本理念を理解することが重要である。本授業では、SDGsが国連で策定される背景や、世界の現状を学び、持続可能でレジリエントな社会を実現するために自己と世界がどのように変容すべきかを考察する。さらに、ポストSDGsを見据えた未来社会のあり方について多角的に考え、地域やグローバルな課題への理解を深めることで、持続可能な社会を築くために必要な思考力や行動力を養成する。	
	大学院生のためのスキルアップ教育実習		本授業では、実践的指導力の現状と課題を把握し、自己の資質向上のための目標と計画を設定できる能力を養う。さらに、大学院で学んだ知識を活用し、児童生徒の実態に応じた指導・支援を行う力を培う。目標に基づき教育実習や体験を省察し、自己の長所や強みを把握、自己指導能力を向上させるための報告ができるようになる。具体的には、課題探究活動支援や授業補助、学習支援、学校行事の指導など、教育実習を通じて実践的な経験を積む。	
	学校と地域の連携による学びの支援		学校が抱える課題や家庭・地域の教育力の低下を踏まえ、社会全体で教育力向上を目指すことが求められている。また、生涯学習社会を構築するためには、学校、家庭、地域社会の連携・協力が不可欠である。本授業では、生涯学習と生涯教育の基本を理解し、特に成人期の学習支援の必要性について考察する。アンドラゴジー（成人学習支援）とベダゴジー（子ども教育学）の違いを学び、異なる教育部門や教育段階間での連携による学習者支援を探る。受講者は問題解決策を調査し、発表やディスカッションを通じて学びを深める。	
	看護研究方法論		本授業では、看護学における科学的探究の基盤となる研究方法論を体系的に学ぶ。看護実践の課題を的確に捉え、理論的・倫理的枠組みに基づいて研究課題を設定し、適切な研究デザインを構築する力を養う。量的研究・質的研究の手法の特徴と活用法を理解し、研究計画の立案から倫理的配慮、データ収集・分析、結果の解釈まで、実践的かつ批判的な視点で学ぶ。最終的には、自分の関心に基づいた研究計画書を作成し、大学院での研究活動の基礎を築く。	
	研究倫理特論		本授業では、科学研究や調査活動で遵守すべき倫理・ルールについて、その考え方や法令等の根拠、事例に基づく対応を学び、研究倫理を修得する。授業の前半では、インタラクティブ教材を用いて、研究倫理、コンプライアンス、情報セキュリティ、個人情報保護に関する基本的な内容を学習し、主体的に研究活動を行うために必要な理解を深める。後半では、倫理・コンプライアンスに関する特殊な問題（共同研究、海外とのサンプルやりとり、遺伝子操作、生命倫理など）をケーススタディで学び、実践的な対応力を養う。	
	農学最先端研究		本授業では、最先端の研究動向や研究方法を専門分野を超えて横断的に学び、研究者としての基本的な素養とプロフェッショナルな研究能力を養成する。講義では、最新の研究例を通じて、最先端の研究視点や方法論を深く学び、問題解決に向けた具体的なアプローチを習得することを目指す。さらに、研究における批判的思考や独自の視点を養い、専門分野を活かした効果的な問題解決能力を高めることに重点を置く。これにより、より実践的で高い水準の研究能力を身につけ、研究者としての姿勢や能力を向上させることができる。	
	環境・食品衛生学概論		本授業では、地域規模から世界規模までの環境問題が人間の健康に与える影響を考察する。環境計測や解析手法を学び、疫学研究を基盤として環境の健康影響を評価し、環境改善手法を提案することで、安心して暮らせる社会を追求できる能力を養成する。また、「食の安全・安心」に関する最先端の取り組みを学び、過去の事例を振り返るとともに、現在の進展を理解する。さらに、職域における安全衛生の維持に関する様々な取り組みを学び、実践的な知識を習得する。	
	総合農学概論		本授業では、全国の連合農学研究科を構成する各専攻をまたがる広範な農学領域に関して、その研究とその応用に関する最新の研究について幅広い専門知識を学ぶ。研究者として幅広い知識を修得しておくことは、将来の研究者としての発展のために有益であるとともに、専門分野を活かした問題解決能力を高めることができ、実践的で高い水準の研究能力を向上させることができる。講義では、多様な研究者から幅広い専門分野の講義を聴くことを通じて自らの研究の視野を広げるとともに、研究の理解力の向上を目標とする。	

研究科基礎科目	人文社会科学総合（法学）	本授業は、法学（法律学及び政治学）領域の各専門分野における先端的な研究を取りあげ、地域社会の課題解決や新たな価値の創造に関わる諸問題について学ぶ。さまざまな分野の高度な専門知識をもとにした先端的研究の知見について考察・検討することで、学際的な視座を養成しながら専門分野に関する俯瞰的理解を高め、法学研究の地平を的確にとらえることが目的である。授業は、複数の教員によるオムニバス形式で実施し、各回の講義内容に関して異なる専門分野をもった受講者たちと議論を深めることで、専門分野に限らない多面的視点を身につける。 （オムニバス方式／全8回） （1 井口 秀作） 第1回 公法学分野（憲法）の概説・研究事例の紹介・検討 （31 岡田 陽介） 第2回 民事法学分野（商法）の概説・研究事例の紹介・検討 （33 田川 靖紘） 第3回 刑事法学分野（刑法）の概説・研究事例の紹介・検討 （30 池野 敦貴） 第4回 民事法学分野（民法）の概説・研究事例の紹介・検討 （36 菅原 健志） 第5回 政治学分野（国際関係論）の概説・研究事例の紹介・検討 （9 福井 秀樹） 第6回 政治学分野（政治システム論）の概説・研究事例の紹介・検討 （37 藤村 睦） 第7回 政治学分野（地域研究①）の概説・研究事例の紹介・検討 （35 近藤 有希子） 第8回 政治学分野（地域研究②）の概説・研究事例の紹介・検討	オムニバス方式
	人文社会科学総合（人文学）	本授業は、「多様性をめぐる人文学的研究」プロジェクトの成果に基づきつつ、「多様性」をめぐる文化・言語・国家の諸相やその意義について、人文学の視点から多面的かつ本質的に考察する。 （オムニバス形式・共同／全8回） （11 山本 與志隆・23 池 貞姫・22 高橋 千佳） 第1回 ガイダンス （23 池 貞姫） 第2回 多様性に関する言語とアイデンティティの研究① （23 池 貞姫） 第3回 多様性に関する言語とアイデンティティの研究② （11 山本與志隆） 第4回 多様性に関する哲学的研究① （11 山本與志隆） 第5回 多様性に関する哲学的研究② （22 高橋 千佳） 第6回 多様性に関する第二言語習得の研究① （22 高橋 千佳） 第7回 多様性に関する第二言語習得の研究② （11 山本 與志隆・23 池 貞姫・22 高橋 千佳） 第8回 まとめと振り返り	オムニバス方式・共同（一部）
	人文社会科学総合（地域産業社会）	愛媛県は、四国最大の人口と経済規模を有し、東予、中予、南予の3地域に分かれており、それぞれ紙産業・造船業、製造業・サービス業、観光業、農林水産業が盛んである。産業構造を始め、各地域の社会環境や地域資源にそれぞれの特徴があり、地域課題に共通点と相違点がある。本授業では、愛媛の地域産業や経済・経営活動、社会環境および地域資源に関するさまざまな取り組み事例を具体的に取り上げながら、産業システムの基礎知識を学習する。地域の産業、環境、資源の現状や課題を理解する力を身につけ、地域産業の活性化方策を考察していく。 （オムニバス方式/全8回） （53 徐祝旗・52 曾我亘由） 第1回 ガイダンス・産業システムの概要 第8回 振り返りとまとめ （53 徐祝旗・52 曾我亘由・79 田窪美葉） 第2回 地域産業の現状と課題・SWOT分析 第3回 経済・経営活動の特徴と生産性 （81 渡邊敏逸・80 ｶﾞﾌﾞﾚｯﾄ・100 片岡由香） 第4回 社会環境の特徴とまちづくり （82 笠松浩樹・54 井口梓・83 佐藤大規） 第5回 地域資源の特徴と地域活性化 （53 徐祝旗・52 曾我亘由・79 田窪美葉 81 渡邊敏逸・80 ｶﾞﾌﾞﾚｯﾄ・100 片岡由香 82 笠松浩樹・54 井口梓・83 佐藤大規） 第6回 ケーススタディ 第7回 グループワーク・発表	オムニバス方式・共同
	研究フィールド実践	本授業は、受講者の関心をもとに学内外で開催される学会やシンポジウム、各種セミナー、講演会に参加し、そこで得た成果を積み重ねていくことで、専門分野に拘わらない、さまざまな研究領域の多様な知見を幅広く学ぶ自己デザイン型の授業である。本授業では、主指導教員のもとで事前ガイダンスを受け、当該年度のなかで研究発表や講演等を複数聴講し、1件ずつ聴講レポートを作成して主指導教員の指導を受けながら学修内容を蓄積し知見を深める。研究フィールド実践を経たあとには、主指導教員に実践成果を報告し、指導を受けるものとする。なお、研究フィールド実践の経緯は学修ポートフォリオに反映する。	
専攻基礎科目	法文学研究基礎	本授業は、法文学専攻の専門分野についての基礎理論や研究に関する諸問題について実践的に学び、人文社会科学研究の知識理解を深めながら、論文執筆等の研究スキルの向上を目指す。授業の前半は複数の教員による講義形式の授業として基礎的な知識を学び、後半は受講者による口頭発表を主とするワークショップ型の授業へと展開する。受講者とのコミュニケーションを媒介にした主体的な研究実践へと繋ぐことが目的である。併せて、研究活動の基本となる研究倫理・専門職倫理や著作権ほかの知的財産の扱いにかかる知識や技能についても身につける。 （オムニバス方式・共同/8回） （50 田島篤史・11 山本與志隆） 第1回：イントロダクション （4 泉日出男） 第2回：研究倫理と知的財産 （20 秋山英治） 第3回：学術論文執筆の作法 （8 梶原克彦） 第4回：法学（政治学）研究概論 （11 山本與志隆） 第5回：人文学研究概論 （50 田島篤史・11 山本與志隆） 第6回：ワークショップ：口頭発表1 （50 田島篤史・11 山本與志隆） 第7回：ワークショップ：口頭発表2 （50 田島篤史・11 山本與志隆） 第8回：ワークショップ：口頭発表3とまとめ	オムニバス方式・共同（一部）

専 門 科 目 （ 講 義 系 ）	法 学 科 目 （ 講 義 系 ）	公法特殊講義Ⅰ		本授業では、基本的人権に関しとくに注目される最近の判例ないし論文をいくつか取り上げ、その丹念な分析・読解を通して、基本的人権の有する意義についての理解を深める。憲法の人権保障に関する最高裁判決の内容を正確に理解するとともに、人権保障の充実化の観点から、判決の持つ問題点を提示する能力を身につけることを授業の到達目標とする。	
		公法特殊講義Ⅱ		本授業では、統治機構論を中心に扱う。統治機構に関する憲法論は、現実の政治状況の展開により近年多くの課題を突きつけられている。これに適切に応答するには、国民主権や権力分立といった原理・原則に基づいた検討が要求される。そこで、この授業では、近時発表された統治機構に関する論文を取り上げて分析・検討を加えながら、統治機構の基本原則に関する理解を深めていきたい。授業の到達目標は、憲法の統治機構に関する先端理論の動向について説明ができるようになることである。	
		公法特殊講義Ⅳ		本授業では、地方自治法・行政法理論を取り扱う。地方自治法・行政法理論に係る文献を講読し、論点について分析・検討する。同時に問題・話題になっている関連ニュース等も適宜講義内で取り上げつつ、主要な問題について実際にどのような点が社会で問題となっているかも踏まえながら、論点について理解を深める。	
		民法特殊講義Ⅰ		本授業では、民法のうち財産法を扱う。財産法の中でも重要な領域を形成している不動産法や損害賠償法を中心に、関連する判例等を素材として検討・考察することにより、主要な問題点について理解を深める。受講者の関心や理解度に応じ、その他の領域も対象とする。	
		民法特殊講義Ⅱ		本事業では、家族法（親族法および相続法）の主要な判例を検討することを通じて、家族法に対する関心、理解を深めるとともに、家族をめぐる諸問題について法的に考える力の向上を図る。授業の到達目標は、家族法に対する関心を高め、その専門的な知識を修得することができること、判例研究、論文作成に必要な情報を収集、分析、整理する技術を身につけることができること、そして、問題につき自らの思考、判断するとともに、それを論理的に説明する能力を養うことである。	
		民法特殊講義Ⅲ		本授業では、民法のうち商事法分野を扱う。商事法は企業組織法と企業取引法に大別されるが、前者は会社法が、後者は保険、運送、支払・決済に関する法律が中心となる。本授業では商事法分野全体を対象として、その制度設計のあり方や重要な最高裁判例について検討する。	
		民法特殊講義Ⅳ		本授業では、民事紛争の類型ごとに最適な解決方法はいかなるものであるかを検討する。訴訟と訴訟以外の紛争解決方法（ADR）を比較しながら、判決手続の特徴について学ぶ。手続の各場面で問題となることに留意しつつ、紛争解決手続における諸原則を学び、手続的正義とはどのようなものであるかを探究する。法的紛争の解決・予防に必要な法務の基礎的事項についても扱う。	
		民法特殊講義Ⅴ		本授業では、判例研究や論文講読などを通して、民法の論点について検討および考察をする。その前提として、資料の収集・分析・整理の方法などについても適宜解説をする。また、授業で扱われるテーマは、主に財産法の領域に属するものを想定しているが、受講者の関心や理解度に応じて決定する予定である。	
		刑事法特殊講義Ⅰ		本授業では、犯罪論のうち、刑法総論上の重要問題を、判例や学説を整理しつつ法解釈論の次元で検討する。法解釈にあたっては、犯罪論体系に基づく刑法解釈をすることを意識するとともに、法解釈学の科学性についても意識してもらいたい。本授業の到達目標は、わが国の刑法に関する基本的知識を習得し、刑法の重要問題について、論理的に思考することができることである。犯罪論体系に基づく刑法解釈をすることができるようにする。	
		応用法特殊講義Ⅰ		本授業では、経済法の中核法たる「独占禁止法」の禁止する私的独占・不当な取引制限・不公正な取引方法について、同法の運用機関である公正取引委員会の審決および裁判所の判決例を素材として学修する。本授業の到達目標は、受講生が独占禁止法の審判決を読解する力を養成すること、及び、独占禁止法違反に関する事件につき、問題点を自ら発見し、分析し、考察することができる力を養成することである。	
		応用法特殊講義Ⅱ		本授業では、社会保障法学の基礎的知識を展開し、法理論上の課題を検討することができること、そして、判例検討を通じ、生活実態上の課題と法政策の関係につき論理的に議論ができることを目的とする。日本社会保障学会『新・講座社会保障法』3巻につき、報告及び議論を通じ現代の法理論上の課題を理解し、今後の展望を考える。最新判例を検討し、法理論の展開を研究する。授業の到達目標は、社会や組織の諸課題を自ら発見し、社会保障法学の論理的に分析し考察することができること、さらには、社会保障法学の課題につき、積極的な関心を持ち続けることができることである。	
		国際関係法特殊講義Ⅰ		本授業では、国際関係法のうち国際公法の領域について、その基礎的な概念や考え方を基本文献の読解を通じて学び、多様な視点と分析のための理論や基礎的な研究方法について理解する。授業の到達目標は、次の2点である。(1)国際法全般の意義と役割について具体的事例を挙げながら説明することができる。(2)国際法を通じて各領域での問題解決について説明するとともに、今後の課題と展望について説明することができる。授業の進行は、基本文献（山形英郎編『国際法入門（第2版）』〔法律文化社、2018年〕）の輪読によるが、各回のテーマについて適宜ディスカッションを行うなどとして、知識だけでなく国際法の考え方を理解できるようにする。	
		政治学特殊講義Ⅰ		本授業では、政治過程論および比較政治学について、理論、事例、分析方法の観点から学習する。実証政治学の授業である。本授業の到達目標は、政治過程論もしくは比較政治学に関するテーマに関して、1）研究テーマを設定し、2）データ及び理論を用いて分析し、結果を導き出すことが出来ることである。外国語文献と日本語文献の両方を用いる。	
		政治学特殊講義Ⅱ		本授業では、政治システムの分析や公共政策の評価に関連する基本的なデータ分析のスキルを身につける。本授業の到達目標は、(1) データ分析の基本的なスキルを身につけて活用できること、(2) Rの基本的なプログラミング技術を身につけて活用できることである。その上で、(3) 自らリサーチ・クエスチョンを立て、それに答えるデータ収集・分析・解釈を実際に行えることを最終到達目標とする。	
		政治学特殊講義Ⅲ		現代社会を理解する上で、国家と民族に関する知識は必須といえる。本授業では、国家及び民族に関する歴史、現状、理論を学修する。国家論やナショナリズムに関する文献の輪読を行う。外国語の文献（英語の予定、出席者の希望によってはドイツ語やフランス語も可）と日本語の文献を用いる。国家論やナショナリズムに関する知識を習得することが授業の到達目標である。	
		政治学特殊講義Ⅳ		本授業では、アジアの歴史、思想・宗教、政治、経済、社会、文化について考える。特にM. K. ガンディーの思想・運動に焦点をあてる。アジア地域研究に関して、これまでどのような議論がなされてきたかを理解できるようにする。アジア地域研究に関する先行研究を批判的に検討したうえで、自分の考えを持つことができるようになる。アジア地域研究について学ぶことを通して、社会のなかでいかに生きていくかを問い直すことが、最終的な到達目標である。	
		政治学特殊講義Ⅴ		本授業では、開発援助政策に関係する現象を、比較政治学・国際関係論の分析枠組みに基づいて解釈・説明し、そこから導出されるミクロ・マクロ的仮説を、質的方法・量的方法を用いて科学的に検証し、政策提言するための技術を学ぶ。とりあげる論文はWorld development、American Political Science Reviewなどから選択する。	
		政治学特殊講義Ⅵ		日本および諸外国の行政および関連分野（地方自治、公共政策等）についての基礎理論について、受講者による文献購読を前提とした講義とディスカッションを行う。各国政府および地方政府レベルの制度、組織、管理、政策に関する日本語および英語による研究論文・研究書の精読を行うことで、知識の習得のみならず先行研究にもとづく研究の枠組み構築の方法や理論的・実証的な分析にもとづく議論の展開の仕方を学ぶことができる。	
		政治学特殊講義Ⅶ		本授業では、国際関係論の中でも特に国際関係史に対する理解をさらに深めるだけでなく、修士論文の作成も視野に入れなければならない。本授業の目的は、まず国際関係史に関する様々な文献を読んで幅広い知識を獲得することにある。そのうえで文献のテーマに関するレポートを書いて、修士論文の執筆に備えることを目指す。	
		政治学特殊講義Ⅷ		本授業では、アフリカ地域研究をおもな参照枠としつつ、民族誌という調査・記述の方法そのものを理解することに焦点をあてる。授業では、アフリカを扱った代表的な民族誌を読み解きながら、民族誌を通して「他者を理解する」とはどのような営みなのかを考え、民族誌的思考の基礎を身につけることを目的とする。	
		政治学特殊講義Ⅸ		本授業では、東南アジア地域研究の手法を軸としながら、世界のあらゆる地域で社会システムや諸敵の参照枠組みが大きく変化した近代史を理解する枠組みについて学んでゆく。具体的には東南アジア地域の近代史に関する代表的な学術書を精読しつつ、過去を解釈する分析視角について理解を深めると同時に、論理的な批評や議論の作法を身につけることを目標とする。	

人文学コース	哲学思想史研究		本授業では、哲学における重要な問題の一つである「懐疑論」をテーマにして、わたしたちは何をどのような仕方ですぐに認識できるのか・知ることができるのか（いわゆる認識論・知識論という問題系）、について考察を深める。とりわけ現代の認識論における主要な立場である、基礎づけ主義と整合説、内在主義と外在主義という二つの対について、それぞれ詳しく紹介し考察を深めたい。比較的新しい立場である文脈主義についても検討する。授業の到達目標は、次の三点である。（１）哲学の歴史の中でも重要な問題の一つである「懐疑論」の本質について理解することができる。（２）現代の認識論における主要な立場の特徴を理解することができる。（３）「懐疑論」「認識論」の諸問題を考察することで、人間にとっての「知識」「認識」とは何かについて、理解を深めることができる。	
	人間存在論研究		本授業は、人間存在論において人間を問う方法として、解釈学的現象学という道を探る。よって、まずその方法論を説明し、その後にニヒリズムの内に人間存在の、形態としての自己についての具体的な問題を、解釈学に基づいて分析する。授業の到達目標は、次の３点である。（１）哲学としての人間存在論と他の学問、特に自然科学との根本的相違を理解することができる。（２）精神科学の中での人間存在論の意義を理解し、自らの問題を哲学的に思惟することができる。（３）ニヒリズムの中に生きる人間存在を反省的に思惟し、その克服の可能性を考察することができる。現代の人間存在は、自らの形成し来たったニヒリズムの内に投げ込まれて生きる存在として規定される。20世紀以降、そうした人間存在の自己理解の内に、「世人」としてのあり方と同時に、「労働者」としてのあり方が際立ってくる。こうした現代の人間存在のあり方が、解釈学の中でどのように捉えられるかについて思惟することを目的とする。	
	倫理思想史研究		本授業では、倫理の問題を問うに当たって、自己、他者、世界という事象をテーマとし、その三つのテーマに即して様々な哲学者を考察することで、人間とは何かという存在論的な問題、またいかに生きるべきかという倫理的な問題を考察することを目的とする。自己にあたってはキルケゴールなどの「実存」思想や西田幾多郎の思想、世界にあたってはハイデガーの「世人」の思想、アーレントの思想、他者にあたっては和辻哲郎、フーバーを参照する。授業の到達点としては、（１）自己、世界、他者をめぐる各哲学者の基本的な考えの本質を理解することができる。（２）それらの考えをもとに、人間が生きていくべき「倫理」について、理解を深めることができる。	
	美学美術史研究		本授業では、美術史研究のさまざまな手法を学ぶことを目的として原点に立ち返り、18世紀のドイツに誕生した学問としての「美術史」がいかなる発展を遂げたのかを、ドイツ語のテキスト『美術史の誕生』Die Geburt der Kunstgeschichte を用い、同種の日本語テキストも参照しながら追いかけていく。受講生は、芸術理論と美術史研究手法を学ぶことにより、それらを実際の研究に用いるとどのような語りが可能となるのかについて思索し、研究の幅を広げることができるようになる。	
	認知心理学研究		本授業では、認知心理学、特に眼球運動を指標とする研究を理解するために必要な知識を習得することを目的とする。前半は一般線形混合モデルや構造方程式モデリング、Bayes統計の理論及びPCを用いた分析の実行方法を学ぶ。後半は眼球運動の制御に関わる神経機構について学び、それに基づいてサッカーボールと呼ばれる眼球運動の潜時、軌道に関する様々な実験結果について議論する。さらに、各自で眼球運動に関する心理学実験の文献を選んで講読し、要約を作成し発表することによって理解を深める。	
	社会文化論研究		本授業は、社会調査の歴史的経緯について学びつつ、様々な手法について学習することで、その基本事項と全体像を理解するものである。授業の到達目標は、次の３点である。（１）社会調査の基礎概念を身につけることができる。（２）社会調査の手法を具体的な事例の分析に適用することができる。（３）自ら調査を行い、調査に基づいた論文作成を行う力を身につけることができる。本授業では、社会調査の意義について考え、なぜ論文を書くのか、自分にとって研究とはどのような意味を持つのかについて考察を深める。	
	社会人間論研究		本授業では、環境問題や地域社会について、専門的研究の事例を文献の読解を通じて学び、多様な視点と分析のための理論、調査方法を理解する。授業の到達目標は、次の２点である。（１）環境問題や地域社会についての問題や社会的研究の成果について事例を挙げて説明することができる。（２）環境問題や地域社会について自ら課題設定を行い、それについての専門分野の研究成果を収集し自分なりの観点からまとめて考察することができる。環境問題や地域社会についての専門文献の購読等を通じて、社会的な視点と社会調査の方法を身につける。	
	地域システム論研究		本授業では、都市や経済地域におけるフィールド調査を事例として、経済地理学における研究動向、調査の着眼点、インタビューの方法、地図デザインの方法などについて考察する。授業の到達目標は次の２点である。（１）経済事象の地域的特色や変化、差異について、空間的思考に基づいて理解している。（２）地理学研究の視点・方法・調査内容・分析等について、授業をふまえつつ、自分自身の関心や目的意識に基づいて理解・実践することができる。本授業は、経済地理学の研究手法とその成果や課題について学ぶことによって、地理学研究における論文作成のための調査方法や視点を身につける。	
	自然環境論研究		本授業は、地理情報システム（GIS）の基礎的な概念と操作を学び、受講者が自ら設定した地域課題を分析・可視化できる力を養うことを目的とする。地理学的な問題設定や研究方法を理解したうえで、対象に応じた適切なデータの選択・取得・管理、分析手法の適用を行い、その結果を主題図として表現する。演習を通じてGISの基本操作を身につけ、地域の諸問題を地図という形で整理・説明し、分析結果を的確に伝える能力の修得を目指す。	
	東アジア考古学研究		本授業では、中国の漢代～隋唐代に並行する朝鮮半島、日本列島の考古学について講義を受け、その内容を受けて受講生は関連文献を自ら調査し、東アジアに共有される考古学的現象に対する知識を深める。授業の到達目標は、次の３点である。（１）日本語以外のアジア言語による関連資料にも目を通し、日本考古学の事象と比較検討する高度な視点と思考力を身につける。（２）自らの専門の内容のなかにも本授業の視点と方法を取り込み、個性的な研究に取り組むことができる。（３）日中韓が共有する考古学的現象の背景について説明できる力を身につける。	
	アジア考古学研究		本授業では、日本とは自然環境の異なる東北アジアの諸民族の生活・文化について、考古学の最新の研究成果について学び、講義中のディスカッションによって理解を深める。授業の到達目標は、次の２点である。（１）多様な自然環境における文化や歴史を理解することで、文化や歴史に対するグローバルな視野を身につける。（２）東北アジア各地域の考古学を学ぶことで、汎用性の高い考古学的研究手法を習得する。本授業は、日本とは異なる自然環境で生活してきた東北アジアの諸民族の考古学的研究の成果を知り、その特色を把握し、日本の考古学的研究の成果と比較することで、日本考古学の特色も理解できるようになることを目的とする。	
	日本歴史構造論研究		本授業では、中近世移行期の史料講読を行い、戦国から織豊期にかけての四国の地域社会の構造変化を学び、史料内容とその歴史的背景について報告・議論することで理解を深める。授業の到達目標は、次の３点である。（１）日本中世史料を正しく読解・分析することができる。（２）日本中世史料について課題を設定し、考察することができる。（３）考察内容を的確に発表・議論・論述することができる。本授業は、日本中世史料の読解力を修得するとともに、歴史学における総合的な思考力を身につけることを目的とする。	
	日本歴史文化論研究		本授業では、日本近世近代の古文書を読み進め、その内容について議論を行う。併せて研究論文の書き方についても学ぶ。授業の到達目標は、次の３点である。（１）古文書の読解力を身につけ、その内容を説明することができる。（２）物事を総合的・歴史的に思考・判断できる。（３）日本史の高度で専門的な内容を論述できる。本授業では、参加者が古文書の内容とその歴史的背景について報告し、議論することで、日本近世近代古文書の読解力を修得するとともに、歴史学における総合的な思考力を身につける。	
	日本歴史交流論研究		本授業では、19世紀以降の日本史学史について、テキストを用いて学習する。史学史の知識と理解は、日本史学を学び、研究を進めるうえで必須の要素である。本授業では、19世紀以降の歴史学（日本史学）の学的发展について、史学史上の主要テキストの講読を通じて学ぶことを目的としている。授業は演習形式で行い、各回の報告担当者が指示されたテキストを要約し、そこに登場する史学史上の重要文献も適宜参照しつつ、その内容を批判的に検討する。授業の到達目標は、次の３点である。（１）学知としての日本史学の歴史的発展の経緯を概説することができる。（２）日本史学の達成のうに、自らの研究を位置づけるための知識と手法を身につける。（３）日本史学に対する深い理解と研究能力を身につける。	
	アジア歴史文化論研究		本授業では、中国古代史、特に先秦期の史料を講読しながら、報告と対論をおこなう。また自分でテーマを設定して、報告やレポートの作成をおこなう。授業の到達目標は、漢文の読解力を養うとともに、中国古代史に関する高度で専門的な知識を身につけることができることである。本授業は、中国古代史の伝世文献を講読しながら、中国古代史における問題点を見出し、また自分の調べたことを口頭や文章で表現して発表することができることを目的とする。	
	アジア社会史研究		本授業では、宋代社会経済史に関する専門的な史料を選び、講読する。また関連する文献を適宜紹介し、講読する。授業の到達目標は、次の３点である。（１）宋代の中国を中心とするアジアの社会経済史に関する高度で専門的な知識を持ち、その内容について説明することができる。（２）社会経済史の高度で専門的な研究方法を身につけ、自らの設定した問題について検討することができる。（３）研究成果を口頭や文書によって、的確かつ簡明に伝えることができる。本授業では、宋代の中国を中心とする、アジアの社会経済史に関する高度で専門的な知識と研究方法を身につける。	
	ヨーロッパ歴史文化論研究		本授業は、英語・邦語の専門研究文献の精読とその解説を交えながら授業をすすめる。参加者は、個別研究報告も行うこととする。授業の到達目標は、次の２点である。（１）邦語・英語専門的研究文献について、学術的批判的レベルでの読解ができる。（２）行為や事象の意味や評価を固有の文明世界の歴史的な文脈において検討・考察する思考力をもつ。本授業では、聖と俗という事象・概念の分析を通じて、古代ギリシアの社会全般の特性を理解するとともに、邦語・英語専門研究文献の読解力を身につけ、批判力と自らの理解を口頭で論理的に説明する能力を習得することを目的とする。	
	認知言語学研究		本授業では、認知言語学の視点から現代日本語（国語）の世界を探究する。まず、認知言語学の主要な基本概念を学び、言語現象を分析するための基礎知識を確立する。その上で、これらの概念を応用し、現代日本語における具体的な語彙や文法、表現などが人間の認知作用とどのように深く結びついているかを多角的に考察する。到達目標として、①認知言語学の基本概念を理解し、現代日本語のどのような側面を分析・考察対象とするのか説明できること、②普段の生活の中で見聞きする現代日本語を例として取り上げ、認知言語学的に分析・考察できることを目指す。	

専門科目（講義系）	人文学コース	現代日本語論研究		本授業では、日本語の表記として、漢字に注目し、現在漢字教育がどのように行われているのか、日本の学校教育また日本語教育における現状と課題を明らかにし、課題に対する有効な対応策について考察する。授業の到達目標は、次の3点である。(1)漢字教育の現状について、分かりやすく説明・論述できる。(2)漢字教育における諸問題について、改善策・対処法を提示し、実践することができ。(3)今後の漢字教育の展望について、説明・論述できる。本授業は、漢字を中心に、日本国内外における教育の実態観察を通して、日本語の表記のあり方について考察することを目的とする。	
		日本古典文学研究		本授業では、日本古典文学に関する研究方法と対象および対象の性格に関する専門的知見を得るとともに、文学史的観点から対象を把握しようとする視座を涵養すべく、古典作品の諸相について想察する。授業のテーマは、①古典という概念 ②書記様態と本文解釈 ③文学史の立場 の3つである。また、到達目標は以下の3つである。(1)作品の具体に接しながら日本古典文学についての専門的知見を得る。(2)文学史的観点から対象となる作品本文を解釈し説明することができる。(3)古典研究の様々な問題に関する知見を得るとともにそれらを活用できる。	
		日本中世文学研究		本授業では、中世に作成された注釈書を選び、そのテキストを読み解いていく。というのも、中世、中でも室町という時代は公家学者や五山僧の活躍によって学問が急激に発達したとされ、数多くの抄物・注釈書が作成されるのだが、この動きは当該時代の文学作品を読む上でも看過できないのである。注釈書を扱う中で中世文学全般に関する知識を増やし、同時代への理解に繋げていきたい。授業の到達目標は、次の点である。当該分野の研究手法、現在の研究動向を押さえつつ、自ら綿密なテキスト分析が行える。本授業は、抄物・注釈を軸として、中世文学研究ならびに当該時代の思想・学問の有り様について理解を深めることを目的とする。	
		日本芸能史研究		近世において、芸能と文学はたがいに影響を与えながら展開している。本授業では、歌舞伎に取材した草双紙をとりあげ、歌舞伎と草双紙の交流について考察する。授業の到達目標は、次の2点である。(1)歌舞伎や草双紙に関する課題について、言語文化の研究手法を用いて、考察することができる。(2)自分の考えを口頭表現や文章表現によって的確に伝えることができる。本授業は、歌舞伎と草双紙の交流を考察し、その実態を批評できる力を身につけることを目的とする。	
		日本近現代文学研究		本授業では、日本近現代文学における文学テキストと文芸批評について、精読を基本とする解釈とともに、取り扱うテキストが生成された歴史・文化的状況を踏まえながら、文芸批評やその対象となった小説を読み、それについて論じる技術を養成する。授業の到達目標は、次の2点である。(1)文学研究の専門的知識を踏まえてテキストについて説明できる。(2)日本近現代文学の特徴についてさまざまな視座から考察・論述できる。本授業は、日本近現代文学に関する専門的知識を養いながら、文学テキストや文芸批評を精読することによって文学研究の基礎を身につけることを目的とする。	
		中国思想史研究		本授業では、先秦～隋唐時代の中国思想史の流れ、各時代の思潮・学派・学説及び問題や特徴などを紹介した上で討論を行う。天人関係・自然と人為・人間性論・義と利・徳治と法治・気の学説・有無の弁・言意の弁・三教関係・空と心性・禅宗などの解説を通して、中国思想史の知見を広げ、研究方法や最新研究を紹介し、日本文化との関係にも留意する。最終回では、共同討論を通じて授業内容について受講生の理解を深めることに加え、個別発表も行う。授業の到達目標は、中国の歴史文化の知識と研究方法を習得することである。	
		中国古典文学研究		本授業では、日本人が詠んだ漢詩を通史的に取り上げながら、漢文学が日本の古典文学や伝統文化に与えた影響について、広く且深く学んでいく。授業の到達目標は、中国の古典文学や古代文化、及びそれと関連する日本漢詩や日本の文化について、高度で専門的な知識を習得することである。併せて、東アジアを視点とする学際的視野のもとに、今もなお東アジアの伝統文化を継承しつつ現存する、中国と日本の文化、及び自分自身の在り方について考察を深めることを目的とする。	
		朝鮮言語文化論研究		本授業では、朝鮮語訳された『坊っちゃん』（夏目漱石著）とその日本語原文を見比べながら、朝鮮語と日本語の類似点・相違点について対照言語学的視点から考察を行っていく。折にふれて、英語訳も検討することとする。本授業の到達目標は、(1)朝鮮語の高度な読解力を身につける、(2)日本語と朝鮮語の表現を対照させ、言語学的観点から分析すること、である。本授業は、日本語小説の朝鮮語訳とその原文を見比べながら、日本語と朝鮮語の類似点・相違点を観察することにより、日朝対照言語学の基礎を養うことを目的とする。	
		イギリス近現代文学研究		本授業では、Sir Arthur Conan DoyleのThe Adventures of Sherlock Holmesを題材に、精読と多読とを併用しながら、担当者の発表とそれに基づくディスカッションを繰り返す。適宜他の短編小説や関連する参考文献の講読も併用する。本授業の到達目標は、以下の4点である。すなわち、(1)小説研究の基礎を身につけることができる、(2)口頭発表のためのレジュメを作成できる、(3)口頭発表を通じて自分の考えを的確に伝えることができる、(4)自分の考えを論文形式で公表することができる、ことを目標とする。	
		英米言語文化論研究		This lecture treats Anglo-American culture of language, especially focusing its definition, relation to national and postcolonial literatures, problems and opportunities. Some examples of the theme will be introduced. Through reading sample works, students will understand the basic theory of cross-cultural literature and find in what topic they are interested. In this course students will develop skills in literary analysis and understand the definition of Anglo-American culture of language and the relation to national and postcolonial literatures. 本授業は、アングロ・アメリカンの言語文化を対象として、特に国民文学とポストコロニアル文学との間にある問題や（両者が交錯する）機会をめぐって、両者はいかなる関係性をもっているのかに焦点をあてる。授業では、このテーマに即したいくつかの事例を取り上げる。学生は、取り扱う作品を読解することを通じて、異文化間を横断する文学に関する基礎理論を学びながら、どのようなトピックに注意が払われているかについて考察する。本授業では、文学作品を分析する力を身につけるとともに、アングロ・アメリカンの言語文化とは何か、国民文学とポストコロニアル文学との関係性とは何かを理解することを目的とする。	
		英米コミュニケーション論研究		本授業では、英語運用の社会言語学的側面について、研究論文の内容の正確な理解だけでなく、批判や新たな問題提起も視野に入れて議論を行う。授業の到達目標は、次の2点である。(1)英語の変種と社会的要因との関係を説明できるようになる。(2)話者のアイデンティティがコミュニケーションにおける言語項目の選択にどのように関わるかが理解できるようになる。本授業は、英語運用と社会的要因の関係を言語学的に考察する視点を養うことを目的とする。	
		アメリカ現代文学論研究		本授業では、まず、アメリカの演劇作品を原文で読み込み、その後（あるいは並行的に）その作品に関する批評論文や劇評を精読することを通して、作品の理解および演劇をめぐる諸問題について理解を深める。本授業の到達目標は、(1)アメリカの演劇作品をめぐる基本的な問題について理解すること、(2)英語で書かれた批評文を正確に読解すること、の2点である。本授業は、アメリカの演劇に関する批評論文や劇評を精読し、その表現の特性と批評の方法について学ぶことを目的とする。	
		英語動態論研究		本授業では、英語学（言語学）の諸領域のなかで、意味論の基本的な概念・研究手法に習熟することを目的とする。特に、日・英語をはじめ、複数の言語を比較対照する場合に、どのような視点からどのようなデータを集めるのか、さらにどのようにして独自の議論を展開するのか、その手法を学ぶことに重点をおく。授業の到達目標は、次の2点である。(1)研究テーマに沿って自分で収集したデータに基づき、独自の視点から日・英語の特性を比較分析できる。(2)論旨の明確な議論を通して、オリジナリティの高い主張を展開できる。本授業は、「英語学」という学問分野を「一般言語学」「理論言語学」の一分野として認識し、英語言語学の諸領域における研究方法に習熟するための授業である。	
		英語習得論研究		本授業では、第二言語を習得するメカニズムや、習得の速度・最終到達度の個人差につながる要因を英語習得に焦点を当てて理解し、より効果的・効率的な英語教育・英語学習への鍵を探る。授業の到達目標は次の2点である。(1)第二言語習得理論の基礎的内容を説明できる。(2)これまでの第二言語習得理論研究で得られている知見を日本の英語教育にあてはめて考察できる。本授業は、第二言語習得理論の基礎的内容および先行研究で得られている知見を理解し、第二言語習得理論と英語教育の関連について考察することを目的とする。	
		ドイツ言語文化研究		国家統一の遅かったドイツでは、統一的ドイツ語の形成は長期にわたる漸進的現象でした。15世紀に発明された活版印刷術によってその後の文字文化は一変し、ドイツ語の統一も一気に進みました。この時代のドイツ語を学ぶことで、現代ドイツ語の成立に関する歴史的な理解を深めます。また統一的ドイツ語形成を促す要因の一つとなった当時の文学作品に触れることで、その時代の市民文化についても学びます。	
		ドイツ語学研究		本授業は、日本語への翻訳に頼らずにドイツ語の文献や資料を直接取り扱えるようになることを目的としている。そのために、語史や対照言語学などのさまざまな視点のもと、ドイツ語学に関連する複数のトピックを扱いながら実際の講読などを通して、文献の読解、資料の収集方法、資料分析の方法を学ぶことに特に重点を置く。授業の到達目標は次の3点である。(1)ドイツ語学や一般言語学に関する基本的な知識を身につける。(2)ドイツ語で書かれた原書文献や資料の取り扱いに慣れる。(3)研究の基本的な方法論や分析の方法を知る。	
		フランス近現代文学研究		本授業では、フランス近代詩を代表する詩人ボードレールの詩作品および美術批評を、原文（フランス語）で丁寧に読解する。注釈やこれまでに提示されてきた多様な解釈、先行研究を参照しつつ精読を行い、表現技法や主題の特徴、ならびに文学史における位置づけについて考察することを目指す。こうした作業を通じて、フランス文学作品を自ら読み味わう力を養うと同時に、テキストを根拠に問いを立て、議論を深めていくという文学研究の方法と意義を理解していく。	
		フランス言語文化研究		本授業では、フランスの文学史上、特筆に値する出来事であった演劇の隆盛を中心に、太陽王ルイ14世のヴェルサイユ宮廷時代を頂点とする古典主義時代の文学を論じる。歴史的背景を概観しつつ、主要な作品や人物、事件や思想などを幅広く紹介し解説を加えていく。本授業の到達目標は、(1)文学作品や文芸批評を原文で正確に読解できること、(2)フランスの韻文に親しみ、正確に音読できること、の2点である。本授業は、フランス古典主義時代の文学に関する基礎的な知識を身につけ、フランス文学の底流をなす思想や美学を理解することを目的とする。	

専 門 科 目 （ 演 習 系	法 学 コ ー ス	公法研究演習Ⅱ		本授業では、主として統治機構の基礎理論に関する論文のうち、受講生の関心に合うものを精読していく。憲法における統治機構について修士論文を執筆しようとする者が研究課題を設定することができることを目標とする。授業の到達目標は、現在の憲法学の水準を理解し、その上で、適切な問題提起となる研究課題を設定することができることである。本授業で実際に取り上げる論文は、受講生と相談しながら決定する。	
		公法研究演習Ⅳ		本授業は、地方自治法・行政法理論に関する専門的知識を踏まえながら判例分析をし、判例の読み方を身に付けることを目的としているものであり、実際に判決文を読み進めることによって、問題点について理解を深めるものである。受講者の興味関心も踏まえながら、実際に扱う判例を決定していく。	
		民事法研究演習Ⅰ		本授業では、民法財産法の領域から受講生の研究テーマを考慮して関連する主要な判例等を取りあげ、これを検討・考察することにより、問題点について理解を深める。不動産法や損害賠償法の領域を中心とする予定であるが、受講者の関心や理解度に応じ、その他の領域も対象とする。	
		民事法研究演習Ⅲ		本授業では、商事法、とりわけ会社法の解釈上の論点のうち主要なものを、判例の検討を通じて学ぶ。本授業で取り上げる論点は、株主総会決議の瑕疵、取締役の義務・責任、株主代表訴訟、募集株式の発行等、新株予約権、敵対的買収とその防衛策、組織再編における反対株主の株式買取請求権、詐欺的な会社分割、キャッシュ・アウトに関するものなどを予定している。	
		民事法研究演習Ⅳ		本授業では、民事手続法上の論点を含む事例について、受講者が必要な調査・分析を行い、事例に対する最適な解決策を導くことができる能力を涵養することを目的としている。授業は、さまざまな民事法上の紛争事例を事例問題として示し、受講者がその解決について起案・発表し、教員との間で問答を繰り返しながら、民事手続法上の制度や論点に関して理解を深めていく。民事手続法上のテーマで修士論文を執筆する受講者に対しては、受講者が関心を有する分野について、最新の論文や判例にも言及しながら演習を進める。	
		民事法研究演習Ⅴ		本授業では、受講者の報告を基本的なたちとし、判例研究や論文講読などを通して、民法の論点について検討および考察をする。その前提として、資料の収集・分析・整理の方法などについても適宜解説をする。また、授業で扱われるテーマは、主に財産法の領域に属するものを想定しているが、受講者の関心や理解度に応じて決定する予定である。すでに受講者の研究テーマが決まっている場合には、それに関する判例や論文を集中的に扱っていく。	
		刑事法研究演習Ⅰ		本演習では、刑法総論分野を中心とするテーマの中から各受講生の研究テーマに沿った課題を設定し、研究の基礎的部分を深化させる。受講者の研究テーマにそって設定した課題にかかる資料を収集し、資料輪読、要約報告、検討をおこなう。刑罰的な法考察の視点にそって法解釈ができるようになることを目標とする。	
		応用法研究演習Ⅰ		本授業では、不公正な取引方法に係る審判判決および論文を読み、独占禁止法の基礎知識を修得し、不公正な取引方法に係る審判判決を検討することにより実践的応用力を身につけることをめざす。授業の到達目標は、(1)独占禁止法の審判判決を読解する力を養成すること、(2)独占禁止法違反に関する事件につき、問題点を自ら発見し、分析し、考察することができるようになること、(3)毎日のように新聞、テレビ等で報道される独占禁止法違反事件に関心を向けることができるようにすることである。これらを通じて、独占禁止法の分野にかかる実践的応用力を身につけるとともに修士論文のテーマ設定につなげていく。	
		応用法研究演習Ⅱ		本授業では、日本社会保障法学会『新・講座社会保障法』3巻につき、報告及び議論を通じ現代の法理論上の課題を理解し、今後の展望を考える。また、最新判例を検討し、法理論の展開を研究する。これらを通じて、社会保障法学の基礎的知識を展開し、法理論上の課題を検討することができること、及び、判例検討を通じ、生活実態上の課題と法政策の関係につき論理的に議論ができるようになることをめざす。	
		国際関係法研究演習Ⅰ		本授業では、国際関係法のうち国際公法の領域について、その基礎的な概念や考え方を基本文献の読解を通じて学び、多様な視点と分析のための理論や基礎的な研究方法について理解する。授業の到達目標は、次の2点である。(1)国際法全般の意義と役割について具体的事例を挙げながら説明することができる。(2)国際法を通じた各領域での問題解決について説明するとともに、今後の課題と展望について説明することができる。担当教授が指定した文献から受講生が関心のあるテーマを選択しそのテーマについて個別報告した後、各回のテーマについて適宜ディスカッションを行うなどして、国際法の考え方について理解を深め、修士論文のテーマ設定につなげていく。	
		政治学研究演習Ⅰ		本授業では、政治過程論および比較政治学に関する文献、および、政治学の分析方法に関する分析を輪読する。外国語の文献と日本語の文献を用いる。この授業を通して、政治過程論や比較政治学の政治学での修士論文執筆に必要な知識および分析スキルを身に付けることを目的とする。これにより、修士論文のテーマ設定につなげていく。	
		政治学研究演習Ⅱ		本授業では、規制改革の分析を行う。どのような規制が成功／失敗するのか。政府は何を規制できて、何は規制できないのか。市場原理の活用にあたってはいかなる制度的工夫が有効か。この授業では、こうした問題を、事例に則して検討する。授業は文献の輪読・討論を基本に進める。この授業により、政府は何を規制できて何は規制できないのかを学び、市場原理の活用にあたってはいかなる制度的工夫が有効であるのかを考察することにより、政策的含意を導き出すことができるようになることをめざす。授業の到達目標は、(1)どのような規制が成功／失敗するのかを説明できること、(2)市場原理の活用にあたってはいかなる制度的工夫が有効かを説明できることである。	
		政治学研究演習Ⅲ		本授業では、国家と民族（とくにナショナリズム）に関する文献を輪読する。外国語の文献（英語を想定しているが出席者の希望によってはドイツ語やフランス語も可）と日本語の文献を用いる。現代社会を理解する上で、国家と民族に関する知識は必須といえる。この授業では国家と民族に関する歴史、現状、理論について理解を深め、修士論文のテーマ設定につなげていく。	
		政治学研究演習Ⅳ		本授業では、文献資料を用いてアジアの地域研究を行う。アジア地域研究に関して、これまでどのような議論がなされてきたかを理解できるようにする。アジア地域研究に関する先行研究を批判的に検討したうえで、自分の考えを持つことができるようになる。アジア地域研究について学ぶことを通じて、社会のなかでいかに生きていくかを問い直すことが、最終的な到達目標である。授業は、文献の輪読（レジュメを作成して発表し、議論を行う）によって進めることを原則とする。演習を通じて修士論文のテーマを設定できるようにしていく。	
		政治学研究演習Ⅴ		本授業では、World development、American Political Science Reviewなどから選択した論文を全員が事前に読み込み、授業では内容を確認の上、批判的に検討する。英語で書かれた学術論文の見つけ方、要約の仕方、批判の仕方を学ぶことを目的としている。この授業の履修により、(1)関心のある先行研究を効率的に見つけること、(2)当該領域で既に何が明らかにされているのか簡潔にまとめること、(3)建設的に将来の研究について提案することができるようになる。	
		政治学研究演習Ⅵ		本授業では、行政学および関連分野（政治学、政策学、地方自治論）の基礎理論や具体事例についての文献を扱い、文献講読を通して、行政学および関連分野（政治学、政策学、地方自治論）の基礎理論や具体事例について理解を深め、社会現象や物事に対して多角的な視点から分析理解する能力を身につけることを到達目標とする。	
		政治学研究演習Ⅶ		本授業では、国際関係論の中でも特に国際関係史に対する理解をさらに深め、国際関係史に関する様々な文献を読んで幅広い知識を獲得することを目的としている。この授業の履修により、さまざまな政治現象について、国際関係論の視点から一定の分析を行う能力を身につけることができるようにしていく。	
		政治学研究演習Ⅷ		本授業では、アフリカ地域研究にかかわる民族誌を主要な素材としながら、民族誌的方法の意義と限界を検討する。あわせて近年の理論的展開にも触れながら、民族誌が現代の人文社会科学においていかなる役割を果たしているのかを考察する。さらに、授業を通じて各自が関心をもつテーマを民族誌の視点から問い直すことで、修士論文に向けた研究課題の設定と調査構想の具体化を目指す。	
		政治学研究演習Ⅸ		本授業では、地域研究の研究視角を主軸としたうえで、西洋の近代植民地支配が東南アジアに拡大した19世紀から20世紀を理解する主要な枠組みを学ぶことを目的とする。その際の具体的なテーマとして近代東南アジアにおけるジェンダーを挙げる。当該テーマに関する文献を精読することをつうじて、過去におけるジェンダー生成を捉える分析視角と、所与とされる社会的枠組みを省み批判的に再検討する考察力を習得する。	

専門科目（演習系）	法学コース	法務プロジェクト 演習 1	本授業では、受講者が自ら解決すべき課題として提示した研究テーマについて、法学の枠組みに法実務の手法を用いつつ課題解決のための研究を P B L（Problem-based Learning）方式で行う。研究テーマに関する先行研究や類似課題の先行解決事例を整理し、丁寧に分析しながら、法理論を課題解決に応用し、実践的な学修を展開する。 (1 井口 秀作) 公法学の領域における研究成果や手法を用いた課題解決方法について研究する。 (29 加藤 祐子) 公法学の領域における研究成果や手法を用いた課題解決方法について研究する。 (32 西脇 秀一郎) 民事法学の領域における研究成果や手法を用いた課題解決方法について研究する。 (31 岡田 陽介) 民事法学の領域における研究成果や手法を用いた課題解決方法について研究する。 (2 小田 敬美) 民事法学の領域における研究成果や手法を用いた課題解決方法について研究する。 (30 池野 敦貴) 民事法学の領域における研究成果や手法を用いた課題解決方法について研究する。 (33 田川 靖紘) 刑事法学の領域における研究成果や手法を用いた課題解決方法について研究する。 (4 泉日出男) 産業法学の領域における研究成果や手法を用いた課題解決方法について研究する。 (3 鈴木 静) 社会法学の領域における研究成果や手法を用いた課題解決方法について研究する。 (5 檜林 建司) 国際関係法学の領域における研究成果や手法を用いた課題解決方法について研究する。	
		法務プロジェクト 演習 2	本授業では、受講者が自ら解決すべき課題として提示した研究テーマについて、法学の枠組みに法実務の手法を用いつつ課題解決のための研究を P B L（Problem-based Learning）方式で行う。研究テーマに関する先行研究や類似課題の先行解決事例を整理し、丁寧に分析しながら、法理論を課題解決に応用し、実践的な学修を展開する。受講者が法務プロジェクト演習 1 で修得した知識や技能を活かし、自律的な課題解決能力の修得をめざす。 (1 井口 秀作) 公法学の領域における研究成果や手法を用いた課題解決方法について研究する。 (29 加藤 祐子) 公法学の領域における研究成果や手法を用いた課題解決方法について研究する。 (32 西脇 秀一郎) 民事法学の領域における研究成果や手法を用いた課題解決方法について研究する。 (31 岡田 陽介) 民事法学の領域における研究成果や手法を用いた課題解決方法について研究する。 (2 小田 敬美) 民事法学の領域における研究成果や手法を用いた課題解決方法について研究する。 (30 池野 敦貴) 民事法学の領域における研究成果や手法を用いた課題解決方法について研究する。 (33 田川 靖紘) 刑事法学の領域における研究成果や手法を用いた課題解決方法について研究する。 (4 泉日出男) 産業法学の領域における研究成果や手法を用いた課題解決方法について研究する。 (3 鈴木 静) 社会法学の領域における研究成果や手法を用いた課題解決方法について研究する。 (5 檜林 建司) 国際関係法学の領域における研究成果や手法を用いた課題解決方法について研究する。	
		政策プロジェクト 演習 1	本授業では、受講者が自ら解決すべき課題として提示した研究テーマについて、政治学ないし政策学の枠組みに法実務の手法を用いつつ課題解決のための研究を P B L（Problem-based Learning）方式で行う。研究テーマに関する先行研究や類似課題の先行解決事例を整理し、丁寧に分析しながら、理論を課題解決に応用し、実践的な学修を展開する。 (34 池田 文) 政治過程論および比較政治学の領域における研究成果や手法を用いた課題解決方法について研究する。 (9 福井 秀樹) 公共政策論及び政治システム論の領域における研究成果や手法を用いた課題解決方法について研究する。 (8 梶原 克彦) 歴史政治学の領域における研究成果や手法を用いた課題解決方法について研究する。 (6 石坂 晋哉) アジア地域研究の領域における研究成果や手法を用いた課題解決方法について研究する。 (10 三上 丁) 国際開発論の領域における研究成果や手法を用いた課題解決方法について研究する。 (36 菅原 健志) 国際関係論の領域における研究成果や手法を用いた課題解決方法について研究する。 (7 太田 響子) 行政学および地方自治論の領域における研究成果や手法を用いた課題解決方法について研究する。 (35 近藤 有希子) アフリカ地域研究の領域における研究成果や手法を用いた課題解決方法について研究する。 (37 藤村 瞳) 東南アジア地域研究の領域における研究成果や手法を用いた課題解決方法について研究する。	
		政策プロジェクト 演習 2	本授業では、受講者が自ら解決すべき課題として提示した研究テーマについて、政治学ないし政策学の枠組みに法実務の手法を用いつつ課題解決のための研究を P B L（Problem-based Learning）方式で行う。研究テーマに関する先行研究や類似課題の先行解決事例を整理し、丁寧に分析しながら、理論を課題解決に応用し、実践的な学修を展開する。受講者が政策プロジェクト演習 1 で修得した知識や技能を活かし、自律的な課題解決能力の修得をめざす。 (34 池田 文) 政治過程論および比較政治学の領域における研究成果や手法を用いた課題解決方法について研究する。 (9 福井 秀樹) 公共政策論及び政治システム論の領域における研究成果や手法を用いた課題解決方法について研究する。 (8 梶原 克彦) 歴史政治学の領域における研究成果や手法を用いた課題解決方法について研究する。 (6 石坂 晋哉) アジア地域研究の領域における研究成果や手法を用いた課題解決方法について研究する。 (10 三上 丁) 国際開発論の領域における研究成果や手法を用いた課題解決方法について研究する。 (36 菅原 健志) 国際関係論の手法を用いた課題解決方法について研究する。 (7 太田 響子) 行政学の領域における研究成果や手法を用いた課題解決方法について研究する。 (35 近藤 有希子) アフリカ地域研究の領域における研究成果や手法を用いた課題解決方法について研究する。 (37 藤村 瞳) 東南アジア地域研究の領域における研究成果や手法を用いた課題解決方法について研究する。	

人文学コース	哲学思想史研究演習		本授業では、前半で西洋哲学の古典的文献を講読し（文献は受講者と相談のうえ、選定する）、哲学研究の基本的なスキルを身に付ける。そして後半で受講者自身の研究内容を、それらの研究スキルを活かしてまとめ上げ発表し、授業参加者とのディスカッションを通じて考察を深める。授業の到達目標は、次の三点である。（１）哲学文献を専門的に読み解くことができる。（２）専門知識を踏まえたうえで、哲学的・論理的な思考ができる。（３）哲学的諸問題を明確にかつ批判的に論じることができる。	
	人間存在論研究演習		本授業は、参加者一人一人が自分の研究テーマに基づいて行う研究発表とその質疑応答を通じて、人間存在の諸問題を検討し、その真理のあり方を考察する。授業最初の導入を含め、各人の研究発表を15回の授業の間に行う。授業の到達目標は、次の3点である。(1)問題の要点を的確に見出し、自分の考え方を論理的に表現し、討論を行うことができる。(2)我々人間存在の多様な諸問題について、多面的に考察することができる。(3)ニヒリズムと人間存在そのものにおける真理の在り方についての深く理解することができる。本授業では、哲学的な視点を基礎に置きながら、参加者一人一人が自らの研究関心に即して研究成果を発表し、参加者全員でディスカッションを行う。問題の要点をまとめる能力、自分の考え方を論理的に表現する能力、討論を行う能力等を養うことを目的とする。	
	倫理思想史研究演習		本授業は、参加者一人一人が自分の研究テーマに基づいて行う研究発表とその質疑応答を通じて、倫理学の諸問題を検討し考察する。1年生は、修士論文作成のために必要な文献を選び、その内容を要約したレジュメを作成する。そのレジュメをもとに、必要があれば関連した研究資料等を参照しつつ、ディスカッションを行う。2年生は、修士論文の一部となりうる研究成果をまとめ、順次発表する。授業の到達目標は、(1)哲学倫理学の研究テーマの専門的な考察を進め、(2)先行研究の比較から、自分の研究を位置付け、(3)自身の主張と解釈を明確に述べ、他者と議論ができる能力を培うことにある。	
	美学美術史研究演習		本授業では、購読形式で進む。取り上げる作品は芸術理論の名著として知られるブルクハルト『チチェローネ』、リーグル『末期ローマの美術工芸』、ウォーリッガー『抽象と感情移入』、ヴェルフリン『美術史の基礎概念』である。受講生は各章を担当し、時代背景を含めた内容を解説することで、美術史への理解を深めていく。	
	認知心理学研究演習		本授業では、受講者が自ら文献調査を行い、実験計画を立てて実験を遂行し、結果をまとめて発表を行うために必要な技術を習得することを目的とする。授業の前半では、受講生が各自で文献調査を行い、参加者全体でディスカッションを行いながら実験のテーマを決定する。テーマに沿って受講生は授業時間外に実験を作成、実施し、授業時間は主に進行状況の確認と実施中に生じた問題についてのディスカッションを行う。最後に受講生は実験結果をまとめて発表を行う。	
	社会文化論研究演習		本授業では、質的調査に関する文献を購読し、質的調査の手法と実態について討議する。調査に基づく理論構築の方法について考え、自らの研究課題に即した調査研究について考察する。授業の到達目標は、次の3点である。(1)質的調査の手法を身につけることができる。(2)社会調査の手法を具体的な事例の分析に適用することができる。(3)自ら調査を行い、調査に基づいた論文作成を行う力を身につけることができる。本授業では、調査手法や実証研究についての文献を購読し、調査手法と調査に基づいた研究の進め方について学ぶ。理論と実証をどのように関わらせ、展開できるのかについての知見を高めるとともに、調査の意義について考え、実証研究を行う能力を身につける。	
	社会人間論研究演習		本授業では、環境問題や地域社会についての専門的な事例研究を、文献の読解を通じて学び、自分のテーマについて応用し調査を行い、その成果をまとめて発表する。授業の到達目標は、次の3点である。(1)環境問題や地域社会についての問題や社会学的研究の成果について事例を挙げて説明することができる。(2)環境問題や地域社会について自ら課題設定を行い、それについての調査を実施し、社会学の枠組みを用いて考察することができる。(3)環境問題や地域社会についての自らの調査成果を、分かりやすくまとめて表現することができる。本授業では、環境問題や地域社会についての具体的な事例研究を通じて、社会学的な視点と社会調査の方法を理解し、応用する力を身につける。	
	地域システム論研究演習		本授業では、地域地理学に関する文献を精読し、学生の研究や社会活動に活用しうる内容について検討する。学生が実際に論文を読解し、その内容や自らの意見を発表し討論を行う。授業の到達目標は、次の2点である。(1)社会の様々な諸問題について、主体的に考え、自身の意見を主張するとともに、他者との活発な討論を行うことができる。(2)上記目的の手法・技術を習得し、自身の研究や社会活動に活用することができる。本授業は、地域地理学に関する論文の精読・紹介を通じて、さまざまな地理学分野における研究手法やプレゼンテーション方法、論文執筆のための技術を実践的に身につけることを目的とする。	
	自然環境論研究演習		本授業は、自然地理学に関する国内外の論文を精読し、その内容と学術的意義を受講者自身の研究関心と結び付けて理解することを目的とする。輪読形式による論文紹介と質疑応答、討論を通じて、自然地理学における多様な研究手法や分析視点、論文構成やプレゼンテーションの方法を実践的に学ぶ。受講者は担当文献の読解と発表準備に加え、他の学生の発表内容についても事前に検討し、議論に主体的に参加することで、問題解決に必要な調査・分析能力と論理的な表現力の向上を目指す。	
	東アジア考古学研究演習		本授業では、西部瀬戸内地域における考古資料を受講生が取りあげ、関連資料を調査したのち、レポートを作成し、発表する。授業の到達目標は、次の3点である。(1)弥生時代、古墳時代における瀬戸内各地域の交流について遺物・遺構を具体的に挙げながら説明できるようにする。(2)自らが発掘調査した遺跡・遺構・遺物について、関連する資料の調査を実施したうえで、学術的価値を見いだしながら説明できるようになる。(3)学際的な発想と研究方法を身につける。	
	アジア考古学研究演習		本授業では、「現代社会」「食料獲得社会」「食糧生産社会」「生産と技術」「交流」「村落と社会」「国家形成」などをキーワードとする論文を選び、その内容を要約し発表する。そして、それぞれが専門とする地域・時代と比較的に論じながら書評を作成する。授業の到達目標は、次の3点である。(1)アジアの諸地域で研究されている考古学の論文を読解し、日本考古学と比較しながらその特色を理解する。(2)自己の設定した専門内容に上述の方法論や特色を援用し、より豊かな研究へと発展させることができる。(3)適切な表現を用いて、自己の考えを的確にかつ簡明に他者に伝えることができる。本授業は、様々なキーワードに関連するアジア各地の考古学の論文を読解し、その内容を要約するとともに、自己の専門分野に置き換えて検討し討議する。	
	日本歴史構造論研究演習		本授業では、村上海賊に関する史料の講読を行い、中世瀬戸内海をめぐる政治的・軍事的な動向、地域社会の諸相を学び、史料内容とその歴史的背景について報告・議論することで理解を深める。授業の到達目標は、次の3点である。(1)日本中世史料を正しく読解・分析することができる。(2)日本中世史料について課題を設定し、考察することができる。(3)考察内容を的確に発表・議論・論述することができる。本授業は、日本中世史料の読解力を修得するとともに、歴史学における総合的な思考力を身につけることを目的とする。	

専門科目（演習系）	人文学コース	認知言語学研究演習		本授業では、コーパスを用いた現代日本語（国語）の認知言語学的研究をテーマとし、認知言語学における理論を基盤としながら、コーパスを用いた実証的な研究方法を習得する。コーパス言語学に関する学術書や学術論文を精読して検討・議論しながら、現代日本語の語彙・文法現象をコーパスのデータに基づいて分析・考察する方法について学ぶ。到達目標として、①コーパス言語学の理論と研究方法を理解し、認知言語学研究における位置づけを説明できること、②コーパスから収集したデータに基づいて、現代日本語の語彙・文法現象を実証的に分析・考察できることを目指す。	
		現代日本語論研究演習		本授業では、日本語方言のアクセントには、どのようなタイプがどこに分布しているのか、またそれらのアクセントがどのような過程を経て形成されてきたのか、先行研究の成果とともに、現地調査の結果を活用して考察する。授業の到達目標は、次の3点である。(1) 日本語方言のアクセントの特徴について把握し、説明・論述することができる。(2) 日本語方言のアクセントについて、言語地理学的な視点から考察することができる。(3) 日本語方言のアクセントについて、日本語史的な視点から考察することができる。本授業は、日本各地の方言アクセントの形成過程について、これまでの研究成果をもとに考察することを目的とする。	
		日本古典文学研究演習		本授業では、日本の古典文学作品の輪読をとおして対象のあり方に即した研究方法を模索するとともに、文学をめぐる汎時的思索を前提として、作品を形成することのありようを総体として把握する視座を演義する。授業のテーマは、①原文の精読 ②実証と論証 ③文献学の立場 の3つである。また、到達目標は以下の3つである。(1) 古典日本語になる文学作品の精読をとおして研究方法を体得する。(2) 文献学的観点から対象となる作品本文を解釈し説明することができる。(3) 古典研究の様々な方法に関する知見を得るとともにそれらを活用できる。	
		日本中世文学研究演習		本授業では、受講者の関心に基づいて抄物・注釈に関連する発表テーマを設定し、発表に向け準備を行い、最終的にその成果を論文化する。中世文学研究においては、中国文学、上代・中古文学の受容、さらには中世文学が後世の文学に与えた影響、史学や思想との関係性など様々なアプローチがあるが、それらを有機的に結びつけて、自身の研究スタイルを確立していく必要がある。本授業はその準備運動として位置付けられるものである。授業の到達目標は、次の2点である。(1) 自ら見出した問題点を探求していくことで、自身の興味・関心の幅を広げる。(2) 自身の研究成果を相対的に捉え直す力を習得する。本授業は、中世文学の研究手法を学ぶ中で、自身の研究手法を確立させることを目的とする。	
		日本芸能史研究演習		本授業では、江戸時代の歌舞伎文化について、受講生それぞれがテーマを設け、発表することを通して、歌舞伎研究の基礎的方法を実践する。授業の到達目標は、次の2点である。(1) 自ら設定した課題について、言語文化の研究手法を用いて、考察することができる。(2) 自分の考えを口頭表現や文章表現によつて的確に伝えることができる。本授業は、歌舞伎文化についての理解を深めるとともに、研究の方法を身につけることを目的とする。	
		日本近現代文学研究演習		本授業では、日本近現代文学における文学研究の方法論的実践について、小説と批評史の相関について学びながら、文学研究の方法論を身につけるとともに、テキスト分析を実践する力を養成する。授業の到達目標は、次の2点である。(1) 文学研究の専門的知識を踏まえてテキストを分析することができる。(2) 日本近現代文学の特徴について複数の方法論的アプローチを踏まえて考察・論述できる。本授業は、日本近現代文学に関する専門的知識を養いながら、テキスト分析や文芸批評の方法論を身につけることによって文学研究の実践力を磨くことを目的とする。	
		中国思想史研究演習		本授業では、先秦～隋唐時代の中国思想史の代表的原典資料の講読と討論を通じて、中国思想文化の理解を深める。講読の内容は先秦時代の諸子百家から漢一唐時代の玄学や仏教などまでの原典資料を含め、受講生は、授業内で提示された文獻の読解や、指示された課題に取り組みつつ、これらの理解を深めていく。また、こうした研究を踏まえ、共同討論と口頭発表を行う。本授業の到達目標は、中国思想史の専門的知識を習得することである。	
		中国古典文学研究演習		本授業では、先秦時代から晩唐期までの中国古典詩を、テキスト及び担当者が作成した資料を用いながら精読し、受講者全員による討議と検討を行う。本授業の到達目標は、(1) 中国の古典文学や文化に関する高度で専門的な知識の習得、(2) 古典文学研究の高度な方法の理解と習得、(3) 自ら課題を設定し考察する能力の獲得、(4) 古典文学に関する高度かつ専門的な知見によって現代社会を検証する見識の養成、の4点である。本授業は、中国古典文学や伝統文化の魅力とその特質を深く理解し、中国と日本の文化的関係性、及び自分自身の在り方について自覚を持つこと、を目的とする。	
		朝鮮言語文化論研究演習		本授業では、朝鮮語学における諸問題について、受講生の研究テーマを中心として言語学的にアプローチを行う。受講生は、授業で示された参考文献の読解も併せつつ、テーマへの理解を深める。本授業の到達目標は、(1) 朝鮮語学の諸側面に関する知識を深め、(2) 朝鮮語を言語学的に考察できる力を養うことの2点である。本授業は、朝鮮語学の諸問題について様々な観点から分析することによって、朝鮮語を言語学的に分析できることを目的とする。	
		イギリス近現代文学研究演習		本授業はGeorge Orwellの Nineteen Eighty-Four を題材として、担当者の発表とそれに基づくディスカッションを重ねる形式で行う。本授業の目的は、(1) 本作及び関連する他のディストピア小説に関する知識を深めること、(2) 20世紀の小説全般についての知識の深化を通じて自ら研究課題を設定すること、(3) 研究論文を読みこなすことができる英語力を身につけること、(4) 自分の意見を口頭及び文章で的確に伝えること、以上4点である。本授業の目的は、課題作品の精読とディスカッションを繰り返していきながら、この作品及び20世紀イギリス小説全般の中から自らの研究課題を発見することである。	
		英米言語文化論研究演習		This seminar treats Anglo-American culture of language, especially focusing its definition, relation to national and postcolonial literatures, problems and opportunities. Some examples of the theme will be introduced. Through practical reading and writing a final report about the theme, students will understand the theory of cross-cultural literature. In this course students will develop skills in literary analysis and understand the definition of Anglo-American culture of language and the relation to national and postcolonial literatures. 本授業は、アングロ・アメリカンの言語文化を対象として、特に国民文学とポストコロニアル文学との間にある問題や（両者が交錯する）機会をめぐって、両者はいかなる関係性をもっているのかに焦点をあてる。このテーマに即したいくつかの事例を取り上げ、取り扱う作品に対する読解の実践とテーマに関するレポート執筆を通じて、異文化間を横断する文学に関する基礎理論を学修する。本授業では、文学作品を分析する力を身につけるとともに、アングロ・アメリカンの言語文化とは何か、国民文学とポストコロニアル文学との関係性とは何かを理解することを目的とする。	

本授業では、まず、社会言語学に関する概説を行い、その後、英語の変種に焦点を当てた先行研究の検討を学生の発表を中心に行う。授業では、先行研究内容の正確な理解だけでなく、具体的な事例分析の演習も行う。授業の到達目標は、次の2点である。(1) 当該分野に関する先行研究を批判的に論じることができる。(2) 事例分析を通して英語の変種と社会的要因との関係について独自の仮説を組み立てることができる。本授業は、具体的な英語の変種の考察を通して、英語運用のメカニズムについての受講者の問題意識を高め、修士論文作成の基礎を築くことを目的とする。

本授業では、初心者向きに書かれた詩批評を精読しながら、詩という形式を構成する基本的な要素や技巧についての基本的知識を踏まえた上で、個別の作品分析と解釈について実践的に学ぶ。本授業の到達目標は、以下の2点である。(1) 詩の基本的な要素を理解し、作品分析と批評を実践できる。(2) 詩作品について英語で書かれた批評文を正確に読解できる。本授業は、文学史的にも重要とされるアメリカ詩を原文で読み、作品分析と批評方法の基礎について学ぶことを目的とする。

本授業では、英語学（言語学）の諸領域のなかで、意味論の基本的な概念・研究手法に習熟することを目的とする。特に、①英語・日本語を主な研究対象とした意味論、形態論、語形成関連の専門書（英文）を精読する、②先行研究の主張を的確に要約しつつ、その内容を（時には批判的に）検討する、③ひとつの現象に対する複数のアプローチを比較検討し、自らの主張を展開する、以上の3点に重点をおく。授業の到達目標は、次の2点である。(1) 研究書を精読し、その主旨を手際よく要約し、問題の所在を的確に指摘することができる。(2) 理論言語学の研究手法に習熟し、身近な言語現象から自分でデータを収集し、多角的に検討することができる。本授業は、「英語学」という学問分野を「一般言語学」「理論言語学」の一分野として認識し、英語言語学の諸領域から受講生が専攻するテーマについて研究活動の基礎を身につけるための授業である。

本授業では、英語の論文の基本的な構成や表現について学んだ上で、英語学習の動機づけをトピックとした論文に関するディスカッションを通して、日本の英語教育現場における動機づけ向上の鍵を捉える。授業の到達目標は、次の2点である。(1) スタンダードな英語の論文の読み方を理解している。(2) 英語学習動機づけに関する理論を日本における英語教育・英語学習に当てはめて考察できる。本授業は、英語の論文の読み方を理解した上で、これまでに提案されている様々な英語（外国語）学習動機づけ理論を日本の英語教育・英語学習に当てはめて考察することを目的とする。

1350～1650年のドイツ語は、語史的区分では「初期新高ドイツ語」と呼ばれています。この時代のドイツ語の基礎を学びつつ、実際にいくつかの文学作品を読み解いていきます。また受講生自身が選んだテーマについて、研究発表をしてみたいです。

専 門 科 目 （ 演 習 系 ）	人 文 学 コ ー ス	ドイツ語学研究演習		本授業は、ドイツ語原書の研究書籍や資料の精読を通して、ドイツ語を言語学的に分析する力を習得するとともに、これらの資料に基づいてプレゼンテーションや討論を実行できるようになることを目的とする。資料や文献の収集・精読・分析を通して、ドイツ語にアプローチするための様々な研究手法を理解し、特に形態論や意味論の視点に基づく分析に重点を置く。授業の到達目標は、次の3点である。(1)ドイツ語に関して言語学的な視点から分析や討論ができるようになる。(2)形態論的・意味論的な方法でドイツ語を分析できるようになる。(3)比較言語学や対照言語学の研究手法への理解を深める。	
		フランス近現代文学研究演習		本授業では、20世紀前半のフランス詩を代表する詩人アポリネールの詩作品および美術批評を、原文（フランス語）で読んでいく。注釈やこれまでの解釈、先行研究を参照しながら精読を行い、詩的表現の革新性や主題の特徴、文学史における位置づけについて検討していく。こうした分析を通して、フランス文学作品を読み味わう力を養うとともに、20世紀前半に展開したアヴァンギャルドとは何であったのかを、文学と美術の交差点から探っていくことを目標とする。	
		フランス言語文化研究演習		本授業では、受講生の研究テーマに関連するフランス語で書かれた文学論や芸術論を探索し、原語で読解を行う。まず教員と相談のうえで受講生が自らの研究テーマに即した、あるいは興味・関心のある文献を選定し、授業の各回で、受講生自身による読解内容の確認・検討作業を行う。本授業の到達目標は、以下の2点である。(1)フランス語の文献を探索し、自らの研究に資するもの入手することができる。(2)上級辞書を用いてフランス語の文学・芸術論を正確に読解することができる。本授業は、フランス語で書かれた文学・芸術論を読みこなす実力を養いつつ、精読した内容を個々の研究に活用することを目的とする。	
研 究 指 導	法 学 コ ー ス	法学研究指導 1		本授業では、受講者が構想発表で提示した法学に関わる研究テーマについて、口頭発表を行いながら、学位論文の研究指導を行う。研究テーマに関する先行研究を整理し、丁寧な議論を重ねながら、学位論文の執筆を支援することがねらいである。特に、学位論文執筆のために必要な基礎的な知識を養いながら、明確な問題意識をもって研究テーマを設定し、学位論文としてまとめていく過程に力点をおいて指導する。本授業は、法学に関わる専門分野の理論や分析手法を参考にしながら研究計画を立て学位論文の構想を練ることで、受講者自身が研究を遂行する能力を獲得することを目的としている。 (1) 井口 秀作) 判例研究や比較法の手法を用いて、憲法の統治行為論の領域に関する課題の研究指導を行う。 (2) 小田 敬美) 判例研究や実態調査の手法を用いて、民事手続法や司法制度ないし法実務論の領域に関する課題の研究指導を行う。 (4) 泉 日出男) 判例研究や比較法の手法を用いて、経済法の領域に関する課題の研究指導を行う。 (3) 鈴木 静) 実態調査や比較法の手法を用いて、社会法とくに社会保障法や福祉政策の領域に関する課題の研究指導を行う。 (5) 檜林 建司) 国際機関・条約当事国の関係資料を調査・分析する手法や現地調査の手法を用いて、国際法に関する課題の研究指導を行う。	
		法学研究指導 2		本授業では、受講者が構想発表で提示した法学に関わる研究テーマについて、口頭発表を行いながら、学位論文の研究指導を行う。研究テーマに関する考察を深め、精緻な議論を展開しながら、学術論文の構成や文章表現を研ぐことに力点をおいて指導する。本授業は、法学に関わる専門分野の理論や分析手法を参考にしながらも自らの考察を加えて学位論文を書き進めることで、受講者自身が自律的に研究を遂行する能力を獲得することを目的としている。 (1) 井口 秀作) 判例研究や比較法の手法を用いて、憲法の統治行為論の領域に関する課題の研究指導を行う。 (2) 小田 敬美) 判例研究や実態調査の手法を用いて、民事手続法や司法制度ないし法実務論の領域に関する課題の研究指導を行う。 (4) 泉 日出男) 判例研究や比較法の手法を用いて、経済法の領域に関する課題の研究指導を行う。 (3) 鈴木 静) 実態調査や比較法の手法を用いて、社会法とくに社会保障法や福祉政策の領域に関する課題の研究指導を行う。 (5) 檜林 建司) 国際機関・条約当事国の関係資料を調査・分析する手法や現地調査の手法を用いて、国際法に関する課題の研究指導を行う。	
		政治学研究指導 1		本授業では、受講者が構想発表で提示した政治学・政策学に関わる研究テーマについて、口頭発表を行いながら、学位論文の研究指導を行う。研究テーマに関する先行研究を整理し、丁寧な議論を重ねながら、学位論文の執筆を支援することがねらいである。特に、学位論文執筆のために必要な基礎的な知識を養いながら、明確な問題意識をもって研究テーマを設定し、学位論文としてまとめていく過程に力点をおいて指導する。本授業は、政治学・政策学に関わる専門分野の理論や分析手法を参考にしながら研究計画を立て学位論文の構想を練ることで、受講者自身が研究を遂行する能力を獲得することを目的としている。 (9) 福井 秀樹) 政策分析の手法を用いて、公共政策論及び政治システム論の領域に関する課題の研究指導を行う。 (8) 梶原 克彦) 政治学に関わる専門分野（歴史政治学）の理論や分析手法を用いて、研究指導を行う。 (6) 石坂 晋哉) 現地調査や文献調査の手法を用いて、アジア地域研究の領域に関する課題の研究指導を行う。 (10) 三上 丁) 計量的アプローチから比較政治学や国際協力の領域に関する課題の研究指導を行う。 (7) 太田 響子) 文献調査や政策リサーチの手法を用いて、行政学および地方自治論の領域に関する課題の研究指導を行う。	
		政治学研究指導 2		本授業では、受講者が構想発表で提示した政治学・政策学に関わる研究テーマについて、口頭発表を行いながら、学位論文の研究指導を行う。研究テーマに関する考察を深め、精緻な議論を展開しながら、学術論文の構成や文章表現を研ぐことに力点をおいて指導する。本授業は、政治学・政策学に関わる専門分野の理論や分析手法を参考にしながらも自らの考察を加えて学位論文を書き進めることで、受講者自身が自律的に研究を遂行する能力を獲得することを目的としている。 (9) 福井 秀樹) 政策分析の手法を用いて、公共政策論及び政治システム論の領域に関する課題の研究指導を行う。 (8) 梶原 克彦) 政治学に関わる歴史政治学の理論や分析手法を用いて、研究指導を行う。 (6) 石坂 晋哉) 現地調査や文献調査の手法を用いて、アジア地域研究の領域に関する課題の研究指導を行う。 (10) 三上 丁) 計量的アプローチから比較政治学や国際協力の領域に関する課題の研究指導を行う。 (7) 太田 響子) 文献調査や政策リサーチの手法を用いて、行政学および地方自治論の領域に関する課題の研究指導を行う。	

研究指導	人文学コース	人間文化研究指導 1	本授業では、受講者が構想発表で提示した人間文化に関わる研究テーマについて、口頭発表を行いながら、学位論文の研究指導を行う。研究テーマに関する先行研究を整理し、丁寧な議論を重ねながら、学位論文の執筆を支援することがねらいである。特に、学位論文執筆のために必要な基礎的な知識を養いながら、明確な問題意識をもって研究テーマを設定し、学位論文としてまとめていく過程に力点をおいて指導する。本授業は、人間文化に関わる専門分野の理論や分析手法を参考にしながら学位論文を書き進めることで、受講者自身が研究を遂行する能力を獲得することを目的としている。 (11 山本 與志隆) 現象学・解釈学を中心とする哲学的考察の手法を用いて、哲学研究の研究指導を行う。 (18 十河 宏行) 実験心理学の手法を用いて知覚・認知心理学について研究指導を行う。 (19 朝井 志歩) 社会学に関わる研究内容について研究指導を行う。 (12 兼子 純) 地理学に関わる研究内容について研究指導を行う。 (17 村上 恭通) 遺構・遺物の型式学と空間的分布を明確にしたうえで歴史叙述ができるように研究指導を行う。 (13 胡 光) 史料解読と史料批判の方法を学び、日本歴史学についての研究指導を行う。 (16 水野 卓) 伝世文献や出土資料の読解を通して、中国古代史についての研究指導を行う。 (15 高橋 弘臣) 中国史に関する資料論を踏まえつつ、中国近世史についての研究指導を行う。 (14 齊藤 貴弘) 西洋史及び歴史学の研究方法を用いて、西洋古代史に関する研究指導を行う。	
		人間文化研究指導 2	本授業では、受講者が中間発表で提示した人間文化に関わる研究内容について、口頭発表を行いながら、学位論文の研究指導を行う。研究テーマに関する考察を深め、精確な議論を重ねながら、学位論文としてまとめることを支援することがねらいである。特に、学位論文執筆の過程に先立つかたちで議論を展開しながら、論文がどのように構成されるのか、文章表現をいかに推敲するのかに力点をおいて指導する。本授業は、人間文化に関わる専門分野の理論や分析手法を参考にしながら学位論文を完成することで、受講者が研究を遂行する能力を獲得することを目的としている。 (11 山本 與志隆) 現象学・解釈学を中心とする哲学的考察の手法を用いて、哲学研究の研究指導を行う。 (18 十河 宏行) 実験心理学の手法を用いて、知覚・認知心理学について研究指導を行う。 (19 朝井 志歩) 社会学に関わる研究内容について、研究指導を行う。 (12 兼子 純) 地理学に関わる研究内容について、研究指導を行う。 (17 村上 恭通) 遺構・遺物の型式学と空間的分布を明確にしたうえで歴史叙述ができるように研究指導を行う。 (13 胡 光) 史料解読と史料批判の方法を学び、日本歴史学についての研究指導を行う。 (16 水野 卓) 伝世文献や出土資料の読解を通して、中国古代史についての研究指導を行う。 (15 高橋 弘臣) 中国史に関する資料論を踏まえつつ、中国近世史についての研究指導を行う。 (14 齊藤 貴弘) 西洋史及び歴史学の研究方法を用いて、西洋古代史に関する研究指導を行う。	
		言語文化研究指導 1	本授業では、受講者が構想発表で提示した言語文化に関わる研究テーマについて、口頭発表を行いながら、学位論文の研究指導を行う。研究テーマに関する先行研究を整理し、丁寧な議論を重ねながら、学位論文の執筆を支援することがねらいである。特に、学位論文執筆のために必要な基礎的な知識を養いながら、明確な問題意識をもって研究テーマを設定し、学位論文としてまとめていく過程に力点をおいて指導する。本授業は、言語文化に関わる専門分野の理論や分析手法を参考にしながら学位論文を書き進めることで、受講者自身が研究を遂行する能力を獲得することを目的としている。 (20 秋山 英治) 日本語学や言語地理学などの研究手法を用いて、日本語学についての研究指導を行う。 (21 今泉 志奈子) 英語学の諸領域のなかで語彙・意味論を中心に、日英語比較対照研究の手法を用いて、研究指導を行う。 (25 田中 尚子) 和漢比較文学研究及び注釈研究の手法を用いて、日本中世文学研究についての研究指導を行う。 (24 神楽岡 幼子) 文学研究や演劇研究などの多角的な視点を取り入れ、日本芸能史研究についての研究指導を行う。 (26 中根 隆行) 文学研究や文化理論などの手法を用いて、日本近現代文学についての研究指導を行う。 (27 諸田 龍美) 比較文学や文献学の手法を用いて、中国古典文学についての研究指導を行う。 (23 池 貞姫) 日朝言語対照言語学の手法を用いて、朝鮮語学についての研究指導を行う。 (22 高橋 千佳) 第二言語習得論の手法を用いて、英語習得に関する研究指導を行う。 (28 柳 光子) 17世紀から現代までのフランス文学全般を対象として、文学研究に関する研究指導を行う。	
		言語文化研究指導 2	本授業では、受講者が中間発表で提示した言語文化に関わる研究内容について、口頭発表を行いながら、学位論文の研究指導を行う。研究テーマに関する考察を深め、精確な議論を重ねながら、学位論文としてまとめることを支援することがねらいである。特に、学位論文執筆の過程に先立つかたちで議論を展開しながら、論文がどのように構成されるのか、文章表現をいかに推敲するのかに力点をおいて指導する。本授業は、言語文化に関わる専門分野の理論や分析手法を参考にしながら学位論文を完成することで、受講者が研究を遂行する能力を獲得することを目的としている。 (20 秋山 英治) 日本語学や言語地理学などの研究手法を用いて、日本語学についての研究指導を行う。 (21 今泉 志奈子) 英語学の諸領域のなかで語彙・意味論を中心に、日英語比較対照研究の手法を用いて、研究指導を行う。 (25 田中 尚子) 和漢比較文学研究及び注釈研究の手法を用いて、日本中世文学研究についての研究指導を行う。 (24 神楽岡 幼子) 文学研究や演劇研究などの多角的な視点を取り入れ、日本芸能史研究についての研究指導を行う。 (26 中根 隆行) 文学研究や文化理論などの手法を用いて、日本近現代文学についての研究指導を行う。 (27 諸田 龍美) 比較文学や文献学の手法を用いて、中国古典文学についての研究指導を行う。 (23 池 貞姫) 日朝言語対照言語学の手法を用いて、朝鮮語学についての研究指導を行う。 (22 高橋 千佳) 第二言語習得論の手法を用いて、英語習得に関する研究指導を行う。 (28 柳 光子) 17世紀から現代までのフランス文学全般を対象として、文学研究に関する研究指導を行う。	

キ ャ リ ア 形 成 科 目	インターンシップ	本授業は、受講者の大学院修了後のキャリア形成のために実践的なスキルを学び、実際の就業体験をもとにして社会人として必要なマナーや責任感を身につけるインターンシップ科目である。官公庁や企業等での就業体験を行うことによって働くということを実感するとともに、社会が求める能力や資質についての理解を深め、キャリア形成のための知見を得ることが目的である。インターンシップは、事前指導、受入企業等の合同説明会、インターンシップ研修、報告書提出、事後指導という日程で実施する。なお、個人で選定したインターンシップや中長期にわたるインターンシップへの参加を希望する場合は、履修登録前に主指導教員に相談することとする。	共同(事前・事後指導を含む)
--------------------------------------	----------	---	----------------

(注)

- 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

授 業 科 目 の 概 要				
(人文社会科学研究科産業システム創成専攻修士前期課程)				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業 科目	講義等の内容	備考
大 学 院 共 通 教 育 科 目	リーダーシップ論		本授業では、リーダーシップの基本的な知識を習得し、リーダーとフォロワーの相互関係について整理する。現代社会の変化に対応し、持続可能な社会を形成するためには、組織を導くリーダーとフォロワーの健全な関係が重要である。授業では、リーダーシップ研究の多様なアプローチを学び、講義と演習を通じてその機能や効果を考察する。また、地域や環境、制度面を含む社会システム全体を視野に入れ、協働による問題解決の実践についても検討する。 (オムニバス方式/全8回) (26 村田 晋也・22 山中 亮/1回) (共同) 第1回 ガイダンス・リーダーシップの捉え方 (26 村田 晋也/3回) 第2回 リーダーシップ研究及び理論とその変遷 第3回 リーダーとフォロワーとその相互関係 第4回 持続可能なコミュニティを形成するためのリーダーとしての素養 (22 山中 亮/4回) 第5回 社会システムでのリーダーシップの実践 第6回 ケーススタディ・グループワーク 第7回 自分自身の姿勢の認識 第8回 振り返りとまとめ	オムニバス方式・共同 (一部)
	教授法入門―専門分野の学識を教授するために		本授業は、大学院生が自分の専門知識を効果的に他者に伝えるための知識、技術、態度を学ぶことを目的としている。主に高等教育機関での教員としての役割を前提にし、TA業務や研究室での後援指導、企業での教育・指導にも応用可能な内容を含む。授業では、教育や指導に携わる意義や倫理について深く考察し、ディスカッションを通じて質の重要性や幅広い視野を養うことができる。専門性を深めるとともに、社会での活躍に向けた基盤を築く機会となる。	
	プロジェクトマネジメント概論		本授業は、あらゆる業界において不可欠となっているプロジェクトマネジメントの基礎知識および考え方を、体系的に修得することを目的とする。不確実性が高く、将来の予測が困難なプロジェクトが増加する現代において、分野や職種を超えて共有可能なプロジェクトマネジメントの知識は、重要な役割を果たしている。本授業では、PMBOK®ガイドを基盤として、プロジェクトの立ち上げから終結に至るまでの一連のマネジメントプロセスに加え、チーム形成や変革を生むリーダーシップについて学ぶ。	
	インクルーシブ社会実現に向けて		多くの社会課題の解決や持続可能な発展には、多様な人々が互いに尊重し協働する場の構築が必要であり、多様な個人が集まり、各々の知識や思考力を発揮することで、社会や組織は新たな価値を創出できる。インクルーシブ社会の実現には、個性を活かし合える環境が重要であり、本授業ではそのための知識、能力、態度を学ぶ。また、多様性を学ぶことで自己理解が深まり、自分の強みや弱みを認識し、他者との関わり方にも気づきを得ることができる。	
	Interactive Seminars on Educational Studies		本授業は、教育分野を専門とする教員による演習である。各教員の最先端研究について英語で講義を受け、全員で議論を行う。英語での高度な討議を円滑化するため、最新ツールの活用を積極的推奨し、言語や文化の壁を超えて質の高い学術的対話の実践を目指す。この実践を通じ、受講生自身の専門領域を相対化する俯瞰的視点と、テクノロジーを駆使して国際的な研究交流を行うためのコミュニケーション能力・論理的思考力を養成する。	
	SDGs概論		SDGs時代における地域のレジリエンス向上に貢献できる人材に求められる素養として、SDGsの基本理念を理解することが重要である。本授業では、SDGsが国連で策定される背景や、世界の現状を学び、持続可能なレジリエントな社会を実現するために自己と世界がどのように変容すべきかを考察する。さらに、ポストSDGsを見据えた未来社会のあり方について多角的に考え、地域やグローバルな課題への理解を深めることで、持続可能な社会を築くために必要な思考力や行動力を養成する。	
	大学院生のためのスキルアップ教育実習		本授業では、実践的指導力の現状と課題を把握し、自己の資質向上のための目標と計画を設定できる能力を養う。さらに、大学院で学んだ知識を活用し、児童生徒の実態に応じた指導・支援を行う力を培う。目標に基づき教育実習や体験を省察し、自己の長所や強みを把握、自己指導能力を向上させるための報告ができるようになる。具体的には、課題探究活動支援や授業補助、学習支援、学校行事の指導など、教育実習を通じて実践的な経験を積む。	
	学校と地域の連携による学びの支援		学校が抱える課題や家庭・地域の教育力の低下を踏まえ、社会全体で教育力向上を目指すことが求められている。また、生涯学習社会を構築するためには、学校、家庭、地域社会の連携・協力が必要である。本授業では、生涯学習と生涯教育の基本を理解し、特に成人期の学習支援の必要性について考察する。アンドロゴジー（成人学習支援）とペダゴジー（子ども教育学）の違いを学び、異なる教育部門や教育段階間での連携による学習者支援を探る。受講者は問題解決策を調査し、発表やディスカッションを通じて学びを深める。	
	看護研究方法論		本授業では、看護学における科学的探究の基盤となる研究方法論を体系的に学ぶ。看護実践の課題を的確に捉え、理論的・倫理的枠組みに基づいて研究課題を設定し、適切な研究デザインを構築する力を養う。量的研究・質的研究の手法の特徴と活用方法を理解し、研究計画の立案から倫理的配慮、データ収集・分析、結果の解釈まで、実践的かつ批判的な視点で学ぶ。最終的には、自分の関心に基づいた研究計画書を作成し、大学院での研究活動の基礎を築く。	
	研究倫理特論		本授業では、科学研究や調査活動で遵守すべき倫理・ルールについて、その考え方や法令等の根拠、実例に基づく対応を学び、研究倫理を修得する。授業の前半では、インタラクティブ教材を用いて、研究倫理、コンプライアンス、情報セキュリティ、個人情報保護に関する基本的な内容を学習し、主体的に研究活動を行うために必要な理解を深める。後半では、倫理・コンプライアンスに関する特殊な問題（共同研究、海外とのサンプルやりとり、遺伝子操作、生命倫理など）をケーススタディで学び、実践的な対応力を養う。	
	農学最先端研究		本授業では、最先端の研究動向や研究方法を専門分野を超えて横断的に学び、研究者としての基本的な素養とプロフェッショナルな研究能力を養成する。講義では、最新の研究例を通じて、最先端の研究視点や方法論を深く学び、問題解決に向けた具体的なアプローチを習得することを目指す。さらに、研究における批判的思考や独自の視点の養い、専門分野を活かした効果的な問題解決能力を高めることに重点を置く。これにより、より実践的で高い水準の研究能力を身に付け、研究者としての姿勢や能力を向上させることができる。	
	環境・食品衛生学概論		本授業では、地域規模から世界規模までの環境問題が人間の健康に与える影響を考察する。環境計測や解析手法を学び、疫学研究を基盤として環境の健康影響を評価し、環境改善手法を提案することで、安心して暮らせる社会を追求できる能力を養成する。また、「食の安全・安心」に関する最先端の取り組みを学び、過去の事例を振り返るとともに、現在の進展を理解する。さらに、職域における安全衛生の維持に関する様々な取り組みを学び、実践的な知識を習得する。	
	総合農学概論		本授業では、全国の連合農学研究科を構成する各専攻をまたがる広範な農学領域に関して、その研究とその応用に関する最新の研究について幅広い専門知識を学ぶ。研究者として幅広い知識を修得しておくことは、将来の研究者としての発展のために有益であるとともに、専門分野を活かし問題解決能力を高めることができ、実践的で高い水準の研究能力を向上させることができる。講義では、多様な研究者から幅広い専門分野の講義を聴くことを通じて自らの研究の視野を広げるとともに、研究の理解力の向上を目標とする。	

研究 科 基 礎 科 目	人文社会科学総合（法学）		本授業は、法学（法律学及び政治学）領域の各専門分野における先端的な研究を取りあげ、地域社会の課題解決や新たな価値の創造に関わる諸問題について学ぶ。さまざまな分野の高度な専門知識をもとにした先端的研究の知見について考察・検討することで、学際的な視座を養成しながら専門分野に関する俯瞰的理解を高め、法学研究の地平を的確にとらえることが目的である。授業は、複数の教員によるオムニバス形式で実施し、各回の講義内容に関して異なる専門分野をもった受講者たちと議論を深めることで、専門分野に限らない多面的視点を身につける。 （オムニバス方式／全8回） (29 井口 秀作) 第1回 公法学分野（憲法）の概説・研究事例の紹介・検討 (60 岡田 陽介) 第2回 民法法学分野（商法）の概説・研究事例の紹介・検討 (61 田川 靖敏) 第3回 刑事法学分野（刑法）の概説・研究事例の紹介・検討 (59 池野 教貴) 第4回 民法法学分野（民法）の概説・研究事例の紹介・検討 (63 菅原 健志) 第5回 政治学分野（国際関係論）の概説・研究事例の紹介・検討 (30 福井 秀樹) 第6回 政治学分野（政治システム論）の概説・研究事例の紹介・検討 (64 藤村 隆) 第7回 政治学分野（地域研究①）の概説・研究事例の紹介・検討 (62 近藤 有希子) 第8回 政治学分野（地域研究②）の概説・研究事例の紹介・検討	オムニバス方式
	人文社会科学総合（人文学）		本授業は、「多様性をめぐる人文科学的研究」プロジェクトの成果に基づきつつ、「多様性」をめぐる文化・言語・国家の諸相やその意義について、人文学の視点から多面的かつ本質的に考察する。 （オムニバス形式・共同／全8回） (31 山本 興志隆・33 池 貞姫・32 高橋 千佳) 第1回 ガイダンス (33 池 貞姫) 第2回 多様性に関する言語とアイデンティティの研究① (33 池 貞姫) 第3回 多様性に関する言語とアイデンティティの研究② (31 山本興志隆) 第4回 多様性に関する哲学的研究① (31 山本興志隆) 第5回 多様性に関する哲学的研究② (32 高橋 千佳) 第6回 多様性に関する第二言語習得の研究① (32 高橋 千佳) 第7回 多様性に関する第二言語習得の研究② (31 山本 興志隆・33 池 貞姫・32 高橋 千佳) 第8回 まとめと振り返り	オムニバス方式・共同（一部）
	人文社会科学総合（地域産業社会）		愛媛県は、四国最大の人口と経済規模を有し、東予、中予、南予の3地域に分かれており、それぞれ紙産業・造船業、製造業・サービス業・観光業、農林水産業が盛んである。産業構造を始め、各地域の社会環境や地域資源にそれぞれの特徴があり、地域課題に共通点と相違点がある。本授業では、愛媛の地域産業や経済・経営活動、社会環境および地域資源に関するさまざまな取り組み事例を具体的にに取り上げながら、産業システムの基礎知識を学習する。地域の産業、環境、資源の現状や課題を理解する力を身につけ、地域産業の活性化方策を考察していく。 （オムニバス方式/全8回） (7 徐祝旗・2 曾我亘由) 第1回 ガイダンス・産業システムの概要 第8回 振り返りとまとめ (7 徐祝旗・2 曾我亘由・13 田窪美葉) 第2回 地域産業の現状と課題・SWOT分析 第3回 経済・経営活動の特徴と生産性 (21 渡邊敬造・18 ㏐㐀㐁㐃・27 片岡由香) 第4回 社会環境の特徴とまちづくり (24 笠松浩樹・11 井口梓・25 佐藤大規) 第5回 地域資源の特徴と地域活性化 (7 徐祝旗・2 曾我亘由・13 田窪美葉 21 渡邊敬造・18 ㏐㐀㐁㐃・27 片岡由香 24 笠松浩樹・11 井口梓・25 佐藤大規) 第6回 ケーススタディ 第7回 グループワーク・発表	オムニバス方式・共同
	研究フィールド実践		本授業では、指導教員らのもとで、履修計画に基づいて専門分野および関連分野における海外ならびに国内の学会、研究会、セミナー・講演会等を積極的に参加し、事前学習と事後学習・省察・報告を通して学習内容を深める。学生は学修活動を「学修ポートフォリオ」に蓄積し、指導教員らの指導を受けながら、研究スキルを高める。 指導教員は客観的基準に基づいて学生の学修成果を質と量の両面から評価する。 ※45時間以上の学修を1単位とする。	
専 攻 基 礎 科 目	定量分析基礎		社会科学系の学生を対象とした内容・レベルで、推定と検定を中心に推測統計学の基礎を学ぶ。具体的には、基本統計、推定、検定、相関分析、回帰分析、分散分析等の基本的なスキルを習得する。また講義中に具体的なデータを用いて活用法を確認する。	
	マネジメント基礎		①ロジカル・シンキング、②戦略立案、③事業分析、④組織設計、⑤財務・会計、⑥プロジェクト・マネジメント、⑦パートナーシップ形成、の基礎的な知識を身につける。 各々のテーマについて企業あるいは地域社会における具体的な事例を検討することで、理論の活用法を確認する。 （オムニバス方式/全8回） (5 折戸洋子 第1・2回) 1. 経営情報 2. 市場分析 (6 崔英靖 第3・4回) 3. 事業分析の手法 4. 組織形態、組織構造、責任と権限 (4 岡本直之 第5・6回) 5. 財務・会計 6. 損益分岐 (16 山口信夫 第7・8回) 7. 流通 8. 商業	オムニバス
	プロフェッショナル・リサーチ&ライティング		修士論文またはリサーチ・ペーパーの作成のために必要な基本的なスキルを学ぶ。リサーチの方法、ライティング、調査基本、資料の扱い方、記録の方法など、オムニバス形式で、それぞれの分野での事例を通じて理解し、修得への助けとする。 （オムニバス方式／全8回） (12 高橋 勇介・9 秋谷 裕幸・19 李 賢映・3 川口 和仁/4回（第1回～第4回） 第1回 ガイダンス 第2回 学術論文の目的、課題設定、執筆計画 第3回 研究活動における資料調査 第4回 先行研究のサーベイ (15 谷本 貴之・18 ㏐㐀㐁㐃・23 山本 直史/4回（第5回～第8回） 第5回 学術論文のフォーマット、文章作法、参照・引用 第6回 経済・経営コースにおける学術論文 第7回 第7回 環境・資源マネジメントコースにおける学術論文、英語文献の収集および参照 第8回 研究倫理	オムニバス・共同

専 門 科 目 （ 理 論 科 目 ）	経 済 ・ 経 営 コ ー ス	理 論 基 礎 科 目	ミクロ経済学1		ゲーム理論、行動経済学に関する基本的知識を身につけ、ゲーム理論的、行動経済学的な視点に立ち、論理的に分析し考察していく。応用ミクロ経済学、ゲーム理論、行動経済学のいずれかに関するテキストや文献を読み、ディスカッションを行う。ミクロ経済学的な思考を養い、実際にモデルを分析することで、自身の分析能力を養うことを目的とする。授業テーマは、完備完全情報ゲーム・不完備情報ゲーム	
			経済政策1		戦後の世界経済の発展や日本経済の停滞を概観し、今日日本政府が採用しているアベノミクスについて、その要点を確認する。テキストリーディングで見えていく。同時に、日米同盟の変容の内容を確認しつつ、アベノミクスが日本の経済社会をどこに導こうとしているのか、考察し、議論する。	
			財政学1		情報を収集し、政策課題としての環境税や金融取引税、国際連帯税などグローバルな規模での課税制度について理解することを目的として、経済学の解説から始め、租税論に関する文献の輪読・議論及びグローバル化と税制に関する文献の輪読・議論を中心に行う。	
			西洋経済史1		自分自身の家族・家系などを振り返ってみようような基本的なところからはじめたうえで、われわれの営む日常生活は、実はその本質のところでは世界的にいつでも相当に普遍性をもつものであることを、近年蓄積の著しいいくつかの研究分野でのアプローチと成果を通してじっくり学んでいく。基本は文献の輪読である。その上で教官が海外および国内調査でえた映像データも含む資料の分析と野外調査も随時おこなう。	
			マーケティング1		マーケティング・マネジメントの基本的枠組みについて理解するとともに、ブランド・マネジメントやリレーションシップ・マーケティングなど、近年のマーケティング分野における重要トピックについてもその考え方を学ぶ。受講生は、テキストを決め、発表を行う。受講生は、テキストを決め、順番に発表を行う。指導教員のコメントを基に、他の受講生と議論する。	
			地域商業論1		商業者・流通業者による地域社会問題への対応行動を具体的事例に即して確認し、21世紀の流通および地域商業のあり方を展望する。具体的には、①生活必需品の安定供給；②広域流通による「外貨」の獲得；③地域コミュニティの成立基盤；④買い物弱者への対応；⑤地域内経済循環、といったトピックについて議論する。また、地域商業をとりまく相対的に新しい課題として、⑥補助金依存問題；⑦災害対応；⑧エリアマネジメントについても検討する。	
			原価計算論1		制度としての原価計算、すなわち原価計算基準に則った原価計算制度について考え、それぞれの原価計算方法について学ぶ。具体的に原価計算とは、生産に投入された原価財を費目別、部門別、製品別に集計し、製品単位原価を算定するプロセスだが、原価概念、計算方法を変えれば、原価は異なったものになる。原価概念、原価計算の基本的な考え方を理解することに主眼を置き、原価計算、管理会計分野を中心とした文献について議論する。	
			戦略的経営1		経営学に関する専門書を講読した上で、その内容について発表・議論を行う。特に環境－戦略－組織の戦略的適合の観点から、戦略的経営の基礎となる知識の習得を目指す。	
			生産管理論1		経営工学・生産管理の専門的な知識を確認しながら、生産管理に関する実例を用いて解説し、専門的な知識をさらに深める。授業は、次のテーマにそって進める。1. 生産管理システムの概要 2. 生産管理方式 3. 生産計画 4. スケジューリング 5. 在庫管理 6. 情報システム 7. 人的資源	
			経営管理論1		企業の経営目的を達成するために、特に企業の中核的活動としての「経営管理」について理解することにある。経営者の役割をふまえ、職場の人間関係（ステイクホルダー）の管理、経営の歴史と、SDGs推進の経営学などを解説する。また、現代における新しい資本主義の模索において、日本と世界の資本主義をふまえ、成長と分配の実現、経営革新、ブラックス労働、働き方改革、生産性向上、ダイバーシティ尊重、企業の創業・廃業などを念頭にいた上で、企業経営とSDGs推進を解説し検討する。 研究テーマ：経営管理・経営史・経営学・経営管理論とSDGs	
			情報産業論1		ネットワークの経済・経営的な側面に着目し、その背景にある基礎的な理論を身につけることを目標とする。また、情報産業および産業の情報化に関する現状についての基礎知識を身につける。	
			数理経済学1		確率を利用した動的モデルについて理解し、意思決定に活用できるようにすることを目的とし、経済学で利用される確率論、微分方程式、最適制御理論について基本的な知識を身につけるとともに、数学を使って社会現象をモデル化できるようにする。授業の開講形態は、遠隔隔同期型あり、確率の基礎→確率微分方程式→動的計画法→粘性解の手法の順に講義を進める。	メディア
			情報管理論1		情報倫理に関する専門書（洋書）を講読した上で、その内容について発表・議論を行う。授業は、次のテーマに沿って行う。①ガイダンスと文献の概要説明、②現代的な情報管理のための技術(2回)、③企業における情報管理の現状および課題(2回)、④オンライン環境における情報管理(2回) ④情報倫理に関わる理論のまとめ	
			組織学習論1		経験学習、組織学習、学習する組織に関連する専門書を講読し、内容に関する発表・議論を行う。組織学習のプロセスを理解し、個人が経験から学習したものを、組織としての学習に繋げていくメカニズムについて学習する。また、どのような経験や組織が学習を促すのか、学習する組織とはどのようなものか、について理解することを目的とする	
		理 論 応 用 科 目	ミクロ経済学2		ゲーム理論、行動経済学に関する基本的知識を身につけ、ゲーム理論的、行動経済学的な視点に立ち、論理的に分析し考察していく。応用ミクロ経済学、ゲーム理論、行動経済学のいずれかに関するテキストや文献を読み、ディスカッションを行う。ミクロ経済学的な思考を養い、実際にモデルを分析することで、自身の分析能力を養うことを目的とする。授業テーマは、ヒューリスティックと個人の選択行動・時間選好・リスク選択とプロスペクト理論・社会的選好	
			経済政策2		戦後の世界経済の発展や日本経済の停滞を概観し、今日日本政府が採用しているアベノミクスについて、その要点を確認する。テキストリーディングで見えていく。同時に、日米同盟の変容の内容を確認しつつ、アベノミクスが日本の経済社会をどこに導こうとしているのか、考察し、議論する。	
			財政学2		財政学1での学びを基に、人的資本投資や教育・文化・環境保全の必要性が高まる中で、国家が何に投資していくべきか考察できるようにすることを目的として、輪読文献を選定し、財政学・社会保障制度・租税論・財政政策に関する文献の輪読及び議論を行う。	
			西洋経済史2		われわれの営む日常生活は、実はその本質のところでは世界的にいつでも相当に普遍性をもつものであることを、近年蓄積の著しいいくつかの研究分野でのアプローチと成果を通してじっくり学んでいく。基本は文献の輪読である。その上で教官が海外および国内調査でえた映像データも含む資料の分析と野外調査も随時おこなう。	
			マーケティング2		マーケティング・マネジメントの基本的枠組みについて理解するとともに、ブランド・マネジメントやリレーションシップ・マーケティングなど、近年のマーケティング分野における重要トピックについてもその考え方を学ぶ。受講生は、テキストを決め、順番に発表を行う。指導教員のコメントを基に、他の受講生と議論する。	
			地域商業論2		地域商業論1の履修を前提としつつ、地域商業研究の主要論点を、学説史的観点にウェイトを置きながら議論する。具体的には、①戦前の商業組合運動；②石川栄耀の盛り場論；③岡本理一の「地域商業」概念；④伊勢湾台風と商店街振興組合法；⑤経済的効率性と社会的有効性（『80年代の流通産業ビジョン』）；⑥杉岡碩夫の「地域主義」；⑦『大型店問題』（田村正紀）；⑧社会的有効性をめぐる阿部真也の問題提起；⑨商業者・流通業者の行動類型をめぐる議論；⑩TCMおよびCBDをめぐる英語圏の議論；⑪木下斉の評論；⑫政策評価のための議論（渡邊達朗）；⑬小売業の文化表現力（矢作敏行）などの論点を中心に議論する。	
			原価計算論2		原価計算1の内容を踏まえた上で、制度としての原価計算、すなわち原価計算基準に則った原価計算制度について考えるとともに、それらを元に発展してきた原価計算方法について学ぶことを中心とする。原価計算、管理会計分野を中心とした文献について議論する形式である。	
			戦略的経営2		経営学に関する専門書を講読し、関連事例を分析した上でその内容について発表・議論を行う。具体的には、プラットフォームビジネスや情報サービス産業などの具体的な事業や産業に焦点を当てて検討し、経営環境の分析、多角化や事業連携による企業成長、コストや品質を通じての同業他社との競争、新事業創造やビジネスモデル開発のための各種フレームワークなどについてのより進んだ理論を身につける。	
			生産管理論2		経営工学・生産管理の専門的な知識を確認しながら、生産管理に関する実例を用いて解説し、専門的な知識をさらに深める。授業は、次のテーマにそって進める。1. 生産管理システムの概要 2. 生産管理方式 3. 生産計画 4. スケジューリング 5. 在庫管理 6. 情報システム 7. 人的資源	

専 門 科 目 （ 理 論 科 目 ）	経 済 ・ 経 営 コ ー ス 目	経営管理論2		企業の経営目的を達成するために、特に企業の中核的活動としての「経営管理」について理解する。経営者の役割をふまえ、職場の人間関係（ステイクホルダー）の管理、経営の歴史、SDGs推進の経営学などを解説する。また、現代における新しい資本主義の構築において、日本と世界の資本主義をふまえ、成長と分配の実現、経営革新、ブラック労働、働き方改革、生産性向上、ダイバーシティ尊重、企業の創業・廃業などを念頭において、企業経営とSDGs推進および中小企業、顧客への支援を解説し検討する 研究テーマ：経営管理論とSDGs・経営管理と中小企業。経営管理論と観光業	
		情報産業論2		ネットワークの経済・経営的な側面に着目し、その背景にある基礎的な理論を身につけることを目標とする。	
		数理経済学2		確率を利用した動的モデルについて理解し、意思決定に応用できるようにすることを目的とし、経済学で利用される確率論、微分方程式、最適制御理論について基本的な知識を身につけるとともに、数学を使って社会現象をモデル化できるようにする。授業の閉鎖形態は、遠隔同期型あり、確率の基礎→確率微分方程式→動的計画法→粘性解の手法の順に講義を進める。	メディア
		情報管理論2		情報倫理に関する専門書（洋書）を講読した上で、その内容について発表・議論を行う。授業は、次のテーマに沿って行う。①ガイダンスと文献の概要説明、②ボリシーの真空状態と概念の混乱状況(2回)、③個人情報利用と保護に関する理論と事例(2回)、④相互監視状況下における情報管理の課題(2回)、⑤情報倫理研究の課題についてのまとめ	
		組織学習論2		組織学習論1で学習した理論に基づき、意識的に経験から学習し共有する試みを行う。相互作用がある状況での組織学習のプロセスを体験し、その支援について理解を深めることを目的とする。	
	環 境 ・ 資 源 マ ネ ジ ン グ コ ー ス	自然社会環境論1		地域社会を人間活動と生態系・環境が複雑に連関し相互作用する「社会生態系システム（Social-Ecological Systems）」と捉え、その複雑系としてのふるまいを把握し、管理していくための基礎理論を学ぶ。そのため、人間以外の行為者に注目した概念「multispecies」を中心に、関連するテーマ（資本主義、脱成長、トランスディシプリナリー・サイエンスなど）を学生が自分で選んだ本のもとに議論する。	
		環境マネジメント1		循環型経済（サーキュラーエコノミー）と企業の環境マネジメント活動の両立に向けて、環境マネジメントにおける多様なステークホルダーやターゲットを取り巻く諸環境を理解する。具体的には、①循環型経済の定義及びその意義、働き方改革、生産性向上、ダイバーシティ尊重、企業の創業・廃業などを念頭において、企業経営とSDGs推進および中小企業、顧客への支援を解説し検討する 研究テーマ：経営管理論とSDGs・経営管理と中小企業。経営管理論と観光業	
		アーバンデザイン論1		生活の質を向上させる公共空間の景観デザインの手法や効果、課題について広く学ぶことにより、公共空間のデザインを計画する上で配慮すべき点について理解し、手法についても検討できることを目的とする。 具体的には、文献・事例の調査を行う。	
		環境経済学1		世界で理解されている環境経済学・計量経済学の考え方を厳密に学ぶ。最近出版された、指定された教科書（英語）読み進める。英語の教科書を用いることで、英語スキルを学ぶだけでなく、国際的な視野やセンスを学んでいく。 本授業では、以下のいずれかを実施する。 1．最近出版された環境経済学の教科書（英語）を通して、世界で理解されている環境経済学の手法を学ぶ。現実の環境イノベーションや政策というテーマのディスカッションを行うこともある。 2．環境経済学分野の著名な国際雑誌における環境イノベーション関連の論文を中心に、その問い、仮定、識別、脆弱な点、新しいアイデアなどを考える。 3．環境イノベーションによる課題解決のために応用できる計量経済学の分析手法を学ぶ。	
		現代中国事情1		授業中取り上げられた現代中国諸事情に関するテーマに対して、自分なりのコメントを述べるようになることを目的とする。 現代中国事情に関するテキストを輪読しつつ、ディスカッションを行う。また格差問題理解の一助とすべく、中国農村部の写真を見る時間を一時間もうける。テキストは、受講生の興味・専門に沿って選定する。	
		健康マネジメント1		人の健康行動という行動のメカニズムに着目し、健康マネジメントに向けた基礎的な理論を身につけることを目的とする。具体的には、①心理的要因、②社会的要因、③環境的要因、④政策的要因の観点から健康行動のメカニズムを理解するための基礎的な知識を身につける。なお、喫煙に匹敵するほどの危険因子であり、健康行動の中で悪化の一途をたどっているにも関わらず十分な対策が講じられていない健康行動である身体活動を本授業では中心的に取り上げる。 授業テーマ：①健康マネジメント、②エコロジカルモデル、③身体活動と心理的要因、④身体活動と社会的要因、⑤身体活動と環境的要因、⑥身体活動と政策的要因、⑦身体活動と各種要因の相互作用	
		比較地域論1		急速なグローバル化の進行のなかで、各地域に存在する産業や生活環境には大きな影響がもたらされており、かつ地域間の関係性や競合も強まっていると考えられる。本講義では、地域間比較や経済地理的観点から、こうした動向をとらえる基礎的な理論を身につけることを目標とする。同時に、地域社会の成立に大きく影響する自然環境および社会環境の諸要素についての基礎知識を身につける。具体的には、①地域および地域産業の現状とこれに関わる自然・社会環境の有り様、②地域産業の内的および外的要因による変化と課題、③地域間比較を通じた、地域の強み・弱みの発見、に関する基礎的な知識を身につける。	
		地理情報システム論1		地理学等の地理情報システムに関する論文の通読・発表・議論を通じて、地理情報に関わる各種概念の理解および地理情報に関わる情報技術である地理情報システムを用いた空間分析の基本的な知識の理解を深める。	
		農山漁村社会論1		歴史の節目ごとに生業、暮らし、文化が発展・衰退してきた農山漁村について、地域社会と生業の変遷と実態を俯瞰する。暮らし、文化、生業、共同体等を一体的なものとしてとらえ、これらが地勢や時代背景によって多様性に富んでいる状況を理解する。	
		地域組織論1		農業・農村をめぐる諸問題をおさえ、農業分野における地域組織の特徴について事例を通して俯瞰する。そして新規就農者（農業以外からの新規参入者）が直面する課題について行政、農協、農業団体等がどのような支援体制を行っているか、また新規就農者はどのような対応を望んでいるかについて学ぶとともに、学生相互で意見交換を行い地域組織のあり方について考察する。	
		アジア社会発展論1		経済発展とグローバル化が進むアジアにおいて、持続可能な社会のあり方を考えていくための基礎知識を学び、考察の視点を養うことを目標とする。本授業では、東南アジア、特にインドネシアの事例を中心に、日本や他地域との比較を随時試みる。具体的には、発展・開発(development)という言葉がアジア社会でどのように使われ、いかなる政策として展開され、どのような社会変化を生み出してきたかを、歴史をたどりながら概説する。また、アジア社会における「参加型開発」や「持続可能な開発」、SDGsの取組み方など、発展・開発をめぐるトピックを取りあげ、ディスカッションを行う。	
		地域マネジメント1		地域をマネジメントする視点の意義、主体を学び、観光文化、商店街、地産地消、環境などの地域資源をもちいた地域マネジメントの事例紹介を通して、その特徴を解釈するための資源を学ぶ。また、愛媛県の地域活性化をテーマとした地域マネジメントの企画立案を行う。 状況に応じて、同期型（zoom）と非同同期型（YouTube、moodle等）を組み合わせる実施することがある。	
		観光文化学1		観光及び文化に関する専門的な知識を学術論文発表を通して確認しながら、諸現象を事例に用いて解説し、専門的な知識をさらに深める。また、授業のテーマに従って、研究ディスカッションを行う。 1．イントロダクション-観光文化と学術領域- 2．登山者の行動からみる山岳観光（1）（2） 3．農村空間の商品化（1）（2） 4．観地域イメージの形成（1） 5．地域イメージの形成（1）	
		文化財学1		有形文化財（特に古建築・絵馬・石造物）の見方（講義）やそれに関する資料収集と分析および報告（演習）を行う。研究対象とする文化財の独自性や特色を理解し、文化財と地域との関わりを論じる。	
		公共ガバナンス		社会基盤整備に関わるガバナンスの概念や課題について、政治学や経済学の知見を踏まえつつ説明するとともに、民主主義論、行政評価論、建設マネジメント論、災害危機管理論、市民参加と合意形成論等の関連テーマについて、演習形式の授業も取り入れつつ、総合的に学ぶ。	

専 門 科 目 （ 理 論 科 目 ）	環 境 ・ 資 源 マ ネ ジ ン グ メ ソ ド	環 境 学 科 目 コ ー ス	自然社会環境論2		地域社会を人間活動と生態系・環境が複雑に連関し相互作用する「社会生態系システム（Social-Ecological Systems）」と捉え、その複雑系としてのふるまいを把握し、管理していくための基礎理論を学ぶ。そのため、人間以外の行為者に注目した概念「multispecies」を中心に、関連するテーマ（資本主義、脱成長、トランスディシプリナリー・サイエンスなど）を学生が自分で選んだ本のもとに議論する。	
			環境マネジメント2		環境マネジメント1の履修を前提に、循環型経済（サーキュラーエコノミー）及びSDG（持続可能な開発目標）と企業の環境マネジメント活動との両立可能な姿を、多くの事例分析を基に議論する。具体的には、①日本国内は勿論、他国の先進的な環境マネジメント活動、②循環型経済と環境マネジメントを両立させている事例、③SDG達成に向けて行われている企業の環境マネジメント活動、の理解を基にこれからの環境マネジメントの姿を議論する。	
			アーバンデザイン論2		アーバンデザイン論1で行った文献及び事例の調査を基に、各自が設定した課題に対して発表を行う。生活の質を向上させる公共空間の景観デザインの手法や効果、課題について考察を深め、公共空間のデザインを計画する上で配慮すべき点について理解し、手法についても検討できるようになる。	
			環境経済学2		世界で理解されている環境経済学・計量経済学の考え方を厳密に学ぶ。最近出版された、指定された教科書（英語）読み進める。英語の教科書を用いることで、英語スキルを学ぶだけでなく、国際的な視野やセンスを学んでいく。 本授業では、以下のいずれかを実施する。 1. 最近出版された環境経済学の教科書（英語）を通して、世界で理解されている環境経済学の手法を学ぶ。現実の環境イノベーションや政策というテーマのディスカッションを行うこともある。 2. 環境経済学分野の著名な国際雑誌における環境イノベーション関連の論文を中心に、その間い、仮定、識別、脆弱な点、新しいアイデアなどを考える。 3. 環境イノベーションによる課題解決のために応用できる計量経済学の分析手法を学ぶ。	
			現代中国事情2		授業中取り上げられた現代中国諸事情に関するテーマに対して、自分なりのコメントを述べるができるようになることを目的とする。現代中国事情に関するテキストを輪読しつつ、ディスカッションを行う。また格差問題理解の一助とすべく、中国農村部の写真を見る時間を一時間もうける。テキストは、受講生の興味・専門に沿って選定する。	
			健康マネジメント2		人の健康行動という行動のメカニズムに着目し、健康マネジメントに向けた基礎的な理論を身に付けることを目的とする。具体的には、①心理的要因、②社会的要因、③環境的要因、④政策的要因の観点から健康行動のメカニズムを理解するための基礎的な知識を身につける。なお、喫煙に匹敵するほどの危険因子であり、健康行動の中で悪化の一途をたどっているにも関わらず十分な対策が講じられていない健康行動である身体活動を本授業では中心的に取り上げる。 また、次のテーマについて、発表を行う。①個人に対する行動変容、②職場における集団レベルでの行動変容、③地域における集団レベルでの行動変容	
			比較地域論2		比較地域論1の履修を前提に、地域産業の成立・発展・停滞・衰退要因や今後の課題解決に向けた方向性についてより詳細な理論的理解および知識の獲得を目標とする。具体的には、①地場産業の発展・衰退の事例、②商品のブランド化による産業の新展開と課題、③観光や文化振興などと連携した新たな産業の動向、に関するより進んだ理論や分析視点などを身に付ける。	
			地理情報システム論2		受講者が任意に定める研究主題と目的に対して、地理情報を扱う情報技術である地理情報システム（GIS）を応用した空間解析を実施し、地理情報システムを用いた地理情報の基本的な空間分析の技能を身につける。	
			農山漁村社会論2		「農山漁村社会論1」で扱う地域社会と生業の変遷を前提とし、地域資源利用、経済循環、地域社会のあり方を展望する。さらに、海外や世界的な動向との比較も意識し、わが国の農山漁村の意義を明らかにする。 この授業は原則として体面および自己学習によって進めるが、感染等の状況に応じて同期型遠隔授業とする場合もある。	
			地域組織論2		地域組織論1を踏まえ、農業分野で起業し地域社会で活躍する事例実態から、より具体的な取り組みについて考察を深める。そのために愛媛県を中心に地域で活躍する組織の具体的な取り組みを学ぶとともに現地視察を行い、調査・意見交換等を行うことで、より具体的な地域組織についての考察を深める。	
			アジア社会発展論2		アジア社会発展論1の既履修者を対象として、アジアにおける持続可能な社会づくりを目指した実践例を題材に、その特徴、実現を支えた要因、課題を議論し、考察を深めることを目標とする。 具体的には、1)当該地域社会の特徴と歴史的背景、2)直面する課題に関わるステークホルダーの特徴、3)協働・実践を促した/阻んだ要因、4)外部者の関与のあり方に焦点をあてる。	
			地域マネジメント2		地域をマネジメントする視点の意義、主体を学び、観光文化、商店街、地産地消、環境などの地域資源をもちいた地域マネジメントの事例紹介を通して、その特徴を解釈するための資源を学ぶ。また、愛媛県の地域活性化をテーマとした地域マネジメントの企画立案を行う。 状況に応じて、同期型（Zoom）と非同期型（YouTube、moodle等）を組み合わせて実施することがある。	
			観光文化学2		観光及び文化に関する専門的な知識を学術論文発表を通して確認しながら、諸現象を事例に用いて解説し、専門的な知識をさらに深める。また、授業のテーマに従って、研究ディスカッションを行う。 授業のテーマは以下のとおり。 1. イントロダクション-観光文化と学術領域- 2. 観光地のSNS画像分析にみる観光行動（1）（2） 3. 旅行記からみる観光経験（1）（2） 4. 国立公園からみる観光のまなざし（1）（2）	
			文化財学2		文化財学1で有形文化財（特に古建築・絵馬・石造物）の調査法を学んだ上で、現地調査を行い、その結果を基に分析・考察し、報告をする。比較・検討を通じて研究対象とする文化財の独自性や特色を理解し、説明できることを目的とする。	

専 門 科 目	経 済 ・ 経 営 コ ー ス	プ ロ ジ ェ ク ト 研 究 科 目	経済理論プロジェクト研究		地域の企業・団体・自治体から提供された具体的な課題を、授業において取り組むプロジェクトの課題として設定し、調査および解決策の検討を行う。 経済理論プロジェクト研究では、「愛媛県内中小企業の景況感に対する実施調査と政策提言」をテーマとする。愛媛県内の景況感を把握する方法や調査結果をどのように活用しているか、愛媛県内の企業を抽出し、定量・定性分析を行い、これらの調査によって浮かび上がった問題を踏まえた政策提言を検討する。課題提供・協力先としては、愛媛県中小企業家同友会などを予定している。 (15 谷本 貴之) マーケティング分野 (12 高橋 勇介) 財政学分野 (14 中西 泰造) 経済政策分野	
			市場・流通プロジェクト研究		地域の企業・団体・自治体から提供された具体的な課題を、授業において取り組むプロジェクトの課題として設定し、調査および解決策の検討を行う。 地域企業の実践的課題、あるいはケーススタディーをテーマとする。企業・組織のマネジメントについて理論と実践の両面から、成功要因と課題を抽出し、定量・定性分析を通じてマネジメントの適切な方法を検討する。 (15 山口 信夫) 流通・地域商業分野	
			財務・金融プロジェクト研究		授業では、プロジェクト演習であることから、現実の社会で問題とされるテーマを研究対象としている。具体的には、地域の企業・団体・自治体から提供された財務・金融に関する具体的な課題を、授業において取り組むプロジェクトの課題として設定し、調査および解決策の検討を行う。またその成果を企業・団体・自治体などに対して報告し議論する。 (4 岡本 直之) 原価計算、会計分野	
			経営・管理プロジェクト研究		地域の企業・団体・自治体から提供された具体的な課題を、授業において取り組むプロジェクトの課題として設定し、調査および解決策の検討を行う。 地域企業の実践的課題、あるいはケーススタディーをテーマとする。企業・組織のマネジメントについて理論と実践の両面から、成功要因と課題を抽出し、定量・定性分析を通じてマネジメントの適切な方法を検討する。 開講形態は、対面授業と遠隔授業のハイブリット型とする。 (6 崔 英増) 戦略的経営、経営組織分野 (8 和田 寿博) 経営管理論、経営政策分野 (7 徐 祝旗) 生産管理論、経営工学分野 (13 田窪 実美) 組織学習、ゲーミング分野	
			情報・数理プロジェクト研究		地域の企業・団体・自治体から提供された具体的な課題を、授業において取り組むプロジェクトの課題として設定し、調査および解決策の検討を行う。またその成果を企業・団体・自治体などに対して報告し議論する。一連のプロジェクトへの取り組みから、情報あるいは数理分野における課題解決の能力を身につける。 (1 岡本 隆) 情報産業、電子商取引分野 (5 折戸 洋子) 経営情報、情報管理、個人情報保護分野 (3 川口 和仁) 経済数理解析分野	
	環 境 ・ 資 源 マ ネ ジ メ ン ト コ ー ス	プ ロ ジ ェ ク ト 研 究 科 目	環境政策プロジェクト研究		エネルギー/3R(リデュース、リユース、リサイクル)、環境汚染/自然保護区管理などの環境課題に関して、2名の教員と相談して自らの研究テーマを設定し、国内(必要に応じて海外も含むことが可能)の知社会を対象とした、環境政策にかかわる研究プロジェクトを立案する。フィールドワークの中でトランスディシプリナリー・アプローチを実践し、地域のステークホルダーと共に地域社会が広域的・国際的なシステムと価値を有効に活用することを支援する仕組み、地域の実践の広域的・国際的な価値を効果的に発信する仕組みを探究する。 この科目は、対面授業と遠隔授業のハイブリット型で行う。 (19 李 賢映) 環境マネジメント分野 (18 RUPPRECHT CHRISTOPH DAVID DIETFRIED) 地理学、持続可能性科学分野	
			ひと・まちづくりプロジェクト研究		地域に存在する様々な社会的・人的資源の活用を目的に地域の具体的なプロジェクトの課題を設定し、調査および解決策の検討を行う。またその成果をプロジェクトにおける協力者らと共有し議論する。一連のプロジェクトへの取り組みから、地域の活性化に大きく関わるまちづくり、人材育成の方法やそのための能力を、都市・地域計画論、防災計画論、土木計画論、防災工学論、地域景観論などの視点から身につける。具体的には、①現状把握、事前調査、調査設計、②行政・企業・団体などでのインタビュー調査、③分析、解決策の検討、④報告書の作成、報告会の実施および議論を行う。 (23 山本 直史) 健康・スポーツ科学分野 (22 山中 亮) スポーツ社会学分野 (27 片岡 由香) 景観デザイン分野 (24 笠松 浩樹) 農山漁村振興分野	
			地域資源プロジェクト研究		地域に存在する様々な社会的・人的資源の活用を目的にプロジェクトの課題を設定し、調査および解決策の検討を行う。またその成果をプロジェクトにおける協力者らと共有し議論する。一連のプロジェクトへの取り組みから、地域の活性化に大きく関わる地域資源の活用方法やそのための能力を、地域間比較、地理情報の活用、農山漁村振興、起業論などの視点から身につける。具体的には、①現状把握、事前調査、調査設計②企業・団体などでのインタビュー調査、③分析、解決策の検討④報告書の作成、報告会の実施および議論、を行う。 (10 淡野 寧彦) 経済地理、比較地域分野 (21 渡邊 敬造) 地理情報システム分野 (24 笠松 浩樹) 農山漁村経済分野 (28 山藤 篤) 起業・経営分野 (11 井口 梓) 観光学分野 (25 佐藤 大規) 文化財学分野	
	専 攻 共 通 演 習		産業システム創成演習		産業システムの総合的知見と理解力を涵養し、産業システムを多面的統合的に分析する能力を修得させる。幅広い専門分野の複数教員の集団指導の下、学生がこれまで履修したプロジェクト研究のテーマと研究成果をもとに、グループワークを行い、より広い課題(研究テーマ)を設定することで、産業システムへの多面的視点と知見を養う。また、学生の異なる専門知識とスキルを生かし、学生が自己組織化するチームでの検討と共同作業による地域課題を多面的統合的に検討し、有効かつ具体的な解決案を導き出し、チームの研究遂行ノウハウや研究分野の融合を体得する。	
			実践力育成特論		産業システム創成の各分野・テーマごとに実務者が実践的課題、ケーススタディ、解決事例を提供し、地域課題解決に必要な実践力を伝授するPBL学習を通して、課題把握力、チーム間・チーム内の調整力を体得し、実践力を高める。 (オムニバス方式/全8回) (7 徐 祝旗)/2回 第1回 ガイダンス 第5回 振り返りとまとめ (7 徐 祝旗・15 谷本 貴之/2回) (共同) 第2回 ビジネス実践ケーススタディ 第6回 PBL・グループワーク：課題整理 (22 山中 亮/2回) 第3回 まちづくり実践ケーススタディ 第4回 観光資源開発実践ケーススタディ (10 淡野寧彦/1回) 第5回 地域資源マネジメント実践ケーススタディ (22 山中 亮・10 淡野 寧彦/1回) (共同) 第7回 PBL・グループワーク：解決案の提案と検討	オムニバス・共同 (一部)
専 門 科 目	カ リ ア 形 成 科 目		インターンシップ実践		地域社会あるいは企業・自治体・NPOなどにおける諸問題を解決するためのキャリア形成を目指す学生を対象とし、大学内で修得した専門的知識・スキルの実践に関する業務を対象としてインターンシップを実施する。地域の企業・NPO・行政機関等における業務の中で、専門的な知識や技術を必要とする業務を体験することで、修得した知識・スキルの現場での活用法を学ぶ。また、業務中に発生する課題に対して、受入先と協力して解決策を見出すことで、専門的な知識・スキルの運用能力の向上と周囲との連携・協調の重要性を学ぶ。	共同

研究指導	産業システム創成研究指導	産業システム創成研究指導は、修士論文の作成に向けて、複数教員の指導の下、各学生の研究テーマについて研究を行う。具体的には、「研究計画の作成」、「既存研究に関する網羅的な文献探索・検討」、「課題の明確化・仮説提示」、「研究方法の検討」、「調査実施」、「調査結果の検討・仮説の検証」、「修士論文執筆の指導」、「修士論文の最終確認」の順に進めていく。授業では、研究の進捗状況を報告し、それに対しての教員や他の学生からの多角的な視点からのコメント・評価および助言に基づいて仮説の修正を繰り返し、研究をより洗練させていく。この授業をとおして、修士論文作成の指導を計画的に進める。 (1 岡本隆) 情報産業、情報ネットワーク産業、情報関連産業、あるいは既存の産業における情報化などを研究対象とし、先行研究を踏まえながら、理論的かつ実践的な研究になるよう研究指導を行う。 (2 曾我互由) 経済学的な分析方法を用いて、モデル分析および実証研究についての研究指導を行う。 (3 川口和仁) 経済経営問題を論理実証的に考察するため、確率・統計理論に基づく数理モデル分析についての研究指導を行う。 (4 岡本直之) 実務界において先進的に取り組まれている原価計算手法の分析や組織間管理会計研究を通じて、管理会計、原価計算における課題の研究指導を行う。 (6 崔英靖) 各種の経営現象を研究対象としての、戦略論・組織論の知見・手法を用いた調査・分析についての研究指導を行う。 (7 徐祝誠) 経営工学の研究手法を用いて、生産管理分野を中心に企業・組織体の経営活動の合理化と効率化を図る研究指導を行う。 (8 和田寿博) 地域の中小企業を研究対象とし、経営管理の調査・分析方法についての研究指導を行う。 (5 折戸洋子) ICTの開発や利用、情報システムと情報サービスの社会・経済への普及・浸透に伴って発生する倫理問題、特にビジネス組織に関わる倫理課題の考察についての研究・指導を行う。 (18 RUPPRECHT CHRISTOPH DAVID DIETFRID) 人類以外の生物種にも視野を広範に拡大した、マルチスピーシーズ（複数種）の概念を取り入れ、持続可能性フレームワークの開発と適応について研究指導を行う。 (9 秋谷裕幸) 現代中国における社会的、文化的な事柄を研究対象とし、社会科学的調査・分析方法についての研究指導を行う。 (10 淡野寧彦) 地域の社会・自然環境に関する学際的な理論と実践知に基づいて、地域社会の環境や諸資源に関する学際的な研究と実践に関する研究指導を行う。 (11 井口梓) 地域資源に関する様々な研究手法を用いて、地域における文化資源マネジメントについての研究指導を行う。 (20 島上宗子) 東南アジアの農村漁村での実地調査を基に、村落自治と地域資源管理に係る実践的な研究指導を行う。 (17 入江賢子) 統計学、経量経済学、環境経済学の手法を用いて、企業や自治体の気候変動緩和戦略を中心とする環境戦略の策定について研究指導を行う。 (23 山本直史) 疫学的研究手法を用いて、健康の維持・増進のための日常生活における至適身体活動パターンへの解明等、人々の活動習慣形成に資することについて研究指導を行う。	
	プロジェクト実践研究	プロジェクト実践研究は修士学位論文としてのリサーチペーパーの作成に向けて、複数の教員の指導の下で、学生が関心を持って解決したい地域または企業の具体的な課題をプロジェクトとして実践的に研究する。学生が専門領域に関する理論を学習すると同時に、現場が直面する課題を抽出・分析し、論理的に説得力を持って提案できる能力を養う。教員の指導の下で、知識・スキルを総合的に応用し、実社会の課題を多面的、重層的に調査研究し、解決策を導き出す。 学生はプロジェクト実践研究を通して、実社会の諸問題に対する持続的に関心を持ち、論理的な分析能力と課題解決能力を身につけ、自らに課したリサーチペーパーに帰結する。 プロジェクト実践研究は複数教員による集団指導体制の下で、研究指導および評価を実施する。DPの各項目に対するルーブリック評価を用いて、プロジェクト研究の質と量の両面を客観的に評価する。	

(注)

- 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の出発定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

国立大学法人 愛媛大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和8年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和9年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由	
愛媛大学				愛媛大学					
法学部	3年次			法学部	3年次				
人文社会学科	365	30	1,520	人文社会学科	365	30	1,520		
(昼間主コース)	275	10	1,120	(昼間主コース)	275	10	1,120		
(夜間主コース)	90	20	400	(夜間主コース)	90	20	400		
教育学部				教育学部					
学校教育教員養成課程	160	-	640	学校教育教員養成課程	160	-	640		
社会共創学部				社会共創学部					
産業マネジメント学科	70	-	280	産業マネジメント学科	70	-	280		
産業イノベーション学科	25	-	100	産業イノベーション学科	25	-	100		
環境デザイン学科	35	-	140	環境デザイン学科	35	-	140		
地域資源マネジメント学科	50	-	200	地域資源マネジメント学科	50	-	200		
理学部				理学部					
理学科	225	-	900	理学科	225	-	900		
医学部				医学部				定員変更(△15)	
医学科	110	2年次	5	医学科	95	2年次	5	医学部医学科の定員15人の増加については、令和8年度までの措置。	
看護学科	60	3年次	10	看護学科	60	3年次	0	編入学定員変更(△10)	
工学部				工学部					
工学科	530	3年次	10	工学科	530	3年次	10	2,140	
農学部				農学部					
食料生産学科	70	3年次	5	食料生産学科	70	3年次	5	290	
生命機能学科	45	2	184	生命機能学科	45	2	184		
生物環境学科	55	3	226	生物環境学科	55	3	226		
計	1,800	2年次 3年次	5 60	7,490	計	1,785	2年次 3年次	5 50	7,455
愛媛大学大学院				愛媛大学大学院					
人文社会科学研究科				人文社会科学研究科					
法文学専攻(M)	12	-	24	法文学専攻(M)	12	-	24		
(うち、法文学専攻から地域レジリエンス学環の内数とする入学定員数及び収容定員数)	(1)	-	(2) ※2	(うち、法文学専攻から地域レジリエンス学環の内数とする入学定員数及び収容定員数)	(1)	-	(2) ※2		
産業システム創成専攻(M)	8	-	16	産業システム創成専攻(M)	8	-	16		
(うち、産業システム創成専攻から地域レジリエンス学環の内数とする入学定員数及び収容定員数)	(1)	-	(2) ※2	(うち、産業システム創成専攻から地域レジリエンス学環の内数とする入学定員数及び収容定員数)	(1)	-	(2) ※2		
<u>人文社会科学専攻(D)</u>	5	-	15	<u>人文社会科学専攻(D)</u>	5	-	15	研究科の専攻の設置(意見伺い)	
教育学研究科				教育学研究科					
心理発達臨床専攻(M)	10	-	20	心理発達臨床専攻(M)	10	-	20		
教育実践高度化専攻(P)	40	-	80	教育実践高度化専攻(P)	40	-	80		
医学系研究科				医学系研究科					
医学専攻(D)	30	-	120	医学専攻(D)	30	-	120		
看護学専攻(M)	12	-	24	看護学専攻(M)	12	-	24		
(うち、看護学専攻から医農融合公衆衛生学環の内数とする入学定員及び収容定員数)	(2)	-	(4) ※1	(うち、看護学専攻から医農融合公衆衛生学環の内数とする入学定員及び収容定員数)	(2)	-	(4) ※1		
看護学専攻(D)	2	-	6	看護学専攻(D)	2	-	6		
理工学研究科				理工学研究科					
理工学専攻(M)	270	-	540	理工学専攻(M)	275	-	550	定員変更(5)	
(うち、理工学専攻から地域レジリエンス学環の内数とする入学定員数及び収容定員数)	(2)	-	(4) ※2	(うち、理工学専攻から地域レジリエンス学環の内数とする入学定員数及び収容定員数)	(2)	-	(4) ※2		
理工学専攻(D)	23	-	69	理工学専攻(D)	23	-	69		
(うち、理工学専攻からアドバンストソーシャルマネジメント学環の内数とする入学定員数及び収容定員数)	(5)	-	(15) ※3	(うち、理工学専攻からアドバンストソーシャルマネジメント学環の内数とする入学定員数及び収容定員数)	(5)	-	(15) ※3		
農学研究科				農学研究科					
食料生産学専攻(M)	26	-	52	食料生産学専攻(M)	26	-	52		
(うち、食料生産学専攻から医農融合公衆衛生学環の内数とする入学定員及び収容定員数)	(1)	-	(2) ※1	(うち、食料生産学専攻から医農融合公衆衛生学環の内数とする入学定員及び収容定員数)	(1)	-	(2) ※1		
(うち、食料生産学専攻から地域レジリエンス学環の内数とする入学定員数及び収容定員数)	(1)	-	(2) ※2	(うち、食料生産学専攻から地域レジリエンス学環の内数とする入学定員数及び収容定員数)	(1)	-	(2) ※2		
生命機能学専攻(M)	23	-	46	生命機能学専攻(M)	23	-	46		
生物環境学専攻(M)	23	-	46	生物環境学専攻(M)	23	-	46		
(うち、生物環境学専攻から医農融合公衆衛生学環の内数とする入学定員及び収容定員数)	(2)	-	(4) ※1	(うち、生物環境学専攻から医農融合公衆衛生学環の内数とする入学定員及び収容定員数)	(2)	-	(4) ※1		
(うち、生物環境学専攻から地域レジリエンス学環の内数とする入学定員数及び収容定員数)	(1)	-	(2) ※2	(うち、生物環境学専攻から地域レジリエンス学環の内数とする入学定員数及び収容定員数)	(1)	-	(2) ※2		
連合農学研究科				連合農学研究科					
生物資源生産学専攻(D)	9	-	27	生物資源生産学専攻(D)	9	-	27		
生物資源利用学専攻(D)	4	-	12	生物資源利用学専攻(D)	4	-	12		
生物環境保全学専攻(D)	4	-	12	生物環境保全学専攻(D)	4	-	12		
医農融合公衆衛生学環(M)	(5)	-	(10) ※1	医農融合公衆衛生学環(M)	(5)	-	(10) ※1		
地域レジリエンス学環(M)	(6)	-	(12) ※2	地域レジリエンス学環(M)	(6)	-	(12) ※2		
計	496	-	1,094	計	506	-	1,119		
※1 医農融合公衆衛生学環(M)の入学定員及び収容定員は、医学系研究科看護学専攻(M)、農学研究科食料生産学専攻(M)及び農学研究科生物環境学専攻(M)の内数とする。				※1 医農融合公衆衛生学環(M)の入学定員及び収容定員は、医学系研究科看護学専攻(M)、農学研究科食料生産学専攻(M)及び農学研究科生物環境学専攻(M)の内数とする。					
※2 地域レジリエンス学環(M)の入学定員及び収容定員は、人文社会科学研究科法文学専攻(M)、人文社会科学研究科法文学専攻(M)、人文社会科学研究科産業システム創成専攻(M)、理工学研究科理工学専攻(M)、農学研究科食料生産学専攻(M)及び農学研究科生物環境学専攻(M)の内数とする。				※2 地域レジリエンス学環(M)の入学定員及び収容定員は、人文社会科学研究科法文学専攻(M)、人文社会科学研究科法文学専攻(M)、人文社会科学研究科産業システム創成専攻(M)、理工学研究科理工学専攻(M)、農学研究科食料生産学専攻(M)及び農学研究科生物環境学専攻(M)の内数とする。					
※3 アドバンストソーシャルマネジメント学環(D)の入学定員及び収容定員は、理工学研究科理工学専攻(D)の内数とする。				※3 アドバンストソーシャルマネジメント学環(D)の入学定員及び収容定員は、理工学研究科理工学専攻(D)の内数とする。					